	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第3章	土工						
第3節	河川土工·砂防土工	1-3-3-2	1	掘削工			1-1
,,, ,,	,,,,		2	掘削工(面管理の場合)			1-1
		1-3-3-2	3	掘削工(水中部)(面管理 の場合)			1-2
		1-3-3-3	1	盛土工			1-3
			2	盛土工(面管理の場合)			1-3
		1-3-3-4		盛土補強工	補強土(テールアルメ)壁工法		1-4
					多数アンカー式補強土工 法		1-4
					シブオテキスタイルを用いた補 強土工法		1-4
		1-3-3-5		法面整形工	盛土部		1 - 4
		1-3-3-6		堤防天端工			1 - 4
第4節	道路土工	1-3-4-2	_	掘削工			1-5
		1 2 1 2		掘削工(面管理の場合)			1-5
		1-3-4-3	1	路体盛土工			1-6
			2	路体盛土工(面管理の場 合)			1-6
		1-3-4-4	1	路床盛土工			1-6
			2	路床盛土工(面管理の場 合)			1-6
		1-3-4-5		法面整形工	盛土部		1 - 7
第4章	無筋、鉄筋コンク	リート					
第6節	鉄筋工	1-4-6-4		組立て			1 - 7
第2章	一般施工						
第3節	共通的工種	1-2-3-4		矢板工(指定仮設・任意	鋼矢板		1-8
				仮設は除く)	軽量鋼矢板		1-8
					コンクリート矢板		1-8
					広幅鋼矢板		1-8
					可とう鋼矢板		1-8
		1-2-3-5		縁石工	縁石・アスカーブ		1-8
		1-2-3-6		小型標識工			1-8
		1-2-3-7		防止柵工	立入防止柵		1-8
					転落(横断)防止柵		1-8
				no to the set in the	車止めポスト		1-8
		1-2-3-8		路側防護柵工	カ・ート・レール		1-9
		1 0 0 0	2	路側防護柵工	カート・ケーフ・ル		1-9
1		1-2-3-9		区画線工	扣你我清無		1-9
ļ		1-9-9-10		送 取付居			
		1-2-3-10		道路付属物工	視線誘導標 距離煙		1-9
					距離標		1-9
		1-2-3-10 1-2-3-11 1-2-3-12	1	コンクリート面塗装工 プレテンション桁製作工			
		1-2-3-11	1 2	コンクリート面塗装工プレテンション桁製作工 (購入工)プレテンション桁製作工	距離標		1-9 1-10
		1-2-3-11 1-2-3-12		コンクリート面塗装工 プレテンション桁製作工 (購入工) プレテンション桁製作工 (購入工)	距離標けた橋		$ \begin{array}{r} 1 - 9 \\ 1 - 10 \\ 1 - 10 \\ \end{array} $ $ \begin{array}{r} 1 - 10 \\ \end{array} $
		1-2-3-11	2	コンクリート面塗装工プレテンション桁製作工 (購入工)プレテンション桁製作工	距離標 けた橋 スラフ [*] 桁		1-9 $1-10$ $1-10$
		1-2-3-11 1-2-3-12 1-2-3-13	2	コンクリート面塗装工プレテンション桁製作工(購入工)プレテンション桁製作工(購入工)ポープレテンション桁製作工(購入工)ポーストテンション桁製作工	距離標 けた橋 スラフ・桁 (購入工)		$ \begin{array}{r} 1 - 9 \\ 1 - 10 \\ 1 - 10 \\ 1 - 10 \\ 1 - 11 \end{array} $

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
	1-2-3-16	1	PC箱桁製作工			1 - 12
		2	PC押出し箱桁製作工			1-13
	1-2-3-17		根固めブロック工			1-13
	1-2-3-18		沈床工			1 - 14
	1-2-3-19		捨石工			1 - 14
	1-2-3-22		階段工			1 - 14
	1-2-3-24	1	伸縮装置工	コ゛ムシ゛ョイント		1 - 14
		2	伸縮装置工	鋼製フィンカーショイント		1-15
		3	伸縮装置工	埋設型ジョイント		1-15
	1-2-3-26	1	多自然型護岸工	巨石張、巨石積		1-15
		2	多自然型護岸工	カュごマット		1 - 15
	1-2-3-27	1	羽口工	じゃかご		1-16
		2	羽口工	ふとんかご、かご枠		1-16
	1-2-3-28		プレキャストカルバート工	プレキャストホックス工		1 - 16
				プレキャストハ゜イプ。エ		1 - 16
	1-2-3-29	1	側溝工	プレキャストU型側溝		1 - 17
				L型側溝工		1 - 17
				自由勾配側溝		1 - 17
				管渠		1 - 17
		2	側溝工	場所打水路工		1 - 17
		3	側溝工	暗渠工		1 - 17
	1-2-3-30		集水桝工			1-18
	1-2-3-31		現場塗装工			1-19
第4節 基礎工	1-2-4-1		一般事項	切込砂利		1 - 19
				砕石基礎工		1-19
				割ぐり石基礎工		1-19
				均しコンクリート		1-19
	1-2-4-3	1	基礎工(護岸)	現場打		1-19
		2	基礎工(護岸)	プレキャスト		1-20
	1-2-4-4	1	既製杭工	既製コンクリート杭		1-20
				鋼管杭		1 - 20
				H鋼杭		1-20
		2	既製杭工	鋼管製ソイルセメント杭		1-20
	1-2-4-5		場所打杭工			1-20
	1-2-4-6		深礎工			1-21
	1-2-4-7		オープンケーソン基礎工			1-21
	1-2-4-8		ニューマチックケーソン基礎工			1-21
	1-2-4-9		鋼管矢板基礎工			1-22
第5節 石・ブロック積(張)工	1-2-5-3	1	コンクリートブロック工	コンクリートフ・ロック積		1 - 22
				コンクリートブロック張		1-22
		2	コンクリートフ゛ロックエ	連節ブロック張		1-22
		3	コンクリートブロック工	天端保護ブロック		1-23
	1-2-5-4		緑化ブロック工			1-23
	1-2-5-5		石積(張)工			1-23
第6節 一般舗装工	1-2-6-6	4	橋面防水工	シート系床版防水層		1-24
	1-2-6-7	1	アスファルト舗装工	下層路盤工		1-25
			アスファルト舗装工	下層路盤工(面管理の 場合)		1-25
		2	アスファルト舗装工	上層路盤工(粒度調整路盤工)		1-26

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
		2	アスファルト舗装工	上層路盤工(粒度調整 路盤工)(面管理の場 合)		1-26
		3	アスファルト舗装工	上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)		1-27
		3	アスファルト舗装工	上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)(面管 理の場合)		1-27
		4	アスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理工		1-28
		4	アスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理工(面管理の場合)		1-28
		5	アスファルト舗装工	基層工		1 - 29
		5	アスファルト舗装工	基層工(面管理の場合)		1 - 29
		6	アスファルト舗装工	表層工		1-30
		6	アスファルト舗装工	表層工(面管理の場合)		1-30
	1-2-6-8	1	半たわみ性舗装工	下層路盤工		1-31
		1	半たわみ性舗装工	下層路盤工(面管理の 場合)		1-31
		2	半たわみ性舗装工	上層路盤工(粒度調整 路盤工)		1-32
		2	半たわみ性舗装工	上層路盤工(粒度調整 路盤工) (面管理の場 合)		1-32
		3	半たわみ性舗装工	上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)		1-33
		3	半たわみ性舗装工	上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)(面管 理の場合)		1-33
		4	半たわみ性舗装工	加熱アスファルト安定処理工		1-34
		4	半たわみ性舗装工	加熱アスファルト安定処理 工(面管理の場合)		1-34
		5	半たわみ性舗装工	基層工		1-35
		5	半たわみ性舗装工	基層工(面管理の場合)		1 - 35
		6	半たわみ性舗装工	表層工		1 - 36
		6	半たわみ性舗装工	表層工(面管理の場合)		1-36
	1-2-6-9	1	排水性舗装工	下層路盤工		1 - 37
		1	排水性舗装工	下層路盤工(面管理の 場合)		1-37
		2	排水性舗装工	上層路盤工(粒度調整 路盤工)		1-38
		2	排水性舗装工	上層路盤工(粒度調整 路盤工)(面管理の場 合)		1-38
		3	排水性舗装工	上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)		1-39
		3	排水性舗装工	上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)(面管 理の場合)		1-39
		4	排水性舗装工	加熱アスファルト安定処理工		1-40
		4	排水性舗装工	加熱アスファルト安定処理 工(面管理の場合)		1-40
		5	排水性舗装工	基層工		1-41
		5	排水性舗装工	基層工(面管理の場合)		1-41
		6	排水性舗装工	表層工		1-42
		6	排水性舗装工	表層工(面管理の場合)		1-42

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
	1-2-6-10	1	透水性舗装工	路盤工		1-43
		1	透水性舗装工	路盤工(面管理の場合)		1-43
		2	透水性舗装工	表層工		1-44
		2	透水性舗装工	表層工(面管理の場合)		1-44
	1-2-6-11	1	グースアスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理工		1-45
		1	グースアスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理 工(面管理の場合)		1-45
		2	グースアスファルト舗装工	基層工		1 - 46
		2	グースアスファルト舗装工	基層工(面管理の場合)		1 - 46
		3	グースアスファルト舗装工	表層工		1 - 47
		3	グースアスファルト舗装工	表層工(面管理場合)		1 - 47
	1-2-6-12	1	コンクリート舗装工	下層路盤工		1-48
		2	コンクリート舗装工	下層路盤工(面管理の場 合)		1-49
		3	コンクリート舗装工	粒度調整路盤工		1-50
		4	コンクリート舗装工	粒度調整路盤工(面管 理の場合)		1-51
		5	コンクリート舗装工	セメント(石灰・瀝青)安定 処理工		1-52
		6	コンクリート舗装工	セメント(石灰・瀝青)安定 処理工(面管理の場合)		1-53
		7	コンクリート舗装工	アスファルト中間層		1 - 54
		8	コンクリート舗装工	アスファルト中間層(面管理の場合)		1-55
		9	コンクリート舗装工	コンクリート舗装版工		1-56
		10	コンクリート舗装工	コンクリート舗装版工(面管 理の場合)		1-57
		11	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(下層 路盤工)		1-58
		12	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(下層 路盤工)(面管理の場合)		1-59
		13	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(粒度 調整路盤工)		1-60
		14	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(粒度 調整路盤工)(面管理の 場合)		1-61
		15	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(セメント (石灰・瀝青)安定処理 工)		1-62
		16	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(セメント (石灰・瀝青)安定処理 工)(面管理の場合)		1-63
		17	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(アスファ ルト中間層)		1-64
		18	コンクリート舗装工	転圧コングリート版工(アメノア ルト中間層)(面管理の場合)		1-65
		19	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工		1-66
		20	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(面管 理の場合)		1-67

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
	1-2-6-13	1	薄層カラー舗装工	下層路盤工		1-68
		2	薄層カラー舗装工	上層路盤工(粒度調整 路盤工)		1-68
		3	薄層カラー舗装工	上層路盤工(セメント(石 灰)安定処理工)		1-69
		4	薄層カラー舗装工	加熱アスファルト安定処理工		1-69
		5	薄層カラー舗装工	基層工		1-69
	1-2-6-14	1	ブロック舗装工	下層路盤工		1 - 70
		2	ブロック舗装工	上層路盤工(粒度調整 路盤工)		1-70
		3	ブロック舗装工	上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)		1-71
		4	ブロック舗装工	加熱アスファルト安定処理工		1-71
		5	ブロック舗装工	基層工		1 - 71
	1-2-6-15	1	路面切削工			1 - 72
		2	路面切削工	面管理の場合		1 - 72
	1-2-6-16		舗装打換え工			1 - 73
	1-2-6-17	1	オーバーレイ工			1 - 74
第7節 地盤改良工	1-2-7-2		路床安定処理工			1 - 75
	1-2-7-3		置換工			1 - 75
	1-2-7-4		表層安定処理工	サンドマット海上		1 - 76
	1-2-7-5		パイルネット工			1 - 76
	1-2-7-6		サント・マット工			1 - 77
	1-2-7-7		バーチカルトレーン工	サントトレーン工		1 - 77
				ヘ゜ーハ゜ート・レーンエ		1 - 77
				袋詰式サントトレーンエ		1 - 77
	1-2-7-8		締固め改良工	サント、コンハ。クションハ。イル工		1-77
	1-2-7-9		固結工	粉体噴射撹拌工		1 - 78
				高圧噴射撹拌工		1 - 78
				スラリー撹拌工 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) 第8編 固結エ(スラリー 撹拌工)・バーチカルドレーン工編」による管理 の場合		1-78
				生石灰パイルエ		1 - 78
第10節 仮設工	1-2-10-5	1	土留・仮締切工	H鋼杭		1 - 79
				鋼矢板		1 - 79
		2	土留·仮締切工	アンカーエ		1 - 79
		3	土留•仮締切工	連節ブロック張り工		1-80
		4	土留·仮締切工	締切盛土		1-80
		5	土留•仮締切工	中詰盛土		1-81
	1-2-10-9		地中連続壁工(壁式)			1-81
	1-2-10-10		地中連続壁工(柱列式)			1-81
	1-2-10-22		法面吹付工		1-2-14-3吹付工	1-88

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第11節 軽量盛土工	1-2-11-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1-6
第12節 工場製作工(共通)	1-2-12-1	1	一般事項	鋳造費(金属支承工)		1-82
		2	一般事項	鋳造費(大型ゴム支承工)		1-84
		3	一般事項	仮設材製作工		1-84
		4	一般事項	刃口金物製作工		1-85
	1-2-12-3	1	桁製作工	仮組検査を実施する場合		1-86
				シミュレーション仮立組検査を実施する場合		1-87
		2	桁製作工	仮組検査を実施しない 場合		1-88
		3	桁製作工	鋼製堰堤製作工(仮組 立時)		1-89
	1-2-12-4		検査路製作工			1-91
	1-2-12-5		鋼製伸縮継手製作工			1-91
	1-2-12-6		落橋防止装置製作工			1-91
	1-2-12-7		橋梁用防護柵製作工			1-91
	1-2-12-8		アンカーフレーム製作工			1-92
	1-2-12-9		プレビーム用桁製作工			1-92
	1-2-12-10		鋼製排水管製作工			1-93
	1-2-12-11		工場塗装工			1-93
第13節 橋梁架設工	1-2-13		架設工(鋼橋)	クレーン架設		1 - 94
				ケーフ・ルクレーン架設		1 - 94
				ケーフ・ルエレクション架設		1 - 94
				架設桁架設		1 - 94
				送出し架設		1 - 94
				トラヘブラークレーン架設		1 - 94
	1-2-13		架設工(コンクリート橋)	クレーン架設		1 - 95
				架設桁架設		1 - 95
			架設工支保工	固定		1 - 95
				移動		1 - 95
			架設桁架設	片持架設		1-95
				押出し架設		1-95
第14節 法面工(共通)	1-2-14-2	1	植生工	種子散布工		1 - 96
				張芝工		1-96
				筋芝工		1-96
				市松芝工		1-96
				植生シート工		1 - 96
				植生マット工		1-96
				植生筋工		1-96
				人工張芝工		1-96
				植生穴工		1-96
		2	植生工	植生基材吹付工		1 - 97
				客土吹付工		1 - 97
	1-2-14-3		吹付工(仮設を含む)	コンクリート		1-98
				モルタル		1-98
	1-2-14-4	1	法枠工	現場打法枠工		1-99
				現場吹付法枠工		1-99
		2	法枠工	プレキャスト法枠工		1-99
	1-2-14-6		アンカーエ			1-100

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第15節 擁壁工(共通)	1-2-15-1		一般事項	場所打擁壁工		1-101
	1-2-15-2		プレキャスト擁壁工			1 - 101
	1-2-15-3		補強土壁工	補強土(テールアルメ)壁工法		1-102
				多数アンカー式補強土工 法		1-102
				シブオテキスタイルを用いた補 強土工法		1-102
	1-2-15-4		井桁ブロックエ			1-102
第16節 浚渫工(共通)	1-2-16-3	1	浚渫船運転工	ポンプ浚渫船		1-103
		2	浚渫船運転工	グラブ浚渫船 バックホウ浚渫船		1-103
		3	浚渫船運転工	グラブ浚渫船・バックホウ 浚渫船(面管理の場合)		1-104
第18節 床版工	1-2-18-2		床版工			1-105

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第1章	築堤•護岸						
第3節	軽量盛土工	3-1-3-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1-6
第4節	地盤改良工	3-1-4-2		表層安定処理工		1-2-7-4表層安定処理工	1 - 76
		3-1-4-3		パイルネット工		1-2-7-5ハ°イルネット工	1 - 76
		3-1-4-4		バーチカルドレーン工		1-2-7-7バーチカルドレーン工	1 - 77
		3-1-4-5		締固め改良工		1-2-7-8締固め改良工	1 - 77
		3-1-4-6		固結工		1-2-7-9固結工	1 - 78
第5節	護岸基礎工	3-1-5-3		基礎工		1-2-4-3基礎工(護岸)	1-19
		3-1-5-4		矢板工		1-2-3-4矢板工	1-8
第6節	矢板護岸工	3-1-6-3		笠コンクリート工		1-2-4-3基礎工(護岸)	1 - 19
		3-1-6-4		矢板工		1-2-3-4矢板工	1-8
第7節	法覆護岸工	3-1-7-3		コンクリートフ゛ロック工		1-2-5-3コンクリートブロック工	1-22
		3-1-7-4		護岸付属物工			3-1
		3-1-7-5		緑化ブロック工		1-2-5-4緑化ブロックエ	1 - 23
		3-1-7-6		環境護岸ブロックエ		1-2-5-3コンクリートブロック工	1 - 22
		3-1-7-7		石積(張)工		1-2-5-5石積(張)工	1 - 23
		3-1-7-8		法枠工		1-2-14-4法枠工	1 - 99
		3-1-7-9		多自然型護岸工	巨石張	1-2-3-26多自然型護岸工	1 - 15
					巨石積	1-2-3-26多自然型護岸工	1 - 15
					かごマット	1-2-3-26多自然型護岸工	1 - 15
		3-1-7-10		吹付工		1-2-14-3吹付工	1 - 98
		3-1-7-11		植生工		1-2-14-2植生工	1 - 96
		3-1-7-12		覆土工		1-3-3-5法面整形工	1 - 4
		3-1-7-13		羽口工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
					ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
					かご枠	1-2-3-27羽口工	1-16
					連節ブロック張	1-2-5-3コンクリートブロック工	1 - 22
第8節	擁壁護岸工	3-1-8-3		場所打擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1 - 101
		3-1-8-4		プレキャスト擁壁工		1-2-15-2プレキャスト擁壁工	1 - 101
第9節	根固め工	3-1-9-3		根固めブロック工		1-2-3-17根固めブロック工	1 - 13
		3-1-9-5		沈床工		1-2-3-18沈床工	1 - 14
		3-1-9-6		捨石工		1-2-3-19捨石工	1 - 14
		3-1-9-7		かご工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1-16
					ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
第10節	水制工	3-1-10-3		沈床工		1-2-3-18沈床工	1 - 14
		3-1-10-4		捨石工		1-2-3-19捨石工	1 - 14
		3-1-10-5		かご工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
					ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
		3-1-10-8		杭出し水制工			3-1
第11節	付帯道路工	3-1-11-3		路側防護柵工		1-2-3-8路側防護柵工	1-9
		3-1-11-5		アスファルト舗装工		1-2-6-7アスファルト舗装工	1-25
		3-1-11-6		コンクリート舗装工		1-2-6-12コンクリート舗装工	1 - 48
		3-1-11-7		薄層カラー舗装工		1-2-6-13薄層カラー舗装工	1-68
		3-1-11-8		ブロック舗装工		1-2-6-14ブロック舗装工	1 - 70
		3-1-11-9		側溝工		1-2-3-29側溝工	1-17
		3-1-11-10		集水桝工		1-2-3-30集水桝工	1-18
		3-1-11-11		縁石工		1-2-3-5縁石工	1-8
		3-1-11-12		区画線工		1-2-3-9区画線工	1-9

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第12節	付带道路施設工	3-1-12-3		道路付属物工		1-2-3-10道路付属物工	1-9
		3-1-12-4		標識工		1-2-3-6小型標識工	1-8
第13節	光ケーブル配管工	3-1-13-3		配管工			3-1
		3-1-13-4		ハント・ホール工			3-2
第2章	浚渫(河川)						
第2節	浚渫工(ポンプ浚渫 船)	3-2-2-2		浚渫船運転工(民船·官 船)		1-2-16-3浚渫船運転工	1-103
第3節	浚渫工(グラブ浚渫船)	3-2-3-2		浚渫船運転工		1-2-16-3浚渫船運転工	1-103
第4節	浚渫工(バックホウ浚渫 船)	3-2-4-2		浚渫船運転工		1-2-16-3浚渫船運転工	1-103
第3章	樋門•樋管						
第3節	軽量盛土工	3-3-3-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1 - 6
第4節	地盤改良工	3-3-4-2		固結工		1-2-7-9固結工	1 - 78
第5節	樋門•樋管本体工	3-3-5-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1 - 20
		3-3-5-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1-20
		3-3-5-5		矢板工		1-2-3-4矢板工	1-8
		3-3-5-6	1	函渠工	本体工		3-2
			2	函渠工	ヒューム管		3-2
					PC管		3-2
					コルケートハペイプ。		3-2
					ダクタイル鋳鉄管		3-2
					PC函渠	1-2-3-28プレキャストカルバート 工	1-16
		3-3-5-7		翼壁工			3-3
		3-3-5-8		水叩工			3-3
第6節	護床工	3-3-6-3		根固めブロック工		1-2-3-17根固めブロックエ	1-13
		3-3-6-5		沈床工		1-2-3-18沈床工	1 - 14
		3-3-6-6		捨石工		1-2-3-19捨石工	1 - 14
		3-3-6-7		かご工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
					ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
第7節	水路工	3-3-7-3		側溝工		1-2-3-29側溝工	1 - 17
		3-3-7-4		集水桝工		1-2-3-30集水桝工	1 - 18
		3-3-7-5		暗渠工		1-2-3-29暗渠工	1 - 17
		3-3-7-6		樋門接続暗渠工		1-2-3-28プレキャストカルハート 工	1-16
第8節	付属物設置工	3-3-8-3		防止柵工		1-2-3-7防止柵工	1-8
		3-3-8-7		階段工		1-2-3-22階段工	1 - 14
第4章	水門						
第3節	工場製作工	3-4-3-3		桁製作工		1-2-12-3桁製作工	1-86
		3-4-3-4		鋼製伸縮継手製作工		1-2-12-5鋼製伸縮継手製 作工	1-91
		3-4-3-5		落橋防止装置製作工		1-2-12-6落橋防止装置製 作工	1-91
		3-4-3-6		鋼製排水管製作工		1-2-12-10鋼製排水管製作工	1-91
		3-4-3-7		橋梁用防護柵製作工		1-2-12-7橋梁用防護柵製 作工	1-91
		3-4-3-9		仮設材製作工		1-2-12-1仮設材製作工	1-84
		3-4-3-10		工場塗装工		1-2-12-11工場塗装工	1-93
第5節	軽量盛土工	3-4-5-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1-6

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第6節	水門本体工	3-4-6-4		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-21
		3-4-6-5		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1 - 21
		3-4-6-6		矢板工(遮水矢板)		1-2-3-4矢板工	1-8
		3-4-6-7		床版工			3-3
		3-4-6-8		堰柱工			3-3
第6節	水門本体工	3-4-6-9		門柱工			3 - 3
		3-4-6-10		ゲート操作台工			3-3
		3-4-6-11		胸壁工			3-3
		3-4-6-12		翼壁工		3-3-5-7翼壁工	3-3
		3-4-6-13		水叩工		3-3-5-8水叩工	3-3
第7節	護床工	3-4-7-3		根固めブロック工		1-2-3-17根固めブロックエ	1-13
) V. A	12,711-12	3-4-7-5		沈床工		1-2-3-18沈床工	1-14
		3-4-7-6		捨石工		1-2-3-19捨石工	1-14
		3-4-7-7		かご工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1-16
		0 1 1 1		W.C.T.	ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1-16
第8節	付属物設置工	3-4-8-3		防止柵工	3·2/0//-C	1-2-3-7防止柵工	1-8
ADORI)	门俩彻队但工	3-4-8-8		階段工		1-2-3-22階段工	1 - 14
第9節	鋼管理橋上部工	3-4-9-4		架設工(クレーン架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-94
わらい	到 日 任 简 上 印 上			架設工(ケーブ・ルクレーン架			
		3-4-9-5		設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-94
		3-4-9-6		架設工(ケーブルクエレクション 架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-94
		3-4-9-7		架設工(架設桁架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1 - 94
		3-4-9-8		架設工(送出し架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1 - 94
		3-4-9-9		架設工(トラベラークレーン架 設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-94
		3-4-9-10		支承工		6-4-5-10支承工	6-11
第10節	橋梁現場塗装工	3-4-10-2		現場塗装工		1-2-3-31現場塗装工	1 - 19
第11節	床版工	3-4-11-2		床版工		1-2-18-2床版工	1 - 105
第12節	橋梁付属物工(鋼管理	3-4-12-2		伸縮装置工		1-2-3-24伸縮装置工	1 - 14
	橋)	3-4-12-4		地覆工		6-4-8-5地覆工	6-13
		3-4-12-5		橋梁用防護柵工		6-4-8-6橋梁用防護柵工	6 - 13
		3-4-12-6		橋梁用高欄工		6-4-8-7橋梁用高欄工	6-13
		3-4-12-7		検査路工		6-4-8-8検査路工	6-13
第14節	コンクリート管理橋上部 工(PC橋)			プレテンション桁製作工(購入工)		1-2-3-12プレテンション桁製作工(購入工)	1-10
		3-4-14-3		ポストテンション桁製作工		1-2-3-13ポペトテンション桁製作工	1-11
		3-4-14-4		プレキャストセク・メント桁製作工 (購入工)		1-2-3-14プレキャストセク・メント桁 製作工(購入工)	1-11
		3-4-14-5		プレキャストセグメント主桁組立工		1-2-3-14プレキャストセク・メント主 桁組立工	1-11
		3-4-14-6		<u> </u>		6-4-5-10支承工	6-11
		3-4-14-7		架設工(クレーン架設)		1-2-13架設工(コンクリート橋)	1-94
		3-4-14-8		架設工(架設桁架設)		1-2-13架設工(コンクリート橋)	1-94
		3-4-14-9		床版·横組工		1-2-18-2床版工	1 - 105
		3-4-14-10		落橋防止装置工		6-4-8-3落橋防止装置工	6-13
第15節	コンクリート管理橋上部			支承工		6-4-5-10支承工	6-11
NATORI	エ(PCホロースラブ橋)	3-4-15-4		落橋防止装置工		6-4-8-3落橋防止装置工	6-11
	. 2 - 1147	0 1 10 4	-			1-2-3-15PCホロースラフ 製作	
		3-4-15-5		PCホロースラブ製作工		1-2-3-15PCホロースケノ 製作 工	1 - 12

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第16節	橋梁付属物工(コンク	3-4-16-2		伸縮装置工		1-2-3-24伸縮装置工	1-14
	リート管理橋)	3-4-16-4		地覆工		6-4-8-5地覆工	6 - 13
		3-4-16-5		橋梁用防護柵工		6-4-8-6橋梁用防護柵工	6-13
		3-4-16-6		橋梁用高欄工		6-4-8-7橋梁用高欄工	6-13
		3-4-16-7		検査路工		6-4-8-8検査路工	6-13
第18節	舗装工	3-4-18-5		アスファルト舗装工		1-2-6-7アスファルト舗装工	1 - 25
		3-4-18-6		半たわみ性舗装工		1-2-6-8半たわみ性舗装工	1-32
		3-4-18-7		排水性舗装工		1-2-6-9排水性舗装工	1-37
第18節	舗装工	3-4-18-8		透水性舗装工		1-2-6-10透水性舗装工	1-43
		3-4-18-9		グースアスファルト舗装工		1-2-6-11ゲースアスファルト舗装工	1-45
		3-4-18-10		コンクリート舗装工		1-2-6-12コンクリート舗装工	1-48
		3-4-18-11		薄層カラー舗装工		1-2-6-13薄層カラー舗装工	1-68
		3-4-18-12		ブロック舗装工		1-2-6-14ブロック舗装工	1 - 70
第5章	堰	•					•
第3節	工場製作工	3-5-3-3		刃口金物製作工		1-2-12-1刃口金物製作工	1-85
,,,		3-5-3-4		桁製作工		1-2-12-3桁製作工	1-86
		3-5-3-5		検査路製作工		1-2-12-4検査路製作工	1-91
		3-5-3-6		鋼製伸縮継手製作工		1-2-12-5鋼製伸縮継手製 作工	1-91
		3-5-3-7		落橋防止装置製作工		1-2-12-6落橋防止装置製 作工	1-91
		3-5-3-8		鋼製排水管製作工		1-2-12-10鋼製排水管製作 工	1-91
		3-5-3-9		プレビーム用桁製作工		1-2-12-9プレビーム用桁製作工	1-91
		3-5-3-10		橋梁用防護柵製作工		1-2-12-7橋梁用防護柵製 作工	1-91
		3-5-3-12		アンカーフレーム製作工		1-2-12-8アンカーフレーム製作 工	1-92
		3-5-3-13		仮設材製作工		1-2-12-1仮設材製作工	1-84
		3-5-3-14		工場塗装工		1-2-12-11工場塗装工	1-93
第5節	軽量盛土工	3-5-5-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1 - 6
第6節	可動堰本体工	3-5-6-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-20
		3-5-6-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1 - 20
		3-5-6-5		オープンケーソン基礎工		1-2-4-7オープンケーソン基礎 エ	1-21
		3-5-6-6		ニューマチックケーソン基礎工		1-2-4-8ニューマチックケーソン基 礎工	1-21
		3-5-6-7		矢板工		1-2-3-4矢板工	1-8
		3-5-6-8		床版工		3-4-6-7床版工	3 - 3
		3-5-6-9		堰柱工		3-4-6-8堰柱工	3-3
		3-5-6-10		門柱工		3-4-6-9門柱工	3-3
		3-5-6-11		ゲート操作台工		3-4-6-10ゲート操作台工	3-3
		3-5-6-12		水叩工		3-3-5-8水叩工	3-3
		3-5-6-13		閘門工			3-3
		3-5-6-14		土砂吐工			3-3
		3-5-6-15		取付擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1 - 101

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第7節	固定堰本体工	3-5-7-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-20
		3-5-7-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1-20
		3-5-7-5		オープンケーソン基礎工		1-2-4-7オープンケーソン基礎工	1-21
		3-5-7-6		ニューマチックケーソン基礎工		1-2-4-8ニューマチックケーソン基礎工	1-21
		3-5-7-7		矢板工		1-2-3-4矢板工	1-8
		3-5-7-8		堰本体工			3-3
		3-5-7-9		水叩工			3 - 3
		3-5-7-10		土砂吐工			3-3
		3-5-7-11		取付擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1 - 10
第8節	魚道工	3-5-8-3		魚道本体工			3-4
第9節	管理橋下部工	3-5-9-2		管理橋橋台工			3 - 4
第10節 鋼管3	鋼管理橋上部工	3-5-10-4		架設工(クレーン架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1 - 94
		3-5-10-5		架設工(ケーブ・ルクレーン架 設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-94
		3-5-10-6		架設工(ケーブ [*] ルエレクション 架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-94
		3-5-10-7		架設工(架設桁架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1 - 94
		3-5-10-8		架設工(送出し架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1 - 94
		3-5-10-9		架設工(トラベラークレーン架 設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-94
		3-5-10-10		支承工		6-4-5-10支承工	6-11
第11節	橋梁現場塗装工	3-5-11-2		現場塗装工		1-2-3-31現場塗装工	1-19
第12節	床版工	3-5-12-2		床版工		1-2-18-2床版工	1-105
第13節	橋梁付属物工(鋼管理	3-5-13-2		伸縮装置工		1-2-3-24伸縮装置工	1-14
	橋)	3-5-13-4		地覆工		6-4-8-5地覆工	6-13
		3-5-13-5		橋梁用防護柵工		6-4-8-6橋梁用防護柵工	6-13
		3-5-13-6		橋梁用高欄工		6-4-8-7橋梁用高欄工	6-13
		3-5-13-7		検査路工		6-4-8-8検査路工	6-13
第15節	コンクリート管理橋上部 工(PC橋)	3-5-15-2		プレテンション桁製作工(購入工)		1-2-3-12プレテンション桁製作工(購入工)	1-10
		3-5-15-3		ポストテンション桁製作工		1-2-3-13ポペストテンション桁製作工	1-11
		3-5-15-4		プレキャストセク・メント桁製作工 (購入工)		1-2-3-14プレキャストセク・メント桁製作工(購入工)	1-11
		3-5-15-5		プレキャストセク・メント主桁組立工		1-2-3-14プレキャストセク・メント主 桁組立工	1-11
		3-5-15-6		支承工		6-4-5-10支承工	6-11
		3-5-15-7		架設工(クレーン架設)		1-2-13架設工(コンクリート橋)	1 - 95
		3-5-15-8		架設工(架設桁架設)		1-2-13架設工(コンクリート橋)	1 - 95
		3-5-15-9		床版•横組工		1-2-18-2床版工	1-105
		3-5-15-10		落橋防止装置工		6-4-8-3落橋防止装置工	6-13
第16節	コンクリート管理橋上部 工(PCホロースラブ	3-5-16-3		支承工		6-4-5-10支承工	6-11
	(FCかロ・ヘノノ 橋)	3-5-16-4		落橋防止装置工		6-4-8-3落橋防止装置工	6-13
		3-5-16-5		PCホロースラブ*製作工		1-2-3-15PCホロースラブ*製作工	1-12
第17節	コンクリート管理橋上部	3-5-17-3		支承工		6-4-5-10支承工	6-11
	工(PC箱桁橋)	3-5-17-4		PC箱桁製作工		1-2-3-16PC箱桁製作工	1-12
		3-5-17-5		落橋防止装置工		6-4-8-3落橋防止装置工	6-13
第18節	橋梁付属物工(コンク	3-5-18-2		伸縮装置工		1-2-3-24伸縮装置工	1 - 14
	リート管理橋)	3-5-18-4		地覆工		6-4-8-5地覆工	6-13
		3-5-18-5		橋梁用防護柵工		6-4-8-6橋梁用防護柵工	6-13
		3-5-18-6		橋梁用高欄工		6-4-8-7橋梁用高欄工	6-13
		3-5-18-7		検査路工		6-4-8-8検査路工	6-13

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第20節	付属物設置工	3-5-20-3		防止柵工		1-2-3-7防止柵工	1-8
		3-5-20-7		階段工		1-2-3-22階段工	1-14
第6章	排水機場						
第3節	軽量盛土工	3-6-3-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1-6
	機場本体工	3-6-4-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-20
		3-6-4-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1-20
		3-6-4-5		矢板工		1-2-3-4矢板工	1-8
		3-6-4-6		本体工			3-5
		3-6-4-7		燃料貯油槽工			3-5
第5節	沈砂池工	3-6-5-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-20
		3-6-5-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1-20
		3-6-5-5		矢板工		1-2-3-4矢板工	1-8
		3-6-5-6		場所打擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1 - 10
		3-6-5-7		コンクリート床版工		200,100	3-5
		3-6-5-8		ブロック床版工		1-2-3-17根固めブロック工	1-13
		3-6-5-9		場所打水路工		1-2-3-29場所打水路工	1-17
第6節	吐出水槽工	3-6-6-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-20
> 14 ~ 94 4	<u> </u>	3-6-6-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1-20
		3-6-6-5		矢板工		1-2-3-4矢板工	1-8
		3-6-6-6		本体工		3-6-4-6本体工	3-5
笋7音	床止め・床固め						
第3節	軽量盛土工	3-7-3-2	l	軽量盛土工	T	1-3-4-3路体盛土工	1-6
		3-7-4-4		既製杭工		1-3-4-3路体盈工工	
第4節		-					1-20
		3-7-4-5		矢板工 + # # #		1-2-3-4矢板工	1-8
		3-7-4-6		本体工	床固め本体工	10557年(15) ア	3-6
					植石張根固めブロック	1-2-5-5石積(張)工	1-23
		3-7-4-7		取付擁壁工	校回めノロック	1-2-3-17根固めブロックエ	1-13
					1. nn	1-2-15-1場所打擁壁工	1-10
		3-7-4-8		水叩工	水叩工	10000000000000000000000000000000000000	3-6
					巨石張	1-2-3-26多自然型護岸工	1-15
55 = 55	中国ルエ	3-7-5-4		本堤工	根固めブロック	1-2-3-17根固めブロック工 3-7-4-6本体工	1-13
弗3即	床固め工						3-6
		3-7-5-5		垂直壁工		3-7-4-6本体工	3-6
		3-7-5-6		側壁工		0.7.4.044117	3-6
ht cht	1. 阿松晚子	3-7-5-7		水叩工		3-7-4-8水叩工	3-6
第6節	山留擁壁工	3-7-6-3		コンクリート擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1-10
		3-7-6-4		ブロック積擁壁工		1-2-5-3コンクリートブロックエ	1-22
		3-7-6-5		石積擁壁工		1-2-5-5石積(張)工	1-23
		3-7-6-6		山留擁壁基礎工		1-2-4-3基礎工(護岸)	1-19
	河川維持		-				
第7節	路面補修工	3-8-7-3		不陸整正工		1-3-3-6堤防天端工	1 - 4
		3-8-7-4		コンクリート舗装補修工		1-2-6-12コンクリート舗装工	1 - 48
		3-8-7-5		アスファルト舗装補修工		1-2-6-7アスファルト舗装工	1 - 25
第8節	付属物復旧工	3-8-8-2		付属物復旧工		1-2-3-8路側防護柵工	1-9
第9節	付属物設置工	3-8-9-3		防護柵工		1-2-3-7防止柵工	1-8
		3-8-9-5		付属物設置工		1-2-3-10道路付属物工	1-9
第10節	光ケーブル配管工	3-8-10-3		配管工		3-1-13-3配管工	3-1
		3-8-10-4		ハンドホールエ		3-1-13-4ハント・ホール工	3-2
第12節	植栽維持工	3-8-12-3		樹木·芝生管理工		1-2-14-2植生工	1-96

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第9章	: 河川修繕						
第3節	軽量盛土工	3-9-3-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1 - 6
第4節	腹付工	3-9-4-2		覆土工		1-3-4-5法面整形工	1 - 7
		3-9-4-3		植生工		1-2-14-2植生工	1 - 96
第5節	側帯工	3-9-5-2		縁切工	じゃかごエ	1-2-3-27羽口工	1-16
					連節ブロック張	1-2-5-3コンクリートブロック工	1-22
					コンクリートフ゛ロック張	1-2-5-3コンクリートフ・ロック工	1 - 22
					石張工	1-2-5-5石積(張)工	1 - 23
		3-9-5-3		植生工		1-2-14-2植生工	1-96
第6節	堤脚保護工	3-9-6-3		石積工		1-2-5-5石積(張)工	1 - 23
		3-9-6-4		コンクリートフ゛ロック工		1-2-5-3コンクリートブロック工	1-22
第7節	管理用通路工	3-9-7-2		防護柵工		1-2-3-7防止柵工	1-8
		3-9-7-4		路面切削工		1-2-6-15路面切削工	1 - 72
		3-9-7-5		舗装打換え工		1-2-6-16舗装打換え工	1 - 73
		3-9-7-6		オーバーレイ工		1-2-6-17オーバーレイエ	1 - 73
		3-9-7-7		排水構造物工	プレキャストU型側溝・管 (函)渠	1-2-3-29側溝工	1-17
					集水桝工	1-2-3-30集水桝工	1-18
		3-9-7-8		道路付属物工	歩車道境界ブロック	1-2-3-5縁石工	1-8
第8節	現場塗装工	3-9-8-3		付属物塗装工		1-2-3-31現場塗装工	1 - 19
		3-9-8-4		コンクリート面塗装工		1-2-3-11コンクリート面塗装工	1-10

【第4編 砂防編】

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第1章	砂防堰堤						
第3節	工場製作工	4-1-3-3		鋼製堰堤製作工		1-2-12-3桁製作工	1-89
		4-1-3-4		鋼製堰堤仮設材製作工			4-1
		4-1-3-5		工場塗装工		1-2-12-11工場塗装工	1-93
第5節	軽量盛土工	4-1-5-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1-6
	法面工	4-1-6-2		植生工		1-2-14-2植生工	1-96
		4-1-6-3		法面吹付工		1-2-14-3吹付工	1-98
		4-1-6-4		法枠工		1-2-14-4法枠工	1-99
		4-1-6-6		アンカーエ		1-2-14-6アンカーエ	1-10
		4-1-6-7		かご工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1-16
					ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1-16
第8節	コンクリート堰堤工	4-1-8-4		コンクリート堰堤本体工			4-1
		4-1-8-5		コンクリート副堰堤工		4-1-8-4コンクリート堰堤本体 エ	4-1
		4-1-8-6		コンクリート側壁工			4-1
		4-1-8-8		水叩工			4-2
第9節	鋼製堰堤工	4-1-9-5		鋼製堰堤本体工	不透過型		4-2
					透過型		4-3
		4-1-9-6		鋼製側壁工			4-5
		4-1-9-7		コンクリート側壁工		4-1-8-6コンクリート側壁工	4-1
		4-1-9-9		水叩工		4-1-8-8水叩工	4-2
		4-1-9-10		現場塗装工		1-2-3-31現場塗装工	1-19
第10節	護床工・根固め工	4-1-10-4		根固めブロックエ		1-2-3-17根固めブロックエ	1-13
		4-1-10-6		沈床工		1-2-3-18沈床工	1-14
		4-1-10-7		かご工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1-16
					ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1-16
第11節	砂防堰堤付属物設置 工	4-1-11-3		防止柵工		1-2-3-7防止柵工	1-8
第12節	付带道路工	4-1-12-3		路側防護柵工		1-2-3-8路側防護柵工	1-9
		4-1-12-5		アスファルト舗装工		1-2-6-7アスファルト舗装工	1-25
		4-1-12-6		コンクリート舗装工		1-2-6-12コンクリート舗装工	1-48
		4-1-12-7		薄層カラー舗装工		1-2-6-13薄層カラー舗装工	1-68
		4-1-12-8		側溝工		1-2-3-29側溝工	1-17
		4-1-12-9		集水桝工		1-2-3-30集水桝工	1-18
		4-1-12-10		縁石工		1-2-3-5縁石工	1-8
		4-1-12-11		区画線工		1-2-3-9区画線工	1-9
第13節	付带道路施設工	4-1-13-3		道路付属物工		1-2-3-10道路付属物工	1-9
		4-1-13-4		小型標識工		1-2-3-6小型標識工	1-8
第2章	流路						
第3節	軽量盛土工	4-2-3-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1-6
	流路護岸工	4-2-4-4		基礎工(護岸)		1-2-4-3基礎工(護岸)	1-19
4:		4-2-4-5		コンクリート擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1-10
		4-2-4-6		ブロック積擁壁工		1-2-5-3コンクリートフ・ロックエ	1-22
		4-2-4-7		石積擁壁工		1-2-5-5石積(張)工	1-23
		4-2-4-8		護岸付属物工		3-1-7-4護岸付属物工	3-1
		4-2-4-9		植生工		1-2-14-2植生工	1-96

【第4編 砂防編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第5節 床固め工	4-2-5-4		床固め本体工		4-1-8-4コンクリート堰堤本体 エ	4-1
	4-2-5-5		垂直壁工		4-1-8-4コンクリート堰堤本体 エ	4-1
	4-2-5-6		側壁工		4-1-8-6コンクリート側壁工	4 - 1
	4-2-5-7		水叩工		4-1-8-8水叩工	4-2
	4-2-5-8		魚道工			4 - 5
第6節 根固め・水制工	4-2-6-4		根固めブロック工		1-2-3-17根固めブロックエ	1-13
	4-2-6-6		捨石工		1-2-3-19捨石工	1 - 14
	4-2-6-7		かご工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
				ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
				かごマット	1-2-3-26多自然型護岸工	1 - 15
第7節 流路付属物設置工	4-2-7-2		階段工		1-2-3-22階段工	1 - 14
	4-2-7-3		防止柵工		1-2-3-7防止柵工	1-8
第3章 斜面対策						
第3節 軽量盛土工	4-3-3-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1-6
第4節 法面工	4-3-4-2		植生工		1-2-14-2植生工	1 - 96
	4-3-4-3		吹付工		1-2-14-3吹付工	1 - 98
	4-3-4-4		法枠工		1-2-14-4法枠工	1 - 99
	4-3-4-5		かご工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
				ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
	4-3-4-6		アンカーエ(プレキャストコンクリー ト板)		1-2-14-6アンカー工	1-100
	4-3-4-7		抑止アンカー工		1-2-14-6アンカーエ	1-100
第5節 擁壁工	4-3-5-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-20
	4-3-5-4		場所打擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1 - 101
	4-3-5-5		プレキャスト擁壁工		1-2-15-2プレキャスト擁壁工	1 - 101
	4-3-5-6		補強土壁工		1-2-15-3補強土壁工	1 - 102
	4-3-5-7		井桁ブロックエ		1-2-15-4井桁ブロック工	1 - 102
	4-3-5-8		落石防護工		6-1-11-5落石防護柵工	6 - 1
第6節 山腹水路工	4-3-6-3		山腹集水路·排水路工		1-2-3-29側溝工	1 - 17
	4-3-6-4		山腹明暗渠工			4 - 5
	4-3-6-5		山腹暗渠工		1-2-3-29暗渠工	1 - 17
	4-3-6-6		現場打水路工		1-2-3-29場所打水路工	1 - 17
	4-3-6-7		集水桝工		1-2-3-30集水桝工	1 - 18
第7節 地下水排除工	4-3-7-4		集排水ボーリング工			4 - 6
	4-3-7-5		集水井工			4 - 6
第8節 地下水遮断工	4-3-8-3		場所打擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1 - 101
	4-3-8-4		固結工		1-2-7-9固結工	1 - 78
	4-3-8-5		矢板工		1-2-3-4矢板工	1-8
第9節 抑止杭工	4-3-9-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1 - 20
	4-3-9-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1 - 20
	4-3-9-5		シャフトエ(深礎工)		1-2-4-6深礎工	1-21
	4-3-9-6		合成杭工			4 - 6

【第5編 ダム編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第1章 コンクリートダム						
第4節 ダムコンクリート工	5-1-4		コンクリートターム工	本体		5 - 1
	5-1-4		コンクリートタ゛ムエ	水叩		5 - 1
	5-1-4		コンクリートタ゛ムエ	副ダム		5-2
	5-1-4		コンクリートターム工	導流壁		5 - 3
第2章 フィルダム						
第3節 盛立工	5-2-3-5		コアの盛立			5 - 4
	5-2-3-6		フィルターの盛立			5 - 4
	5-2-3-7		ロックの盛立			5 - 4
	5-2		フィルダム(洪水吐)			5 - 5
第3章 基礎グラウチング						
第3節 ボーリングエ	5-3-3		ボーリング工			5 - 5

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第1章	道路改良						
第3節	工場製作工	6-1-3-2		遮音壁支柱製作工	遮音壁支柱製作工		6 - 1
					工場塗装工	1-2-12-11工場塗装工	1 - 92
第4節	地盤改良工	6-1-4-2		路床安定処理工		1-2-7-2路床安定処理工	1 - 74
		6-1-4-3		置換工		1-2-7-3置換工	1 - 74
		6-1-4-4		サント・マット工		1-2-7-6サンドマット工	1 - 76
		6-1-4-5		バーチカルトレーン工		1-2-7-7バーチカルドレーン工	1 - 76
		6-1-4-6		締固め改良工		1-2-7-8締固め改良工	1 - 76
		6-1-4-7		固結工		1-2-7-9固結工	1 - 77
第5節	法面工	6-1-5-2		植生工		1-2-14-2植生工	1 - 95
		6-1-5-3		法面吹付工		1-2-14-3吹付工	1 - 97
		6-1-5-4		法枠工		1-2-14-4法枠工	1-98
		6-1-5-6		アンカー工		1-2-14-6アンカー工	1 - 99
		6-1-5-7		かご工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
					ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
第6節	軽量盛土工	6-1-6-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1 - 6
第7節	擁壁工	6-1-7-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1 - 20
		6-1-7-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1-20
		6-1-7-5		場所打擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1-100
		6-1-7-6		プレキャスト擁壁工		1-2-15-2プレキャスト擁壁工	1-100
		6-1-7-7		補強土壁工	補強土(テールアルメ)壁工法	1-2-15-3補強土壁工	1-101
					多数アンカー式補強土工 法	1-2-15-3補強土壁工	1-101
					ジオテキスタイルを用いた補 強土工法	1-2-15-3補強土壁工	1-101
		6-1-7-8		井桁ブロックエ		1-2-15-4井桁ブロック工	1 - 101
第8節	石・ブロック積(張)工	6-1-8-3		コンクリートフ゛ロックエ		1-2-5-3コンクリートブロック工	1 - 22
		6-1-8-4		石積(張)工		1-2-5-5石積(張)工	1 - 23
第9節	カルバート工	6-1-9-4		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-20
		6-1-9-5		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1-20
		6-1-9-6		場所打函渠工			6-1
		6-1-9-7		プレキャストカルバート工		1-2-3-28プレキャストカルバート エ	1-16
	排水構造物工(小型水	6-1-10-3		側溝工		1-2-3-29側溝工	1 - 17
	路工)	6-1-10-4		管渠工		1-2-3-29側溝工	1 - 17
		6-1-10-5		集水桝・マンホール工		1-2-3-30集水桝工	1 - 18
		6-1-10-6		地下排水工		1-2-3-29暗渠工	1 - 17
		6-1-10-7		場所打水路工		1-2-3-29場所打水路工	1 - 17
		6-1-10-8		排水工(小段排水·縦排水)		1-2-3-29側溝工	1-17
第11節	落石雪害防止工	6-1-11-4		落石防止網工			6 - 1
		6-1-11-5		落石防護柵工			6 - 1
		6-1-11-6		防雪柵工			6-2
		6-1-11-7		雪崩予防柵工			6-2
第12節	遮音壁工	6-1-12-4		遮音壁基礎工			6-2
		6-1-12-5		遮音壁本体工			6 - 3

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第2章	舗装	•					
第3節	地盤改良工	6-2-3-2		路床安定処理工		1-2-7-2路床安定処理工	1 - 74
		6-2-3-3		置換工		1-2-7-3置換工	1 - 74
第4節	舗装工	6-2-4-5		アスファルト舗装工		1-2-6-7アスファルト舗装工	1 - 24
		6-2-4-6		半たわみ性舗装工		1-2-6-8半たわみ性舗装工	1-30
		6-2-4-7		排水性舗装工		1-2-6-9排水性舗装工	1-36
		6-2-4-8		透水性舗装工		1-2-6-10透水性舗装工	1-42
		6-2-4-9		グースアスファルト舗装工		1-2-6-11グースアスファルト舗装 工	1-44
		6-2-4-10		コンクリート舗装工		1-2-6-12コンクリート舗装工	1 - 47
		6-2-4-11		薄層カラー舗装工		1-2-6-13薄層カラー舗装工	1-67
		6-2-4-12		ブロック舗装工		1-2-6-14ブロック舗装工	1-69
		6-2-4		歩道路盤工			6-4
		6-2-4		取合舗装路盤工			6-4
		6-2-4		路肩舗装路盤工			6-4
		6-2-4		歩道舗装工			6-4
		6-2-4		取合舗装工			6-4
		6-2-4		路肩舗装工			6-4
		6-2-4		表層工			6-4
第5節	排水構造物工(路面排	6-2-5-3		側溝工		1-2-3-29側溝工	1-17
	水工)	6-2-5-4		管渠工		1-2-3-29側溝工	1-17
		6-2-5-5		集水桝(街渠桝)・マンホール工		1-2-3-30集水桝工	1-18
		6-2-5-6		地下排水工		1-2-3-29暗渠工	1-17
		6-2-5-7		場所打水路工		1-2-3-29場所打水路工	1-17
		6-2-5-8		排水工(小段排水·縦排水)		1-2-3-29側溝工	1-17
		6-2-5-9		排水性舗装用路肩排水 工			6-5
第6節	縁石工	6-2-6-3		縁石工		1-2-3-5縁石工	1-8
第7節	踏掛版工	6-2-7-4		踏掛版工	コンクリート工		6-5
,,,					ラバーシュー		6-5
					アンカーホ・ルト		6-5
第8節	防護柵工	6-2-8-3		路側防護柵工		1-2-3-8路側防護柵工	1-9
,,,		6-2-8-4		防止柵工		1-2-3-7防止柵工	1-8
		6-2-8-5		ボックスピーム工		1-2-3-8路側防護柵工	1-9
		6-2-8-6		車止めポルエ		1-2-3-7防止柵工	1-8
第9節	標識工	6-2-9-3		小型標識工		1-2-3-6小型標識工	1-8
		6-2-9-4	1	大型標識工	標識基礎工		6-5
			2	大型標識工	標識柱工		6-5
第10節	区画線工	6-2-10-2		区画線工		1-2-3-9区画線工	1-9
	道路付属施設工	6-2-12-4		道路付属物工		1-2-3-10道路付属物工	1-9
) V==X	X220 1 7 /1-1/2 EBX	6-2-12-5	1	ケーブル配管工		1 2 3 13 (22) 1 1 7 7 9 7 3 2 2	6-6
		0 2 12 0	<u> </u>	ケーブル配管工	ハント゛ホール		6-6
		6-2-12-6	Ť	照明工	照明柱基礎工		6-6
第13節	橋梁付属物工	6-2-13-2		伸縮装置工		1-2-3-24伸縮装置工	1-14
	橋梁下部	2 2 10 2	<u> </u>	11 7HWE-1	1		
第3節	工場製作工	6-3-3-2		刃口金物製作工		1-2-12-1刃口金物製作工	1-84
MOCK!	上勿 衣 [] 上	6-3-3-3		鋼製橋脚製作工		1 4 14 1万日並物表下上	6-7
		6-3-3-4		アンカーフレーム製作工		1-2-12-8アンカーフレーム製作	1-91
						I	
		6-3-3-5		工場塗装工		1-2-12-11工場塗装工	1 - 92
第5節	軽量盛土工	6-3-5-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1 - 6

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第6節	橋台工	6-3-6-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-20
		6-3-6-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1-20
		6-3-6-5		深礎工		1-2-4-6深礎工	1-21
第6節	橋台工	6-3-6-6		オープンケーソン基礎工		1-2-4-7オープンケーソン基礎 工	1-21
		6-3-6-7		ニューマチックケーソン基礎工		1-2-4-8ニューマチックケーソン基礎工	1-21
		6-3-6-8		橋台躯体工			6-8
		6-3-7-9	1	橋台躯体工	張出式 重力式 半重力式		6-8
			2	橋台躯体工	ラーメン式		6-10
第7節	RC橋脚工	6-3-7-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-20
		6-3-7-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1-20
		6-3-7-5		深礎工		1-2-4-6深礎工	1 - 21
		6-3-7-6		オープンケーソン基礎工		1-2-4-7オープンケーソン基礎工.	1-21
		6-3-7-7		ニューマチックケーソン基礎工		1-2-4-8ニューマチックケーソン基 礎工	1-21
		6-3-7-8		鋼管矢板基礎工		1-2-4-9鋼管矢板基礎工	1-22
		6-3-7-9	1	橋脚躯体工	張出式		6-9
					重力式		6-9
					半重力式		6-9
			2	橋脚躯体工	ラーメン式		6 - 10
第8節	鋼製橋脚工	6-3-8-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-20
		6-3-8-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1 - 20
		6-3-8-5		深礎工		1-2-4-6深礎工	1-21
		6-3-8-6		オープンケーソン基礎工		1-2-4-7オープンケーソン基礎 工	1-21
		6-3-8-7		ニューマチックケーソン基礎工		1-2-4-8ニューマチックケーソン基 礎工	1-21
		6-3-8-8		鋼管矢板基礎工		1-2-4-9鋼管矢板基礎工	1-22
		6-3-8-9	1	橋脚フーチンク゛エ	I型•T型		6 - 10
			2	橋脚フーチング工	門型		6 - 11
		6-3-8-10	1	橋脚架設工	I型•T型		6-11
			2	橋脚架設工	門型		6 - 11
		6-3-8-11		現場継手工			6-11
		6-3-8-12		現場塗装工		1-2-3-31現場塗装工	1 - 19
第9節	護岸基礎工	6-3-9-3		基礎工		1-2-4-3基礎工(護岸)	1-19
		6-3-9-4		矢板工		1-2-3-4矢板工	1-8
第10節	矢板護岸工	6-3-10-3		笠コンクリート工		1-2-4-3基礎工(護岸)	1 - 19
		6-3-10-4		矢板工		1-2-3-4矢板工	1-8
第11節	法覆護岸工	6-3-11-2		コンクリートブロック工		1-2-5-3コンクリートフ・ロック工	1-22
		6-3-11-3		護岸付属物工		3-1-7-4護岸付属物工	3-1
		6-3-11-4		緑化ブロック工		1-2-5-4緑化ブロック工	1-23
		6-3-11-5		環境護岸ブロック工		1-2-5-3コンクリートフ・ロック工	1-22
		6-3-11-6		石積(張)工		1-2-5-5石積(張)工	1-23
		6-3-11-7		法枠工		1-2-14-4法枠工	1-98
		6-3-11-8		多自然型護岸工	巨石張	1-2-3-26多自然型護岸工	1-15
				多自然型護岸工	巨石積	1-2-3-26多自然型護岸工	1-15
				多自然型護岸工	かごマット	1-2-3-26多自然型護岸工	1-15
		6-3-11-9		吹付工	1	1-2-14-3吹付工	1-97
		6-3-11-10		植生工		1-2-14-2植生工	1-95
		6-3-11-11		覆土工		1-3-4-5法面整形工	1-7

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
		6-3-11-12		羽口工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
					ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
					かご枠	1-2-3-27羽口工	1-16
					連節ブロック張	1-2-5-3コンクリートブロック工	1-22
第12節	擁壁護岸工	6-3-12-3		場所打擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1 - 100
		6-3-12-4		プレキャスト擁壁工		1-2-15-2プレキャスト擁壁工	1 - 100
第4章	橋梁上部						
第3節	工場製作工	6-4-3-3		桁製作工		1-2-12-3桁製作工	1 - 85
		6-4-3-4		検査路製作工		1-2-12-4検査路製作工	1 - 90
		6-4-3-5		鋼製伸縮継手製作工		1-2-12-5鋼製伸縮継手製 作工	1-90
		6-4-3-6		落橋防止装置製作工		1-2-12-6落橋防止装置製 作工	1-90
		6-4-3-7		鋼製排水管製作工		1-2-12-10鋼製排水管製作 工	1-92
		6-4-3-8		橋梁用防護柵製作工		1-2-12-7橋梁用防護柵製 作工	1-90
		6-4-3-9		橋梁用高欄製作工			6 - 12
		6-4-3-10		横断歩道橋製作工		1-2-12-3桁製作工	1 - 85
		6-4-3-12		アンカーフレーム製作工		1-2-12-8アンカーフレーム製作工	1-91
		6-4-3-13		工場塗装工		1-2-12-11工場塗装工	1 - 92
第5節	鋼橋架設工	6-4-5-4		架設工(クレーン架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1 - 93
		6-4-5-5		架設工(ケーブ ルクレーン架 設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-93
		6-4-5-6		架設工(ケーブ・ルエレクション 架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-93
		6-4-5-7		架設工(架設桁架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1 - 93
		6-4-5-8		架設工(送出し架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1 - 93
		6-4-5-9		架設工(トラベラークレーン架 設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-93
		6-4-5-10	1	支承工	鋼製支承		6 - 12
			2	支承工	ゴム支承		6 - 13
第6節	橋梁現場塗装工	6-4-6-3		現場塗装工		1-2-3-31現場塗装工	1 - 19
第7節	床版工	6-4-7-2		床版工		1-2-18-2床版工	1 - 104
第8節	橋梁付属物工	6-4-8-2		伸縮装置工		1-2-3-24伸縮装置工	1 - 14
		6-4-8-3		落橋防止装置工			6 - 14
		6-4-8-5		地覆工			6 - 14
		6-4-8-6		橋梁用防護柵工			6 - 14
		6-4-8-7		橋梁用高欄工			6 - 14
		6-4-8-8		検査路工			6 - 14
第9節	歩道橋本体工	6-4-9-3		既製杭工		1-2-4-4既製杭工	1-20
		6-4-9-4		場所打杭工		1-2-4-5場所打杭工	1-20
		6-4-9-5		橋脚フーチング工	I型	6-3-8-9橋脚フーチング工	6-10
					T型	6-3-8-9橋脚フーチング工	6-10
		6-4-9-6		歩道橋(側道橋)架設工		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-93
		6-4-9-7		現場塗装工		1-2-3-31現場塗装工	1 - 19

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第5章	コンクリート橋上部	·····································				•	
第3節	工担制/欠工	6-5-3-2		プレビーム用桁製作工		1-2-12-9プレビーム用桁製作	1-91
弗3即	工場製作工	0-5-3-2		/ レピーム用析製作工		工	1-91
		6-5-3-3		橋梁用防護柵製作工		1-2-12-7橋梁用防護柵製 作工	1-90
		6-5-3-4		鋼製伸縮継手製作工		1-2-12-5鋼製伸縮継手製 作工	1-90
		6-5-3-5		検査路製作工		1-2-12-4検査路製作工	1-90
		6-5-3-6		工場塗装工		1-2-12-11工場塗装工	1-92
第5節	PC橋工	6-5-5-2		プレテンション桁製作工 (購入工)	けた橋	1-2-3-12プレテンション桁 製作工(購入工)	1-10
					スラブ橋	1-2-3-12プレテンション桁 製作工(購入工)	1-10
		6-5-5-3		ポストテンション桁製作工		1-2-3-13ポストテンション桁製作工	1-11
		6-5-5-4		プレキャストセグメント桁製作工 (購入工)		1-2-3-14プレキャストセク・メント桁 製作工(購入工)	1-11
		6-5-5-5		プレキャストセグメント主桁組立 工		1-2-3-14プレキャストセクブメント主 桁組立工	1-11
		6-5-5-6		支承工		6-4-5-10支承工	6 - 12
		6-5-5-7		架設工(クレーン架設)		1-2-13 架設工(コンクリート 橋)	1-94
		6-5-5-8		架設工(架設桁架設)		1-2-13 架設工(コンクリート 橋)	1-94
		6-5-5-9		床版•横組工		1-2-18-2床版工	1 - 104
		6-5-5-10		落橋防止装置工		6-4-8-3落橋防止装置工	6 - 13
第6節	プレビーム桁橋工	6-5-6-2		プレビーム桁製作工	現場		6-14
		6-5-6-3		支承工		6-4-5-10支承工	6-11
		6-5-6-4		架設工(クレーン架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-93
		6-5-6-5		架設工(架設桁架設)		1-2-13 架設工(鋼橋)	1-93
		6-5-6-6		床版•横組工		1-2-18-2床版工	1-104
her a her	DOLL TEST	6-5-6-9		落橋防止装置工		6-4-8-3落橋防止装置工	6-14
第7節	PCホロースラブ橋工	6-5-7-3		支承工		6-4-5-10支承工	6-12
		6-5-7-4		PCホロースラフ・製作工		1-2-3-15PCホロースラフ 製作 工	1-12
		6-5-7-5		落橋防止装置工		6-4-8-3落橋防止装置工	6-14
第8節	RCホロースラブ橋工	6-5-8-3		支承工		6-4-5-10支承工	6-12
		6-5-8-4		RC場所打ホロースラフ [*] 製作 エ		1-2-3-15PCホロースラフ [*] 製作 エ	1-12
		6-5-8-5		<u>一</u> 落橋防止装置工		6-4-8-3落橋防止装置工	6-14
笙0笛	PC版桁橋工	6-5-9-2		PC版桁製作工		1-2-3-15PCホロースラフ 製作	1-12
						I	
弗10即	PC箱桁橋工	6-5-10-3		支承工		6-4-5-10支承工	6-12
		6-5-10-4		PC箱桁製作工		1-2-3-16PC箱桁製作工	1-12
55 1 1 55	DOLLHOWLE	6-5-10-5		落橋防止装置工		6-4-8-3落橋防止装置工	6-14
弗11即	PC片持箱桁橋工	6-5-11-2		PC片持箱桁製作工		1-2-3-16PC箱桁製作工	1-12
		6-5-11-3 6-5-11-4		支承工 架設工(片持架設)		6-4-5-10支承工 1-2-13架設工(コンクリート橋)	6-12 $1-94$
第12節	PC押出し箱桁橋工	6-5-12-2		PC押出し箱桁製作工		1-2-13未成工(-279)下橋/ 1-2-3-16PC押出し箱桁製作工	1-13
		6-5-12-3		架設工(押出し架設)		1-2-13架設工(コンクリート橋)	1-94
第13節	橋梁付属物工	6-5-13-2		伸縮装置工		1-2-3-24伸縮装置工	1-14
NATORH	IIN不口/四/7/1	6-5-13-4		地覆工		6-4-8-5地覆工	6-14
		6-5-13-5		橋梁用防護柵工		6-4-8-6橋梁用防護柵工	6-14
		6-5-13-6		橋梁用高欄工		6-4-8-7橋梁用高欄工	6-14
		6-5-13-7	\vdash	検査路工		6-4-8-8検査路工	6-14

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第6章	トンネル(NATM)					
第4節	支保工	6-6-4-3		吹付工			6-15
		6-6-4-4		ロックホールト工			6 - 15
第5節	覆工	6-6-5-3		覆エコンクリートエ			6-16
		6-6-5-4		側壁コンクリート工		6-6-5-3覆エコンクリートエ	6-16
		6-6-5-5		床版コンクリート工			6 - 16
第6節	インバートエ	6-6-6-4		インバート本体工			6 - 17
第7節	坑内付帯工	6-6-7-5		地下排水工		1-2-3-29暗渠工	1 - 17
第8節	坑門工	6-6-8-4		坑門本体工			6 - 17
		6-6-8-5		明り巻工			6 - 18
第11章	章 共同溝						
第3節	工場製作工	6-11-3-3		工場塗装工		1-2-12-11工場塗装工	1 - 92
第6節	現場打構築工	6-11-6-2		現場打躯体工			6-19
		6-11-6-4		カラー継手工			6-19
		6-11-6-5	1	防水工	防水		6-19
			2	防水工	防水保護工		6-19
			3	防水工	防水壁		6 - 20
第7節	プレキャスト構築工	6-11-7-2		プレキャスト躯体工			6 - 20
第12章	章 電線共同溝						
第5節	電線共同溝工	6-12-5-2		管路工	管路部		6 - 20
		6-12-5-3		プレキャストホ゛ックス工	特殊部		6-21
		6-12-5-4		現場打ちボックス工	特殊部	6-11-6-2現場打躯体工	6-19
第6節	付帯設備工	6-12-6-2		ハント・ホール工			6 - 21
第13章	章 情報ボックスコ						
第3節	情報ボックスエ	6-13-3-4		管路工	管路部	6-12-5-2管路工	6-20
第4節	付帯設備工	6-13-4-2		ハント・ホール工		6-12-6-2ハンドホールエ	6-21
第14章	章 道路維持						-
第4節	舗装工	6-14-4-3		路面切削工		1-2-6-15路面切削工	1 - 71
		6-14-4-4		舗装打換え工		1-2-6-16舗装打換え工	1 - 72
		6-14-4-5		切削オーバーレイエ		·	6-22
		6-14-4-6		オーバーレイエ		1-2-6-17オーバーレイエ	1-72
		6-14-4-7		路上再生工			6-23
		6-14-4-8		薄層カラー舗装工		1-2-6-13薄層カラー舗装工	1-67
第5節	排水構造物工	6-14-5-3		側溝工		1-2-3-29側溝工	1-17
		6-14-5-4		管渠工		1-2-3-29側溝工	1 - 17
		6-14-5-5		集水桝・マンホール工		1-2-3-30集水桝工	1-18
		6-14-5-6		地下排水工		1-2-3-29暗渠工	1-17
		6-14-5-7		場所打水路工		1-2-3-29場所打水路工	1-17
		6-14-5-8		排水工		1-2-3-29側溝工	1-17
第6節	防護柵工	6-14-6-3		路側防護柵工		1-2-3-8路側防護柵工	1-9
		6-14-6-4		防止柵工		1-2-3-7防止柵工	1-8
		6-14-6-5		ボックスビーム工		1-2-3-8路側防護柵工	1-9
		6-14-6-6		車止めポスト工		1-2-3-7防止柵工	1-8
第7節	標識工	6-14-7-3		小型標識工		1-2-3-6小型標識工	1-8
		6-14-7-4		大型標識工		6-2-9-4大型標識工	6-5
第8節	道路付属施設工	6-14-8-4		道路付属物工		1-2-3-10道路付属物工	1-9
		6-14-8-5		ケーフ・ル配管工		6-2-12-5ケーブル配管工	6-6
		6-14-8-6		照明工		6-2-12-6照明工	6-6
第9節	軽量盛土工	6-14-9-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1-6

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第10節	擁壁工	6-14-10-3		場所打擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1-101
		6-14-10-4		プレキャスト擁壁工		1-2-15-2プレキャスト擁壁工	1-101
第11節	石・ブロック積(張)工	6-14-11-3		コンクリートフ゛ロックエ		1-2-5-3コンクリートフ・ロック工	1-22
		6-14-11-4		石積(張)工		1-2-5-5石積(張)工	1-23
第12節	カルバート工	6-14-12-4		場所打函渠工		6-1-9-6場所打函渠工	6-1
		6-14-12-5		プレキャストカルバート工		1-2-3-28プレキャストカルハート 工	1-16
第13節	法面工	6-14-13-2		植生工		1-2-14-2植生工	1-96
		6-14-13-3		法面吹付工		1-2-14-3吹付工	1 - 98
		6-14-13-4		法枠工		1-2-14-4法枠工	1 - 99
		6-14-13-6		アンカー工		1-2-14-6アンカー工	1-100
		6-14-13-7		かご工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1-16
					ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1-16
第15節	橋梁付属物工	6-14-15-2		伸縮継手工		1-2-3-24伸縮装置工	1 - 14
		6-14-15-4		地覆工		6-4-8-5地覆工	6 - 13
		6-14-15-5		橋梁用防護柵工		6-4-8-6橋梁用防護柵工	6-13
		6-14-15-6		橋梁用高欄工		6-4-8-7橋梁用高欄工	6 - 13
		6-14-15-7		検査路工		6-4-8-8検査路工	6-13
第17節	現場塗装工	6-14-17-6		コンクリート面塗装工		1-2-3-11コンクリート面塗装工	1-10
第16章	章 道路修繕						
第3節	工場製作工	6-16-3-4		桁補強材製作工			6-24
		6-16-3-5		落橋防止装置製作工		1-2-12-6落橋防止装置製 作工	1-91
第5節	舗装工	6-16-5-3		路面切削工		1-2-6-15路面切削工	1 - 72
		6-16-5-4		舗装打換え工		1-2-6-16舗装打換え工	1 - 73
		6-16-5-5		切削オーバーレイエ		6-14-4-5切削オーバーレイエ	6-22
		6-16-5-6		オーバーレイ工		1-2-6-17オーバーレイエ	1 - 73
		6-16-5-7		路上再生工		6-14-4-7路上再生工	6 - 23
		6-16-5-8		薄層カラー舗装工		1-2-6-13薄層カラー舗装工	1 - 68
第6節	排水構造物工	6-16-6-3		側溝工		1-2-3-29側溝工	1-17
		6-16-6-4		管渠工		1-2-3-29側溝工	1 - 17
		6-16-6-5		集水枡・マンホール工		1-2-3-30集水桝工	1-18
		6-16-6-6		地下排水工		1-2-3-29暗渠工	1 - 17
		6-16-6-7		場所打水路工		1-2-3-29場所打水路工	1 - 17
		6-16-6-8		排水工		1-2-3-29側溝工	1 - 17
第7節	縁石工	6-16-7-3		縁石工		1-2-3-5縁石工	1 - 8
第8節	防護柵工	6-16-8-3		路側防護柵工		1-2-3-8路側防護柵工	1 - 9
		6-16-8-4		防止柵工		1-2-3-7防止柵工	1-8
		6-16-8-5		ボックスピーム工		1-2-3-8路側防護柵工	1-9
		6-16-8-6		車止めポルエ		1-2-3-7防止柵工	1-8
第9節	標識工	6-16-9-3		小型標識工		1-2-3-6小型標識工	1-8
		6-16-9-4		大型標識工		6-2-9-4大型標識工	6 - 5
第10節	区画線工	6-16-10-2		区画線工		1-2-3-9区画線工	1-9
第12節	道路付属施設工	6-16-12-4		道路付属物工		1-2-3-10道路付属物工	1-9
		6-16-12-5		ケーフ・ル配管工		6-2-12-5ケーブル配管工	6-6
		6-16-12-6		照明工		6-2-12-6照明工	6-6
第13節	軽量盛土工	6-16-13-2		軽量盛土工		1-3-4-3路体盛土工	1-6
第14節	擁壁工	6-16-14-3		場所打擁壁工		1-2-15-1場所打擁壁工	1-101
		6-16-14-4		プレキャスト擁壁工		1-2-15-2プレキャスト擁壁工	1-101
第15節	石・ブロック積(張)工	6-16-15-3		コンクリートブロック工		1-2-5-3コンクリートフ・ロック工	1-22
		6-16-15-4		石積(張)工		1-2-5-5石積(張)工	1 - 23

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第16節 カルバート工	6-16-16-4		場所打函渠工		6-1-9-6場所打函渠工	6 - 1
	6-16-16-5		プレキャストカルハート工		1-2-3-28プレキャストカルハート エ	1-16
第17節 法面工	6-16-17-2		植生工		1-2-14-2植生工	1 - 96
	6-16-17-3		法面吹付工		1-2-14-3吹付工	1 - 98
	6-16-17-4		法枠工		1-2-14-4法枠工	1 - 99
	6-16-17-6		アンカー工		1-2-14-6アンカー工	1 - 100
	6-16-17-7		かご工	じゃかご	1-2-3-27羽口工	1-16
				ふとんかご	1-2-3-27羽口工	1 - 16
第18節 落石雪害防止工	6-16-18-4		落石防止網工		6-1-11-4落石防止網工	6 - 1
	6-16-18-5		落石防護柵工		6-1-11-5落石防護柵工	6-1
	6-16-18-6		防雪柵工		6-1-11-6防雪柵工	6-2
	6-16-18-7		雪崩予防柵工		6-1-11-7雪崩予防柵工	6-2
第20節 鋼桁工	6-16-20-3		鋼桁補強工		6-16-3-4桁補強材製作工	6 - 24
第21節 橋梁支承工	6-16-21-3		鋼橋支承工		6-4-5-10支承工	6 - 12
	6-16-21-4		PC橋支承工		6-4-5-10支承工	6 - 12
第22節 橋梁付属物工	6-16-22-3		伸縮継手工		1-2-3-24伸縮装置工	1 - 14
	6-16-22-4		落橋防止装置工		6-4-8-3落橋防止装置工	6 - 14
	6-16-22-6		地覆工		6-4-8-5地覆工	6 - 14
	6-16-22-7		橋梁用防護柵工		6-4-8-6橋梁用防護柵工	6 - 14
	6-16-22-8		橋梁用高欄工		6-4-8-7橋梁用高欄工	6 - 14
	6-16-22-9		検査路工		6-4-8-8検査路工	6-14
第25節 現場塗装工	6-16-25-3		橋梁塗装工		1-2-3-31現場塗装工	1-19
	6-16-25-6		コンクリート面塗装工		1-2-3-11コンクリート面塗装工	1-10

単位:mm

編	章	節	条 枝番	工 種	測定	項目	規札	各値	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
1 共通編	3 ± I	3河川土工・砂防土工	2 1	掘削工	基準法長 0	高 ▽ 0 < 5m 0 ≥ 5m	-:	50 200 -4%	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50 m) につき 1 ヶ所、延長 40m (または 50 m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。基準高は掘削部の両端で測定。ただし、国土交通省の 3 次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は掘削部の両端で測定。
1 共通編	3 土 工	3 河川土工・砂防土工	2 2	掘削工(面管理の場合)			平均値	個々の計測値	1. 3 次元データによる出来形管理において、国土交通省「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。2. 個々の計測値の規格値には計測精度として土50mmが含まれている。3. 計測は平場面と法面(小段を含む)の全面とし、全ての点で設計面との標高較差または水平較差を算出する。計測密度は1点/m²(平面投影面積当たり)以上とする。4. 法肩、法尻から水平方向に土5cm 以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。同様に、標高方向に土5cm 以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。同様に、標高方向に土5cm 以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。
					平場	標高較差	±50	±150	వే.
					法面 (小段含む)	水平または標高較差	±70	±160	
					法面 (軟岩 I) (小段含む)	水平または 標高較差	±70	±330	

単位:mm

		_		1					T					年四.11111
編	章	節	条 枝番		測 定	項目	規格	各 値	測 定 基 準	測	定	筃	所	摘要
1 共 通	3 土 工	3 河 川	2 3	掘削工 (水中部) (面管理の場合)			平均値	個々の 計測値	1.3 次元データによる出来形管理において、国 土交通省「3次元計測技術を用いた出来形 管理要領(案)」に基づき出来形管理を面					1-3-3-2
編		土		(ш 1 . 1 . 2 . 7 . 7 . 1 / 1	平場	標高較差	±50	±300	管理で実施する場合、その他本基準に規					
編		土工・砂防土工			平場法面(小段含む)	水平または		±300	管理で実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±100mmが含まれている。 3. 計測は平場面と法面の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は 1 点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。					

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項 目	規格	各値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共	3 土	3 河	3	1	盛土工	基準	高▽	_	50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50		1-3-3-3
通編	工	川 土				法長 0	ℓ < 5m	-1	100	m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ 所。基準高は各法肩で測定。	\mathbf{w}_2 ∇	
7,113		ı.					$\ell \geq 5 \mathrm{m}$	法長-	- 2 %	ただし、国土交通省の「3 次元計測技術 を用いた出来形管理要領(案)」の規定に		
		砂				幅 W ₁	, W ₂	-1	100	より測点による管理を行う場合は設計図		
		防 土 工								書の測点毎。基準高は各法肩で測定。		
1 共 通	3 土 工	3 河 川	3	2	盛土工 (面管理の場合)			平均値	個々の計測値	1. 3 次元データによる出来形管理において、国土交通省「3 次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)」に基づき出来形管	実機能の計測点・法価能の計測点	
編		土 工 •				天端	標高較差	-50	-150	理を面管理で実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施する	計算密度 1成 202	
		砂 防				法面 4割<勾配	標高較差	-50	-170	場合に適用する。		
		土工				法面 4割≧勾配 (小段含む)	標高較差	-60	-170	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±50mm が含まれている。		
						※ただし、ここでの配は、鉛直方向の長さ				3. 計測は天端面と法面(小段を含む)の 全面とし、全ての点で設計面との標高較 差を算出する。計測密度は1点/㎡(平面 投影面積当たり)以上とする。		
						1 に対する、水平方向の長さXをX割と表				4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm以内 に存在する計測点は、標高較差の評価か ら除く。		
						したもの				5. 評価する範囲は、連続する一つの面と することを基本とする。規格値が変わる 場合は、評価区間を分割するか、あるい は規格値の条件の最も厳しい値を採用す		
										る。		

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共通編	3 ± I	3 河川土工・砂防土工	4		盛土補強工 (補強土(テールアル メ)壁工法) (多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	厚	高 ▽ さ t 長 さ	-50 -50 設計値以上	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (または50m) 以下のものは1施工箇所につき 2 ヶ所。 一ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。	t t	1-3-3-4
1 共通編	3 ± 工	3 河川土工・砂防土工	5		法面整形工 (盛土部)	厚	さ t	* -30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (または50m) 以下のものは1施工箇所につき 2 ヶ所、法の中央で測定。※土羽打ちのある場合に適用。 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。	tt	1-3-3-5
1 共通編	3 ± T	3 河川土工・砂防土工	6		堤防天端工	厚さ t	t <15cm t ≥15cm w	-25 -50 -100	幅は、施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (または 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。厚さは、施工延長 200mにつき 1 ヶ所、200m以下は 2 ヶ所、中央で測定。	w t	1-3-3-6

単位:mm

頯	i i	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規格	各 値	測定基準測定	箇 所	摘要
] ;		3 士	4 道	2	1	掘削工	基 準	高▽	±	50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m		1-3-4-2
ji Ai	_ _	エ	路土				法長 0	0 < 5m	-2	200	(又または50m) 以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所。	\rightarrow / $^{\varrho}$	
- An			I					0 ≧ 5m	法長	-4%	基準高は、道路中心線及び端部で測 定。	4	
							幅	W	-1	100	ただし、国土交通省の「3 次元計測技		
											術を用いた出来形管理要領 (案)」の 規定により測点による管理を行う場合		
											は、設計図書の測点毎。基準高は、道 路中心線及び掘削部の両端で測定。		
		3	4	2	2	掘削工				個々の	1. 3 次元データによる出来形管理におい		1-3-4-2
j j	ŧ -	土 工	道路			(面管理の場合)			平均値	計測値	て、国土交通省「3 次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を		
新	_		土				平場	標高較差	±50	±150	面管理で実施する場合、その他本基準に規 定する計測精度・計測密度を満たす計測方 ・ 法面部の計画点	119/0	
			工				法面 (小段含む)	水平または 標高較差	±70	±160	法により出来形管理を実施する場合に適用 する。		
							法面 (軟岩 I) (小段含む)	水平または 標高較差	±70	±330	9 つ。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±50mm が含まれている。		
											3. 計測は平場面と法面(小段を含む)の全面とし、全ての点で設計面との標高較差または水平較差を算出する。計測密度は 1 点		
											/m2(平面投影面積当たり)以上とする。		
											4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm 以内に 存在する計測点は、標高較差の評価から除		
											く。同様に、標高方向に±5cm以内にある計 測点は水平較差の評価から除く。	 	
											5. 評価する範囲は、連続する一つの面と することを基本とする。規格値が変わる場		
											合は、評価区間を分割するか、あるいは規 格値の条件の最も厳しい値を採用する。		

単位:mm

編	章	節	条 枝番		測定	項目	規格	各 値	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
1 共 通	3 土 工	4 道 路	3 1 4	路体盛土工 路床盛土工	基準	高▽	±	50	施工延長 40mにつき 1 ヶ所、延長 40m以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ 所。 w ₁ 1-3-4-3 1-3-4-4
編		土工			法長 0	ℓ < 5m	-1	100	基準高は、道路中心線及び端部で測 定。 0
						$\ell \geq 5 \mathrm{m}$	法長	-2%	ただし、国土交通省の「3 次元計測技 術を用いた出来形管理要領(案)」の
					幅	$\mathbf{w}_{1}, \mathbf{w}_{2}$	-1	100	規定により測点による管理を行う場合 つは、設計図書の測点毎。基準高は道路
									中心線及び掘削部の両端で測定。
<u> </u>		4	0 0	四件件(一					
1 共通編	3 土 工	4 道路十	3 2 4	路体盛土工 (面管理の場合) 路床盛土工 (面管理の場合)			平均値	個々の 計測値	1. 3 次元データによる出来形管理において、国土交通省「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、その他本基準に規
77113		エ		(MILLEY MIL)	天端	標高較差	±50	±150	定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。
					法面 (小段含む)	標高較差	±80	±190	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±50mm が含まれている。
									3. 計測は天端面と法面(小段を含む)の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を 算出する。計測密度は 1 点/㎡ (平面投影面 積当たり)以上とする。
									4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm以内に 存在する計測点は、標高較差の評価から除 く。
									5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。

単位:mm

編	章	節	条 枝番	工工種	測定項目	規格値	測 定 基 進	測定簡所	摘要
1 共通	3 土 工	引 4 道 路	元 仅 街	法面整形工 (盛土部)	関 と 切 日	※ −30	施工延長 40mにつき 1 ヶ所、延長 40 m以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ 所。法の中央で測定。	t L 直 D	1-3-4-5
編	4	土工					※土羽打ちのある場合に適用。	t Islisiisi	
1 共 通	4 無 筋	6 鉄 筋	4	組立て	平均間隔d	± φ	$d = \frac{D}{n-1}$		1-4-6-4
編	・ 鉄 筋 コ	工			かぶり t	設計かぶり±φ かつ 最小かぶり 以上	D: n本間の延長 n: 10 本程度とする φ: 鉄筋径		
	ンクリート						工事の規模に応じて、1 リフト、1 ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書([設計編:標準] 7 編 2章 2.1) 参照。ただし道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書(Ⅲコンクリート橋・コンクリート部材編 5.2) による。	コンクリート表 設計かぶり 最小かぶり	
							注 1) 重要構造物 かつ主鉄筋※について適用する。 ※主鉄筋とは主な鉄筋を指す。 注 2) 橋梁コンクリート床版桁 (PC 橋含む) の鉄筋については、第3編3-	※かぶりとは、鉄筋の最外縁か らコンクリート表面までの距離 をいう	
							2-18-2 床版工を適用する。 注 3) 新設のコンクリート構造物(橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面 25m2 以上のボックスカルバ		
							ート (工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外)) の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する。		

単位:mm

								1			中位:
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共	2 —	3 共	4		矢板工 [指定仮設・任 意仮設は除く]	基準	高▽	±50	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25 mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長	<u> </u>	1-2-3-4
通編	般施	通的			(鋼矢板) (軽量鋼矢板)	根	入 長	設計値以上	40m (または 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。		
APIIII	工	エ			(コンクリート矢板)	変(<u>it</u> 0	100	変位は、施工延長 20m (測点間隔 25	TETET TETET	
		種			(広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)				- mの場合は 25m) につき 1 ヶ所、延長 20m (または 25m) 以下のものは 1 施	Q I II I	
									工箇所につき2ヶ所。	27	
									「3次元計測技術を用いた出来形管理		
									要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測		
									精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができ		
									る。		
1 共	2	3 共	5		縁石工 (縁石・アスカーブ)	延	長 L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出来		1-2-3-5
通	般	通							形管理要領 (案)」の規定により管理		
編	施工	的工							を行う場合は、延長の変化点で測定。		
		種									
1 共	2	3 共	6		小型標識工	設置	高さ H	設計値以上	1ヶ所/1基	w (D)	1-2-3-6
通編	般施	通的					幅w(D)	-30	基礎 1 基毎		
小柵	工	工種				基礎	高さ h	-30	- 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領 (案)」の規定による測点の管理	H h	
		1.2					根入長	設計値以上	方法を用いることができる。		
							1				
1	2	3	7		防止柵工				単独基礎 10 基につき 1 基、10 基以下	W	1-2-3-7
共通	般	共通			(立入防止柵) (転落(横断)防止柵)		幅 w	-30	のものは2基測定。測定箇所は1基に つき1ヶ所測定。	├ 	
編	施	的			(車止めポスト)	基礎			_	h	
	工	工種					高さ h	-30	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理		
								+30	方法を用いることができる。 1ヶ所/1施工箇所		
						パイプ耳	文付高 H	+30 -20			
									「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理		
									方法を用いることができる。	IRIIRIRI IRII IRINI	

単位:mm

編	章	節	条 枝番	工種	測 定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共通編	2 一般 施	3 共 通 的	8 1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30	1ヶ所/施工延長 40m 40m以下のものは、2ヶ所/1 施工箇 所。	w	1-2-3-8
利用	工 工	工種			基礎	高さ h	-30	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	h h	
					ビーム取	対高 H	$+30 \\ -20$	1ヶ所/1施工箇所	H	
								「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。		
1 共	2 —	3 共	8 2	路側防護柵工 (ガードケーブル)		幅 w	-30	1 ヶ所/1 基礎毎		1-2-3-8 ※ワイヤーロー
通編	般施	通的			基礎	高さ h	-30	「3次元計測技術を用いた出来形管理 - 要領 (案)」の規定による測点の管理		プ式防衛柵にも 適用する
	エ	工種			L	延長L	-100 +30	方法を用いることができる。 1ヶ所/1施工箇所	h www www	
					グーノル	取付高 H	-20		k L	
								要領 (案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	TISIIISIIS	
1 共	2	3 共	9	区画線工		さ t 式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1 ヶ所テストピースにより測定。		1-2-3-9
通編	般施	通的			幅	W	設計値以上	- V4/C0		
	工	工種								
1 共	2	3 共	10	道路付属物工 (視線誘導標)	高	さ h	±30	1ヶ所/10本 10本以下の場合は、2ヶ所測定。		1-2-3-10
通編	般施工	通的工種		(距離標)				「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	h	

単位:mm

% □	盐	松	久	壮平		146	油口	→ TT	П	+8	1/2	居	SHIL	÷	#	淮	SHII	+	<u> </u>	ಕ್ಷ	中世.
1 共通編	章 2 一般施工	節 3 共通的工種	11	枝番		種 一	塗料 使			鋼道路 覧Ⅱ- .5.5 準使月	82 「剥各塗料 各塗料 引量と の標	f食便表-Ⅱ 表の標準標準使	て、各塗料 の開始前に 作業終了時	の塗装での必要が の必要が 搬入量 に使用が 要量以	量を求め (充缶数 量(空缶 上である	準 (出・照査し (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は)		定	固	所	摘 要
1 共通編	2 一般施工	3 共通的工種	12	1	プレテンシ (購入工) (けた橋)	/ョン桁製作工	断面の 橋 桁 横方向	外形。 の そ δ ₁	寸法		±5 ±8 ±10	000		は中央 <i>の</i> マーク 工場の昇	D値とす 表示品を Ě行する	·使用する場 JIS に基づ			L		1-2-3-12
1 共通編	2 一般施工	3 共通的工種	12	2	プレテンシ (購入工) (スラブ桁		桁長 断面の 橋 桁 横方向)外形、 の そ δ ₁	寸法 り	±10···· ± L/1	L 1000···	≦10m		は中央 <i>の</i> マークま 工場の努	D値とす 表示品を ě行する	·使用する場 JIS に基づ			L å. L δ,		1-2-3-12

単位:mm

編	章	節	条 枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共通編	2 一般施工	3 共通的工種	13	ポストテンション桁 製作工	幅(上) w ₁ 幅(下) w ₂ 高 さ h 析 長 ℓ 支間長	+10 -5 ±5 +10 -5 & <15···±10 & ≥15··· ± (ℓ -5) カンン -30mm 以内 0.8ℓ	析全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。 0:支間長(m)	W_1 h W_2	1-2-3-13 注)カリスカーの リアン・リアン・リアン・リアン・リアン・リアン・リアン・リアン・リアン・リアン・
1 共通編	2 一般施工	3 共通的工種	14 1	プレキャストセグメント製作工 (購入工)	桁 長 ℓ 断面の外形寸法 (mm)		桁全数について測定。桁断面寸法測定 箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		1-2-3-14
1 共通編	2 一般施工	3 共通的工種	14 2	プレキャストセグメント 主桁組立工	析 長 0 □ 支 間 長 横方向最大タワミ	<pre>0 <15···±10 0 ≥15··· ± (0 -5) カン -30mm 以内 0.8 0</pre>	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 ②:支間長(m)		1-2-3-14

単位:mm

編章	節	条 枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 2 2 一般施工	共通的	15	PCホロースラブ製作工	基準高▽ 幅 w ₁ , w ₂ 厚 さ t 桁 長 Ø	±20 -5~+30 -10~+20 ℓ <15…±10 ℓ ≥15… ± (ℓ -5) カン -30mm 以内	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 ヶ所(支点付近)で1ヶ所当たり両端と中央部の3 点、幅及び厚さは1 径間当たり両端と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第1編1-2-18-2 床版工に準ずる。 0:桁長(m)	w_1 v	1-2-3-15 注)のでは、
1 2 一般施工	的	16 1	PC箱桁製作工	基 準 高 幅 (上) w ₁ 幅 (下) w ₂ 内空幅 w ₃ 高 さ h ₁ 内空高さ h ₂ 桁 長 0	±20 -5~+30 -5~+30 ±5 +10 -5 +10 -5 ℓ <15···±10 ℓ ≥15··· ± (ℓ -5) カンつ -30mm 以内	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 ヶ所(支点付近)で1ヶ所当たり両端と中央部の3 点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第1編1-2-18-2 床版工に準ずる。 0:桁長(m)	w_1 w_2 w_1 w_3 w_2	1-2-3-16 注)一上2-3-16 注)一上2-3-16 の造部構下要空内以上2-3 大・重内以上作製にの及てに下状での品お鉄がはよ構態要に一プはい筋が「る造及側上がの品お鉄びはよ構態要用がトレ全ての配り破びはよ構態要用する。

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共	2	3 共	16	2	PC押出し箱桁製作工	ф	属 (上) w ₁	-5~+30	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央		1-2-3-16 注)新設のコンク
通編	般施	通的				ф	届 (下) w ₂	$-5\sim +30$	部の3ヶ所とする。		リート構造物(橋梁上・下部工)お
孙阳	工	エ				Þ	勺空幅 W3	±5	※鉄筋の出来形管理基準については、		よび重要構造物である内空断面積
		種				Ē	高 さ h ₁	+10 -5	第1編1-2-18-2床版工に準ずる。	. W1	25m2 以上のボック スカルバート(エ
						Þ	内空高さ h ₂	+10 -5	0 : 桁長 (m)		場製作のプレキャ スト製品は全ての
						析	ī 長 l	<pre>ℓ <15···±10 ℓ ≥15··· ± (ℓ -5) カッつ -30mm 以内</pre>		h1 w3 w2	工種において対象 外))の鉄筋の配筋 状況及びかぶりに つい験には、「非コケー は、「非ンク リート構造及びかれ り測定要領」も併
1	2	3	17		根固めブロックエ				施工延長 40m (測点間隔 25mの場合		せて適用する。 1-2-3-17
共通編	一般施工	共通的工種					基準高▽	±100	は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所。		
		1里				層積	厚さ t	-20	幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。		
							幅 W ₁ 、W ₂	-20			
							延長 L 1、L 2	-200	1 施工箇所毎	t 1	
						乱積	基準高▽	± t/2	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	L ₁ L ₁ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	
							延長 L 1、L 2	- t /2	1 施工箇所毎	;+ + + + []	
										t は根固めブロックの高さ	

単位:mm

編	章	節		枝番	工種	測	定項	Ħ	規格値		則 定 箇 所	摘 要
1 共	2	3 共	18		沈床工	基	準 高	∇	±150	1 組毎		1-2-3-18
通編	般	通				幅		w	±300	<u> </u>		
裲	施 工	的工				延	長	L	-200		W	
		種									- 	
1 共	2	3 共	19		捨石工	基	準 高	∇	-100	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m	W I	1-2-3-19
通編	般施	通的				幅		w	-100	(又は50m) 以下のものは1 施工箇所 につき2ヶ所。		
形冊	工 工	エ				延	長	L	-200	(C') & 2 ft ft.	A segi	
		種										
					art an							
1 共	2	3 共	22		階段工	幅		W	-30	1 回/1 施工箇所	L	1-2-3-22
通編	般施	通的				高	さ	h	-30	7		
77110	ĭ.	エ				長	さ	L	-30			
		種				段		数	±0 段	3		
										w		
1	2	3	2	1	伸縮装置工	据《	付け高	うさ	±3	高さについては車道端部及び中央部	格鞋方向	1-2-3-24
共通	一般	共通	4		(ゴムジョイント)		面の凹		3	付近の3点を測定。 Baンクリートの 施工後の高さ	Ad by adyh部材の天端高さ C舗装の計画高	
編	施	的								表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方	維持修結の場合は既設舗装面	
	工	工種				仕.	上げ高	うさ	舗装面に対し 0~-2	向) に 3mの直線定規で測って凹凸 が 3 mm以下		
										据付高 仕上高:8	TA] と「Aの設計値」との差 対ちコンがある場合「A」と「B」の差 対ちュンがない場合「A」と「C」の差	
											C. Same G 1881 and C. 193 9522	

	1 .													241	平位:
編	章	節	条材	支番	工種	測	定	項目	規	格値	測		基	準	測 定 箇 所 摘 要
1 共 通		3 共 通	24	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョ イント)		据人	けけ高さ		±3	高さについて橋軸方向			中央部にお 点。	
編	般施工	的工			1 / 1)	高さ		軸方向各点 色の相対差		3	表面の凹凸	は長手	方向(〔橋軸直角方	≪ 橋軸方向 → ▼
		種) 凹凸		3	向) に 3mの 3 mm以下	の直線定	롣規で測	削って凹凸が	
						合	い部の	の歯咬み D高低差		2		部は車道	並端部、	中央部の計	Ç.L C.L
						絎	だ方向に	}い部の 間隔w₁		±2	3 点				A B 歯型板面の歯咬み
								hい部の 間隔w ₂		±5					W ₂ 合い部の高低差: 咬み合い部中心 A,
						仕	上的	げ高さ		面に対し)~-2					C,L 舗装面 人仕上げ高さ
															あと打ち
1 共	2	3 共	24	3	伸縮装置工 (埋設型ジョイント)		表面の	ЭШ凸		3	高さについ の3点を測算		道端部 及	及び中央付近	1-2-3-24
通編	般施	通的一					仕上に	げ高さ		面に対し)~+3	表面の凹凸				
	エ	工種									向) に 3mの 3 mm以下	の直線気	≧規で≬	削って凹凸が	T T
1	2	3	26	1	多自然型護岸工	基	進	高▽		±500				25mの場合	1-2-3-26
共通	般	共通			(巨石張り、巨石積み)		•							、延長 40m は1施工箇所	7
編	施	的			<i>a</i> +)	法		長 0		-200	- (スは 50 m) - につき 2 ヶ月) & v) (,	よ1 旭上酉別	l l
	エ	工種				延		長 L		-200	_				
1 共	2	3 共	26	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法		長ℓ		-100	_ 施工延長 40 は 50m) に			25mの場合 延長 40m	1-2-3-26
通	般	通			(ル・ニャンド)	厚		さ t	_	-0.2 t	(又は 50m)) 以下の		、延長 40 m は 1 施工箇所	
編	施	的工				延		長 L		-200	につき2ヶ原	听。			
	エ	工種													
															<u>25888</u>

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
1 共通編	2 一般施工	3 共通的工種	27	1	羽口工(じゃかご)	法 長 ℓ 23m ℓ ≥3m 厚 さ t	-50 -100 -50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。
1 共通編	2 一般施工	3 共通的工種	27		羽口工 (ふとんかご、かこ 枠)	高 さ h 延長 L ₁ , L ₂	-100 -200	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 ヶ所。
1 共通編	2 一般施工	3 共通的工種	28		プレキャストカルバー ト工 (プレキャストボック ス工) (プレキャストパイプ 工)	※幅 w	±30 -50 -30 -200	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 ヶ所、施工延長 40 m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。

	,	,			11					単12 :MM
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共通編	2 一般施工	3 共通的工種	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、施工延長 40 m (または 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。 厚さ以外の測定項目については、「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		1-2-3-29
						延 長 L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)」の規定により管理	9898	
								を行う場合は、延長の変化点で測定。		
1 共	2	3 共	29	2	側溝工	基 準 高 ▽	± 30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 ヶ所、施工延長 40		1-2-3-29
通編	般施	通的			(現場打水路工)	厚さ t ₁ , t ₂	-20	m (または 50m) 以下のものは 1 施工 - 箇所につき 2 ヶ所。		
形冊	工	エ				幅 w	-30		t_1 W t_2	
		種				高さ h ₁ , h ₂	-30	「厚さ以外の測定項目については、「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法 を用いることができる。	h ₁ h ₂	
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎		
					-			ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)」の規定により管 理を行う場合は、延長の変化点で測 定。		
1 共 通	2 一 般	3 共 通	29	3	側溝工 (暗渠工)	基 準 高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は50m) につき1ヶ所。 延長 40m (または 50m) 以下のもの	 	1-2-3-29
編	施工	的工種			V 1 / N - 1/	幅 W ₁ , W ₂	-50	は1施工につき2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 一要領(案)」の規定による測点の管理	TISII h	
		1.2				深 さ h	-30	方法を用いることができる。	W ₂	
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎 ただし「3 次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)」の規定により管理 を行う場合は、延長の変化点で測定。	7	

編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所	摘要
1 2 3 3 30 共 一 共 通 般 通 編 施 的 工 工 種 基 準 高 ▽ ±30	1-2-3-30

									_								中位	
編	章	節	条	枝番	工種	測	定項	目	規格値	測	定 基	準	測	定	笛 声	折	摘 要	
1 共通編	2 一般施工	3 共通的工種	31		現場塗装工	塗	膜	厚	a. 厚標の 90%以 値 厚標の 90%以 値 厚標の 90%以 値 目計 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 2 で 1 で 2 で 1 で 2 で 1 で 2 で 2	1 ロットの大き 1 ロット当たり 各点の測定は 5 その点の測積が 2 10m2 ごとに 1 点	さは 500 の測定数 回行い、 iとする。 iとする。 iとする。	は 25 点とし、 その平均値を ただし、1 古たない場合は					1-2-3-31	
1 共通編		4 基礎工	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	厚さ	t ₁ ,	w t 2	設計値以上-30各構造物の規格値による	施工延長 40m は 50m) につ (または 50m) 所につき 2 ヶ所	き 1 ヶ戸 以下のも		$egin{array}{c} t_2 \ t_1 \end{array}$	880	<u>;</u>		1-2-4-1	
1 共通編	2一般施工	4 基礎工	3	1	基礎工 (護岸) (現場打)	基高		▽ w h L	±30 -30 -30 -200	所につき2ヶ所	き 以。術規と 術出にで 用がた はいがた はいがた ままれい かいがた ままれい かいがた はいかん はいかん はいかん はいかん はいかん はいかん はいかん はいかん	所、延長 40 m あのは1施工簡 、た出来形管理 る。 、た出を実施す でする計測精 ・測方法により	\	W		h	1-2-4-1	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定	箇 所	摘要
1 共	2	4 基	3	2	基礎工 (護岸)	基 準 高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m			1-2-4-3
通	般	礎			(プレキャスト)	延 長 L	-200	(または50m) 以下のものは1施工箇			
編	施工	I.						所につき2ヶ所。「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定に			
								よる測点の管理方法を用いることができる。			
1 共	2	4 基	4	1	既製杭工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。 Dは杭径	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		1-2-4-4
通	般	礎			(既製コンクリート杭)	根 入 長	設計値以上			П	
編	施工	工			(鋼管杭) (H鋼杭)	偏心量d	D/4以内かつ 100以内	傾斜は、縦断方向(道路線形方向、橋 軸方向等)とそれに直交する横断方向 の2方向で測定。			
						傾 斜	1/100 以内	·			
								- 「3次元計測技術を用いた出来形要領 (案)」に基づき出来形管理を実施す	y	根根	
								る場合は、同要領に規定する計測精 度・計測密度を満たす計測方法により	\vdash	根入長	
								出来形管理を実施することができる。			
1	2	4	4	2	既製杭工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		1-2-4-4
共通	般	基礎			(鋼管ソイルセメント	根 入 長	設計値以上	 「3次元計測技術を用いた出来形管理		Ŋ	
編	施 T.	エ			杭)			要領 (案)」に基づき出来形管理を実 施する場合は、同要領に規定する計測			
						偏心量d	以内	精度・計測密度を満たす計測方法によ	d \		
						傾 斜	1/100 以内	り出来形管理を実施することができ る。	y		
						杭 径 D	設計径以上		-	根 入 長	
									х		
1 共	2	4 基	5		場所打杭工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		1-2-4-5
通	般	礎				根 入 長	設計値以上	傾斜は、縦断方向(道路線形方向、橋		Z	
が闸	施工	工				偏 心 量 d	100 以内	軸方向等)とそれに直交する横断方向 の2方向で測定。	d 、		
						傾 斜	1/100 以内	「3次元計測技術を用いた出来形要領 (案)」に基づき出来形管理を実施す			
						杭 径 D	設計径(公称 径)-30以上	る場合は、同要領に規定する計測精 度・計測密度を満たす計測方法により		根入長	
								出来形管理を実施することができる。	x		

編	章	節	条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測定基準測定箇所	摘要
л уни 1	字 2	4 4	条 权 番	深礎工				1-2-4-6
共	_	基		IN WE I	基準高▽	±50		1210
通編	般施	礎 工			根 入 長	設計値以上	傾斜は、縦断方向(道路線形方向、橋 $d=\sqrt{x^2+y^2}$ 軸方向等)とそれに直交する横断方向	
Aylin	Ĭ.				偏心量d	150 以内	の2方向で測定。	
					傾 斜	1/50 以内	※ライナープレートの場合はその内 d 🔽 n n n	
					杭 径 D	設計径(公称 径)以上※	径、補強リングを必要とする場合は補 強リングの内径とし、モルタルライニ ングの場合はモルタル等の土留め構造	
							フングの場合はモルタル等の土留め構造 の内径にて測定。 x	
1 共	2	4 基	7	オープンケーソン基礎工	基準高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量につい $d=\sqrt{x^2+y^2}$ ては各打設ロットごとに測定。	1-2-4-7
通	般	礎			ケーソンの長さ0	-50	W	
編	施工	工			ケーソンの幅 w	-50		
					ケーソンの高さ h	-100		
					ケーソンの壁厚 t	-20	d	
					偏 心 量 d	300 以内	y y	
1 共	2	4 基	8	ニューマチックケーソ ン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量につい $d=\sqrt{x^2+y^2}$ ては各打設ロットごとに測定。	1-2-4-8
通編	般施	礎 工			ケーソンの長さ0	-50		
ηνΉΗ	工				ケーソンの幅 w	- 50	$\begin{array}{c c} & & \\ & \\ t \end{array} \begin{array}{c c} t \end{array}$	
					ケーソンの高さ h	-100		
					ケーソンの壁厚 t	-20	d	
					偏心量d	300 以内		
							H	
							X	

単位:mm

編	章	節	条 枝番	工 種	測定	項目	規格値	測	定	基 準	測	定 箇	所	摘要
1 共	2	4 基	9	鋼管矢板基礎工	基準	高▽	±100	基準高は、 偏心量は、						1-2-4-9
通編	般施	礎 工			根	人長	設計値以上	州心里は、	1 坐 C C (C)	RIALO	$d = \sqrt{x^2 + \frac{1}{2}}$	y²		
利相	工	⊥.			偏心	量 d	300 以内				-			
	0) h ll l = 6 h = 7				#-77E	O (201 H-1			x d		1.0.5.0
1 共	2 —	5 石	3 1	コンクリートブロック工	基 準	高▽	±50			間隔 25mの場合 ヶ所、延長 40m		n 77		1-2-5-3
通編	般 施	・ブ		(コンクリートブロック 積)	法長 0	$\ell < 3 \text{ m}$	- 50	(または5)m) 以下の	のものは1施工箇 さは上端部及び下	│ ./ <i>\</i> }/	7		
/p Ht i	工	ロ		(コンクリートブロック	IZIX	ℓ ≧ 3 m	-100	端部の2ヶ	所を測定。		www.Blad			
		ツク		張)	厚さ(ブロ t	ック積張)	-50	要領 (案)	の規定に	引いた出来形管理 よる測点の管理		1230. 0. → ∇	t_1 t_2	
		積 (張)			厚さ(裏	€込) t₂	-50	方法を用い	ることがで	`きる。	12*			
		I			延	長 L	-200				t ₁			
L.	0							ナーバド	o (200 He	HHITE OF OUR A				1.0.5.0
1 共	2	5 石	3 2	コンクリートブロック工	基 準	高▽	±50	は 50m)	こつき 1 カ	間隔 25mの場合 ヶ所、延長 40m				1-2-5-3
通編	般施	・ブ		(連節ブロック張り)	法	長 0	-100	(または 5 所につき 2)ものは1施工箇	L	1	/ >	
APIII	ĭ.	П			延長	L ₁ , L ₂	-200	「3 次元計	測技術を用	別に出来形管理				
		ッ ク 積 (工						要領(案)」 測点の管理 る。		ょる いることができ	↓			

単位:mm

_						1		1			≠位.
編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共	2	5 石	3	3	コンクリートブロック工	基準	高▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m	W	1-2-5-3
通編	般施	・ブ			(天端保護ブロック)	幅	W	-100	(または 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 ヶ所。		
Ayliu	工	口				延	長 L	-200	「3 次元計測技術を用いた出来形管理	間詰かご	
		ッ ク 積 (張)							要領 (案)」の規定による 測点の管理方法を用いることができ る。	w d	
		エ								連結ブロック	
1 共	2	5 石	4		緑化ブロック工	基 準	高▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m	tı t2	1-2-5-4
通編	般施	・ブ				法長 0	$\ell < 3 \text{ m}$	-50	(または50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。厚さは上端部及び下		
///	工	口				1212 6	ℓ ≧ 3 m	-100	場がのり、正な測学		
		ツク				厚さ(ブロ	コック) t ₁	-50	端部の2ヶ所を例た。 「3 次元計測技術を用いた出来形管理 要領 (案)」の規定による	RYLING.	
		積(張)				厚さ(裏	込) t ₂	-50	測点の管理方法を用いることができる。		
		エ				延	長 L	-200			
										t_1 t_2	
1 共	2	5 石	5		石積(張)工	基準	高▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m		1-2-5-5
通編	般施	・ブ				法長 0	ℓ < 3 m	-50	(または 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 ヶ所。厚さは上端部及び下		
孙钿	工	フ ロ				伝文 t	ℓ ≧ 3 m	-100	端部の2ヶ所を測定。	, / 1	
		ツク				厚さ(石和	責・張) t 1	-50	「3 次元計測技術を用いた出来形管理 要領 (案)」の規定による		
		積(張)				厚さ(裏)	<u>入</u>) t ₂	-50	測点の管理方法を用いることができ る。	·/ <i>\&</i> //	
		エ				延	長 L	-200		unian k	
										良質土坦東	
									-	47	
										t2 *	

編	章	節	条	枝番	工	種	測	定 項	目	規	格	値	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘	要
1	2	6	6	4	橋面防水工	(シート系床	シー	トの重	ね幅	_	20~-	+50	標準重ね幅	.00 mm /3	_対し、	1 施工箇所					1-2-6-6	
共	_	_			版防水層)								毎に目視と測	則定によ	にり全面	前を確認						
通	般	般																				
編	施	舗																				
	工	装																				
		工																				

共 ー ー 通 般 般 (下層路盤工) 厚 さ -45 -45 -15 -15 さは名	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 基準高は延長 40m毎に 1 ヶ所の割と 工事規模の考え方 1-2-6-7	要
1 2 6 7 1 アスファルト舗装工 共 ー ー 通 般 般 般 基準高▽ ±40 ±50 ー し、道 さは名	基準高は延長 40m毎に 1 ヶ所の割と 工事規模の考え方 1-2-6-7	
共 ー ー 通 般 般 (下層路盤工) 厚 さ -45 -45 -15 -15 さは名	基準高は延長 40m毎に 1 ヶ所の割と 工事規模の考え方 1-2-6-7	
通 般 般 (下層路盤工) 厚 さ -45 -15 -15 さは名	し、道路中心線および端部で測定。厚 中規模以上の工事とは、管理図等を	
	さは各車線 200m毎に 1 ヶ所を掘り起 描いた上での管理が可能な工事をい	
	こして測定。幅は、延長 80m毎に1ヶ い、舗装施工面積が 10,000m2 以上あ 所の割に測定。ただし、幅は設計図書 るいは、使用する基層及び表層用混合	
	の測点によらず延長 80m 以下の間隔で 物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が 測定することができる。 該当する。	
[] [] [] [] [] [] [] [] [] []	「3次元計測技術を用いた出来形管理 小規模以下の工事とは、舗装施工面	
	要領 (案)」の規定による測点の管理 積が 10,000m2 未満かつ使用する基層 方法を用いることができる。	
1 2 6 7 1 アスファルト舗装工 _{其准高▽ +90} +40 +50 1.3 i	1. 3 次元データによる出来形管理にお お満いて、国土交通省の「3 次元計測技術	
通 般 般 (下層路盤工) 厚 さ 1.40 1.50 を用い	を用いた出来形管理要領 (案)」に基 (面管理でない場合)	
榊 旭 胡	づき出来形管理を実施する場合、その 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 他本基準に規定する計測精度・計測密 個以上の割合で規定値を満足しなけれ	
工 度を消	度を満たす計測方法により出来形管理 ばならないとともに、10 個以上の測 を実施する場合に適用する。	
	ければならない。ただし、厚さのデー	
	2. 個々の計測値の規格値には計測精 夕数が 10 個未満の場合は測定値の平 度として±10 mmが含まれている。 均値は適用しない。	
3. 計	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、	
	全ての点で標高差を算出する。計測密 度は 1 点/m (平面投影面積当たり)	
	以上とする。	
	4. 厚さは、直下層の標高差と当該層 の標高差との差で算出する。	
	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標	
高較え さとの	言は、EF層の日標筒と下直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高 さとの差とする。この場合、基準髙の 評価は省略する。	

																			単1业	. 1111111
							規材	各値												
編	章	節	条 枝番	工 種	測定項目	個々の (∑	測定値 K)	の平均 *面管理)測定値 匀(X ₁₀) の場合は [の平均	測	定	基	準		測	定	筃	所	摘	要
						中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下											
1 共	2	6 —	7 2	アスファルト舗装工	厚き	-25	-30	- 8	-10	幅は、延長8厚さは各車線							『 とは、	管理図等を	1-2-6-7	
通編	般 施	般舗		(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-50	-50	_	_	起こして測定の測点によら										
7,113	エ	装 工		1-201/31112111111						測定すること	ができ	る。	出来形管理	るいは	、使用	する基	層及で	が表層用混合		
		<u> </u>								要領(案)」(の規定に	こよる	測点の管理	該当す	る。	,				
										方法を用いる	ことが	できる	· > ·					舗装施工面 使用する基層		
1	2	6	7 2	アスファルト舗装工	厚さ					1. 3 次元デー	ータによ	、る出来	来形管理にお	及び表	層用混	合物の	総使月	月量 3,000 t		
共通	般	一般		(上層路盤工)	あるいは 標高較差	-54	-63	- 8	-10	いて、国土交を用いた出来	で通省の	- ∫3 <i>₹</i> /	欠元計測技術		rm 2.	, . IB A	`			
編	施	舗		粒度調整路盤工	际同权左					づき出来形管	ア 理を実	施する	る場合、その	厚さ	ユ () () () () () () () () () (々の泪		ぶ 10 個に 9		
	工	装 工		(面管理の場合)						他本基準に規度を満たす計	見定する ト測方法	計測料	青度・計測密)出来形管理	個以上ばなら	の割合 ないと	で規定ともに	☑値を滞 こ、10	満足しなけれ 個以上の測		
										を実施する場	合に適	用する	· > ·	定値の	平均値	(X_{10})	につい	へて満足しな 厚さのデー		
										2. 個々の計 度として±10	測値の)	規格値	直には計測精 ている。	りれば タ数が 均値は	10 個	未満の	か場合に	は測定値の平		
										3. 計測は設										
										全ての点で標 度は 1 点/m										
										以上とする。										
										4. 厚さは、 の標高差との										
										5. 厚さを標										
										合は、直下層 高較差平均値 さとの差とす	1+設計	–								

								規格	各値		
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の (X		10 個の の平均 *面管理の 測定値の	J(X ₁₀) D場合は	測定基準測定箇所擴要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下	
1 共	2 —	6 —	7	3	アスファルト舗装工	厚さ	-25	-30	- 8	-10	幅は、延長 80m毎に 1 ヶ所の割とし、 工事規模の考え方 1-2-6-7 厚さは、1,000 ㎡に 1 個の割でコアー 中規模以上の工事とは、管理図等を
通編	般施工	般舗			(上層路盤工) セメント(石灰)安定	幅	-50	-50	_	_	を採取もしくは掘り起こして測定。た 描いた上での管理が可能な工事をいだし、幅は設計図書の測点によらず延い、舗装施工面積が 10,000 ㎡以上あ
	工	装工			処理工						長 80m 以下の間隔で測定することがで るいは、使用する基層及び表層用混合 ちる。
1 共通編	2 一般施工	6一般舗装工	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工 (面管理の場合)	厚さいは標高較差	-54	-63	- 8	-10	方法を用いることができる。 1. 3 次元データによる出来形管理において、国土交通省の「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 「個々の計測値の規格値には計測精度として計しません。」 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高差を算出する。計測密度は 1 点/m²(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高差と当該層の標高差との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高
											さとの差とする。

									規格	各 値												
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の ()		10 個の の平均 *面管理の 測定値	J(X ₁₀) D場合は	測	定	基	準		測	定	笛	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
1 共	2	6 —	7	4	アスファルト舗装		厚さ	-15	-20	- 5	- 7	幅は、延長 80 厚さは、1,000	0 m²/こ	1個0)割でコアー	中規	模以上	の工事	_ , ,	管理図等を		
通編	般施	般舗			(加熱アスファル 安定処理工)	\ \ 	幅	-50	-50	_	_	を採取して測 書の測点によ	らず延っ	長 80m		い、舗	装施工	面積が	10,0	00 m2 -㎡以上	:	
	工	装工										で測定するこ 「3次元計測 要領 (案)」の 方法を用いる	技術を見り規定に	用いた よる)	則点の管理	合物の が該当	総使用 する。	量が 3	3, 000	及び表層用温 t 以上の場合 舗装施工面		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	4	アスファルト舗装(加熱アスファル安定処理工)(面管理の場合)		厚るいも、標高・製造のでは、	-36	-45	- 5	- 7	方1. いをづ他度を 2. 度 3. 全度以 4. の 5. 合高さる一交来管規計場 計10 設標/㎡。 この 5. 合高さる一交来管規計場 計10 設標/㎡。 この 標層値する一次来で表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表	夕通形理定測合 側 □□ 計高(直差 高の+に省管をす方に 値が 幅差平 下で 較目設 はの理実る法適 の含 員を面 層算 差標計	る「嬰施計に用 見ま の算投 の出 と高 出3 領す測よす 格れ 内出影 標す しさ す後 る に+	- K 元 (場度出 。 にい 全 る積 差 。 評直 形計))、計形 計。 と計た 当 す層 に技にそ測管 測 し測り 該 るの で を で と で で を で で を で で で で で で で で で で	積層 t (個ば定けタ均 が及未 面厚以な値れ数値 をとしらのばがは)	0,00 表 理はのな平なら で、割い均ら 10 10 11	· - R - M - M - C - C - C - C - C - C - C - C	- 満かん) 定値 えん) 定値を 10 に たんし、	つ使用する基 支用量 3,000 び 10 個に 9 満足しなけれ 個以上の測		

										規	各値			
級	幕 章	<u>si</u> .	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の (X		10 個の の平均 *面管理の 測定値	り(X ₁₀) の場合は	測定基準測定箇所摘要	
									中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
1 ‡	= -	-	6 —	7	5	アスファルト	舗装工	厚さ	- 9	-12	- 3		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアー 中規模以上の工事とは、管理図等を	
道	施施	<u>ti</u>	船舗			(基層工)		幅	-25	-25	_	_	を採取して測定。ただし、幅は設計図 描いた上での管理が可能な工事をい 書の測点によらず延長 80m 以下の間隔 い、舗装施工面積が 10,000 ㎡以上あ	
	I		装工										で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 「あいは、使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 「小規模以下の工事とは、舗装施工面	
1 力 道	= -	-	6 一 般	7	5	アスファルト領	舗装工	厚 さ あるいは 標高較差	-20	-25	- 3	- 4	1. 3 次元データによる出来形管理にお 積が 10,000 m ³ 未満かつ使用する基層 いて、国土交通省の「3 次元計測技術 及び表層用混合物の総使用量 3,000 t を用いた出来形管理要領(案)」に基未満	
		<u>ti</u>	板舗装工			(本層工) (面管理の場合	合)	係伺収左					で用いた出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度とした。 (面管理でない場合) 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規定値を満足しなければならないとともに、10 個以上の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 全ての点で標高差を算出する。計測密度は 1 点/m2 (平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高差と当該層の標高差との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場に下層の標高さ+直下層の標高さ、直下層の目標高さ+直下層の標高を設定する。 4. 度な、直下層の目標高さとの表とする。 4. 厚さを標高較差として評価する場響によります。 5. 厚さを標高較差として評価する場響によります。 6. 厚さを標高較差として評価する場響によります。 6. 原さを標高較差として評価する場響によります。 6. 原さを標高較差として評価する場響に表して記述を表します。	

									規権	各値												
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ()		10 個の の平均 *面管理の 測定値	J(X ₁₀) D場合は	測	定	基	準		測	定	筃	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	以下											
1 共	2	6	7	6	アスファルト舗	補装工	厚さ	- 7	- 9	- 2	- 3	幅は、延長8厚さは、1,00							ことは、	管理図等を	1-2-6-7	
通編	般施	般舗			(表層工)		幅	-25	-25	_	_	を採取して測	削定。た	だし、	幅は設計図	描いた	上での	管理7	が可能	な工事をい		
лунц	工	装工					平坦性	_	_	3mプロフ (σ)2.4 直読式 き) (σ)1.7	mm 以下 (足付 5mm 以	で測定するこ	とがで 技術を の規定に	きる。 用いた こよる?	出来形管理 側点の管理	る 物 該 小 が 1 及 び 表 び る の 当 来 が る た る た る た る た る た る た る た る た る た る	、使用 使用量 る。 模以下 0,000	する基 が 3,0 の工事 ㎡未満	層及で 100 t 以 ことは、 iかつ何	が表層用混合		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	6	アスファルト部 (表層工) (面管理の場合		厚されて標高較差平坦性	-17	-20	(σ)2.4i	イルメーター mm 以下 ; (足付 5mm 以	1. 3で用き本を実 2. 度 3. 全度以 4. の 5. 合高さ で、い出基満施 個し 計の1と 厚高 厚、差の が、は、がはまする の土 はでが、 2. を を で、 2. を で、 2. を で、 2. を で、 4. の 5. 合高さ で、 6. で、 6. で、 6. で、 7. で、	泛来管見十分 測皿 計票点 直差 高のもの 哲実る法適 の含 員を面 層算 差標計	「3 領で割に用 規ま の算投 の出 と高 3 領で割よす 格れ 内出影 標す しさ 十	た (る情) から () に いっこう () に いっこう () に いっこう () に いっこう () に で () に いっこう () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で () に で ()	未 (個ば値れ数値 (コ 等他 維省	理はのな均ら0用 理採舗傷法で、割い値な個し で取装をにな個合と(い未な なに等与よ	い々でとメュ。満い いつでえる い場の規も)たの。 場いコるこ て合測定ににだ場 合てア恐と は) 「定値、10 に でした につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、は につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に につい、に にっ に に に に に に に に に に に に に	び 10 個に S 満足しなけ測定 満足としのなり 満足のデータ で調さので 事で値の で なり ない ない はい ない ない ない はい ない ない はい ない ない ない ない ない ない ない ない ない な		

									規	各値													
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	(2	測定値 X)	の平均 *面管理の 測定値	の場合は の平均		定	基	準		測	定	筃	所		摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下												
1 共	2	6 —	8	1	半たわみ性舗装	長工	基準高▽	±40	±50	_	_	基準高は延長し、道路中心			, ,,,	4 //-			『は、行	学理図 等	-	-2-6-7	
通經	般施	般舗			(下層路盤工)		厚さ	-45	-45	-15	-15	厚さは各車線 起こして測定		毎に 1	ヶ所を掘り					□事を↓ り総使用			
///	工	装					幅	-50	-50	_	_	幅は、延長	80m毎l			3,000 t	以上の	の場合な	が該当	する。			
		工							I			定。ただし、 らず延長 80m とができる。 「3次元計測 要領(案)」 方法を用いる	n 以下の 対技術を の規定の	の間隔で用いた	で測定するこ 出来形管理 則点の管理	より規 施工管	模は小 理に反 一工種	、さいも 映でき の施工	のの、 る規札	莫の工事	ま果を Fをい		
1 共	2	6 —	8	1	半たわみ性舗装	专工	基準高▽	±90	±90	+40 -15		1.3次元デー いて、国土な								5 10 個	1に9		
通 編 	般施工	般舗装工			(下層路盤工)	})	厚 さあるいは標高較差	±90	±90	+40 -15	-15	を用いた出 で用いた出 で用と基準に対 を実施する場 を実施する場 でで、 を実施する場 を実施する。計 して、 は は は は は は は に は は に は は に は に は に は に は に は に に に に に に に に に に に に に	管理を実 見定する 計測に 計合に 測値が の の の	E施する 計測に に 開 は 関 り は は り は り は り は り は り は り は り れ り れ り	5場合、その 情度・計測密) 出来形管理 。 。 [には計測精 いる。	ばなら 値の平 数が 10 値は適	ないと 均値(らない 0 個末	ともに (X ₁₀) に 、 たた 満の場	.、10 fl こつい ごし、厚	固以上の て満足し 孠さのテ	測定 なけ ータ		
												全ての点で 度は 1 点/n 以上とする。 4. 厚さは、	î(平面 直下層	が表面の標高	面積当たり) 5差と当該層								
												の標高差との 5. 厚さを標 合は、直平均値 さとの差とす 評価は省略す	高較差 層の目標 道+設計	として !高さ+	 - 評価する場 - 直下層の標 いら求まる高								

									規格	各値												
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ()		10 個の の平均 *面管理の 測定値の	j(X ₁₀))場合は	測	定	基	準		測	定	笛	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
1 共	2	6 —	8	2	半たわみ性舗装	麦工	厚き	-25	-30	- 8	-10	幅は、延長8 厚さは各車線							『は、管	管理図等を描	1-2-6-8	
通編	般施工	般舗装工			(上層路盤工) 粒度調整路盤]		幅	-50	-50			起こして測定の測点によら測定すること「3次元計測要領(案)」(方法を用いる	oず延長 : ができ 技術を の規定に	80mり る。 用いた よる?	以下の間隔で :出来形管理 則点の管理	基層お 3,000 t 小規 より規	よび表 以上の 模工事 模は小	層用混 の場合な とは、 さいも	配合物の が該当 中規札 のの、	り総使用量か する。 莫以上の工事	事	
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8		半たわみ性舗装 (上層路盤工) 粒度調整路盤コ (面管理の場合	Ľ	厚るいは差	-54	-63	- 8	-10	力1.いをづ他度を 2.度 3.全度以 4.の 5.合高さと、3、い出基満施 個し 計の1と 厚高 厚、差の用元生出形にする の生 はで点す さ差 を直平差になった来準だす の生 はで点す は差 を直平差になって 現点点す はと を下均と	一定来等見十分 測 計票点 直差 高層生との理実の法適 の含 員を面 層算 差標計	る「要施計に用 規ま の算投 の出 と高 出3領す測よす 格れ 内出影 標す しさ	 	い合 (個ば値れ数値) でき上ら平な1適	一当 理はのな均ら0工す で、割い値な個種る な個合と(い未	iの施工 ・ いってという ・ はの規もいう ・ は、X ₁₀) た場 が、満の場	にが数! ・) ・) ・) に値を ・、、10 (・、こつし、 にし、 にし、 にし、 にし、 にし、 にし、 にし、 にし、 にし、 に	日連続する場 が 10 個に 満足しなり 間以上の測 で満足しない で満足しない	易 9 0 1 1 1 7	

									規 柞	各値												
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の液 (X)	の平式 *面管理® 測定値	の場合は の平均	0.4	定	基	準		測	定	筃	所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
1 共	2	6 —	8	3	半たわみ性	舗装工	厚さ	-25	-30	- 8	-10	幅は、延長 8 厚さは、1,00	00 m²に	1個0	り割でコアー	中規	模以上	:の工事		管理図等を指		
通編	般施	般 舗			(上層路盤 セメント	工) (石灰) 安定	幅	-50	-50	_	_	を採取もしく だし、幅は認										
	エ	装 工			処理工							長 80m 以下の きる。	の間隔で	測定す	することがで		-			する。 模以上の工事		
															出来形管理	より規	模は小	さいも	000.	、管理結果を	<u>.</u>	
	0	0		0	N/ .	- 41/4A	E V			1		方法を用いる	らことが	できる	0	い、同-	一工種	の施工		日連続する場		
1 共	2	6	8	3	半たわみ性		厚 さ あるいは	-54	- 63	- 8	-10	1. 3次元デーいて、国土ダ	を通省の	「3 次	大元計測技術							
通編	般施	般 舗			(上層路盤 セメント	工) (石灰) 安定	標高較差					を用いた出身 づき出来形質								が 10 個に	9	
	エ	装工			処理工							他本基準に対 度を満たす計										
					(面管理の	場合)						を実施する場	場合に適	用する	00					て満足しない 厚さのデータ		
												 個々の計 度として±10 				数が 10値は適用			合は	測定値の平均	į į	
												3. 計測は設			0							
												全ての点で標 度は 1 点/n	票高差を	算出す	トる。 計測密							
												以上とする。		1又尔)田	11月コにソ)							
												4. 厚さは、 の標高差との										
												5. 厚さを標合は、直下層 高較差平均値	層の目標 直+設計	高さ+	- 直下層の標							
												さとの差とす	「る。									

								規 相	各値		
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定値 X)	の平均	の場合は	測 定 基 準
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	
1 共	2	6	8	4	半たわみ性舗装工	厚さ	-15	-20	- 5	- 7	幅は、延長 80m毎に 1 ヶ所の割とし、 工事規模の考え方 1-2-6-8 厚さは、1,000 ㎡に 1 個の割でコアー 中規模以上の工事は、管理図等を描
通編	般施	般舗			(加熱アスファルト 安定処理工)	幅	-50	-50	_	_	を採取して測定。ただし、幅は設計図 いた上での管理が可能な工事をいい、 書の測点によらず延長 80m 以下の間隔 基層および表層用混合物の総使用量が
孙田	工	装			女足处连工/						で測定することができる。 3,000 t 以上の場合が該当する。
		工									「3次元計測技術を用いた出来形管理 小規模工事とは、中規模以上の工事 要領(案)」の規定による測点の管理 より規模は小さいものの、管理結果を
1	2	6	8	4	半たわみ性舗装工	厚さ					方法を用いることができる。
共通	_	_	Ō	1	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	あるいは	-36	-45	- 5	- 7	いて、国土交通省の「3 次元計測技術」合が該当する。
編	般施	般舗			(加熱アスファルト 安定処理工)	標高較差					を用いた出来形管理要領(案)」に基 づき出来形管理を実施する場合、その (面管理でない場合)
	工	装工			(面管理の場合)						他本基準に規定する計測精度・計測密 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 度を満たす計測方法により出来形管理 個以上の割合で規定値を満足しなけれ
											を実施する場合に適用する。 ばならないとともに、10 個以上の測定 値の平均値 (X ₁₀) について満足しなけ
											2. 個々の計測値の規格値には計測精 ればならない。ただし、厚さのデータ 度として±10 mmが含まれている。 数が 10 個未満の場合は測定値の平均
											値は適用しない。
											3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高差を算出する。計測密
											度は 1 点/m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。
											4. 厚さは、直下層の標高差と当該層
											の標高差との差で算出する。
											5. 厚さを標高較差として評価する場
											合は、直下層の目標高さ+直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高
											さとの差とする。

									規	各値												
編	章	節	条	枝番	I.	種	測定項目	個々のi	()	10 個の の平均 *面管理の 測定値	り(X ₁₀) の場合は の平均		定	基	準		測	定	笛	所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下											
1 共	2	6	8	5	半たわみ性舗装	表工	厚さ	- 9	-12	- 3	- 4	幅は、延長 8 厚さは、1,00							it 4	管理図等を持	1-2-6-8	
通編	般施	般舗			(基層工)		幅	-25	-25	_		を採取して測書の測点によ	則定。た	だし、	幅は設計図	いた上	での管	理が可	能な	L事をいい、		
が冊	工	装工										香の側点によ で測定するこ 「3次元計測 要領(案)」	とがで	きる。 用いた	出来形管理	3,000 t 小規	以上 <i>0</i> 莫工事	り場合か とは、	。 該当 中規模	する。 莫以上の工事	-	
												方法を用いる							- //- 1.	莫の工事をレ		
1 共	2	6	8	5	半たわみ性舗装	麦工	厚 さあるいは	-20	-25	- 3	- 4	1.3次元デ [、] いて、国土ダ							が数は	∃連続する場		
通編	般施	般舗			(基層工)		標高較差			Ü	*	を用いた出現でまる。	来形管理	要領	(案)」に基				`			
AAID	工	装工			(面管理の場合)						他本基準に規度を実施する場を実施する場として± の計	見定する 十測方法 場合に適 ・測値の 4 mmが含	計測はすり、根まれば、根本のでは、	度・計測密 出来形管理 には計測精 いる。	厚さん 個以上の ばなられ 値の平均 ればなり	- はのなめらい (個合と(いま)	々でとXio)たの はもいたの はないたの	, 定値だ 値を消 、10 f こつい	個以上の測録 て満足しなり	し 言 ナ マ	
												 計測は設全ての点で構度は 1 点/n以上とする。 厚さは、 	票高差を ㎡(平面	算出す 投影面	る。計測密 積当たり)	コアー技 橋面部 等に損(- 采取に 舗装等 傷を与	ついて でコア える恐	・ 一採I れのる	取により床間 ある場合は、		
												の標高差との				i色マンカル	11-d	<i>a</i> ⊂ C	~∵шл	√ .∞'0		
												5. 厚さを標合は、直下層高較差平均値 さとの差とす	層の目標 直+設計	高さ+	直下層の標							

								規	各値		
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の (∑		10 個の2 の平均 *面管理の 測定値の	(X ₁₀) 場合は	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模以上	以下	
1 共	2	6 —	8	6	半たわみ性舗装工	厚さ	- 7	- 9	- 2	- 3	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、工事規模の考え方 1-2-6-8 厚さは、1,000 ㎡に1 個の割でコアー 中規模以上の工事は、管理図等を描
通編	般施	般舗			(表層工)	幅	-25	-25	_	_	を採取して測定。ただし、幅は設計図 いた上での管理が可能な工事をいい、 書の測点によらず延長 80m 以下の間隔 基層および表層用混合物の総使用量が
луны	工	装工				平坦性	_	-	3m プロフィ (σ)2.4m 直読式 き) (σ)1.75	m以下 (足付 imm以	で測定することができる。 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	6	半たわみ性舗装工(表層工)(面管理の場合)	厚されは標高較差平坦性	-17 -	-20	(σ)2.4m	ルメーター mm 以下 (足 付 imm 以	1. 3 次元データによる出来形管理において、国土交通省の「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案注)に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として生 4 mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高差を算出する。計測密度は 1 点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高差と当該層の標高差との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の標高きと当該層合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。

							規 札	各 値		
編	章	節	条	枝番 工 種	測定項目		測定値 X)	10 個の の平均 *面管理の 測定値の	J(X ₁₀) D場合は	測 定 基 準
						中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	
1 共	2	6 —	9	1 排水性舗装工	基準高▽	±40	±50	_	_	基準高は延長 40m毎に 1 ヶ所の割と 工事規模の考え方 1-2-6-9 し、道路中心線及び端部で測定。 中規模以上の工事は、管理図等を描
通編	般施	般舗		(下層路盤工)	厚さ	-45	-45	-15	-15	厚さは各車線 200m毎に 1 ヶ所を掘り いた上での管理が可能な工事をいい、 起こして測定。 基層および表層用混合物の総使用量が
利用	工 工	装工			幅	-50	-50	_	_	幅は、延長 80m毎に 1 ヶ所の割に測 3,000 t 以上の場合が該当する。 定。ただし、幅は設計図書の測点によ 小規模工事とは、中規模以上の工事
1	2	6	9	1 排水性舗装工	基準高▽	±90	±90	+40		らず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 1. 3 次元データによる出来形管理にお
共通編	般施工	一般舗装工		(下層路盤工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差		±90	-15 $+40$ -15	+50	いて、国土交通省の「3 次元計測技術 を用いた出来形管理要領(案)」に基個以上の割合で規定値を満足しなけれ づき出来形管理を実施する場合、その 他本基準に規定する計測精度・計測密値の平均値(X ₁₀)について満足しなけ 度を満たす計測方法により出来形管理 を実施する場合に適用する。
										を実施する場合に適用する。 数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高差を算出する。計測密度は 1 点/m (平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高差と当該層の標高差との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。

									規 札	各値			
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ()	測定値 (X)	10 個の の平均 *面管理の 測定値	g(X ₁₀) の場合は	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	以下		
1 共	2	6	9	2	排水性舗装工		厚さ	-25	-30	- 8	-10	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 工事規模の考え方 1-2-6-9 厚さは各車線200m毎に1ヶ所を掘り 中規模以上の工事は、管理図等を描	
通編	般施	般舗			(上層路盤工) 粒度調整路盤工		幅	-50	-50	_	_	起こして測定。ただし、幅は設計図書いた上での管理が可能な工事をいい、 の測点によらず延長 80m 以下の間隔で 基層および表層用混合物の総使用量が	
7/4111	工	装			松及							測定することができる。 3,000 t 以上の場合が該当する。	
		工										「3次元計測技術を用いた出来形管理 小規模工事とは、中規模以上の工事 要領(案)」の規定による測点の管理 より規模は小さいものの、管理結果を	
1	2	6	9	2	排水性舗装工		厚さ					方法を用いることができる。 施工管理に反映できる規模の工事をい 1.3 次元データによる出来形管理におい、同一工種の施工が数日連続する場	
共通	一般	一般			(上層路盤工)		あるいは標高較差	-54	-63	- 8	-10	いて、国土交通省の「3 次元計測技術 合が該当する。 を用いた出来形管理要領(案)」に基	
編	施工	舗装			粒度調整路盤工				l			では、たちになっている。 でき出来形管理を実施する場合、その 他本基準に規定する計測精度・計測密 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9	
		I I			(面管理の場合)							度を満たす計測方法により出来形管理個以上の割合で規定値を満足しなけれ	
												を実施する場合に適用する。 ばならないとともに、10 個以上の測定 値の平均値 (X ₁₀) について満足しなけ	
												2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として±10mmが含まれている。 数が 10 個未満の場合は測定値の平均	
												値は適用しない。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、	
												全ての点で標高差を算出する。計測密 度は 1 点/㎡(平面投影面積当たり)	
												以上とする。	
												4. 厚さは、直下層の標高差と当該層	
												の標高差との差で算出する。	
												5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標	
												高較差平均値+設計厚さから求まる高 さとの差とする。	

щ,	/ ~ / .		- T 4		及い死怕但							
編	章	節	.,.	枝番		測定項目	規 個々の測定値 (X) 中規模 以上 小規模 以下	の平均 *面管理・ 測定値	測定値 匀(X ₁₀) の場合は の平均 小規模 以下	測 定 基 準 測 定 箇 所	単位 : 摘	
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9		排水性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安気 処理工	厚を幅		- 8 -		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	-6-9	
1 共通編	2一般施工	6一般舗装工	9		排水性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安京 処理工 (面管理の場合)	厚める一種である。	-54 -63	- 8		1.3 次元データによる出来形管理において、国土交通省の「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。		

									規格	各値												
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の海 (X)	測定値	り(X ₁₀) の場合は の平均	測	定	基	準		測	定	筃	所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下											
1	2	6	9	4	排水性舗装工		厚さ	-15	-20	- 5	- 7	幅は、延長8								com to before it. Inte	1-2-6-9	
共通	般	般			(加熱アスファ	ルト	幅	-50	-50	_	_	厚さは、1,00 を採取して測								理図等を描 事をいい、	i	
編	施工	舗装			安定処理工)							書の測点によ で測定するこ	/ /		> 1 · 1/3/1/13	基層お 3,000 t		/ П / 14 17 Ц	H 1/4	1.0 0 0 14 11 11		
	т.	I.										「3次元計測	則技術を	用いた	出来形管理	小規	模工事	とは、	中規模	以上の工事		
												要領(案)」の方法を用いる								管理結果を [の工事をい		
1	2	6	9	4	排水性舗装工		厚さ	0.0		_		1. 3 次元デー							が数日	連続する場	17	
共通	般	般			(加熱アスファ	ルト	あるいは 標高較差	-36	-45	– 5	- 1	いて、国土ダ を用いた出3				古が該	= 9 ବ	0				
編	施工	舗装			安定処理工)							づき出来形管 他本基準に規						~		5 10 個に 9)	
		I.			(面管理の場合	<u>,</u>						度を満たす計	+測方法	により	出来形管理	個以上	の割合	で規定	値を満	足しなけれ	,	
												を実施する場	場合に適	用する	0					以上の測定 満足しなけ		
												2. 個々の計			には計測精	ればな	らない	。ただ	し、厚	さのデータ		
												度として±10	0 ㎜が含	まれて	いる。	剱か 10値は適			台は側	定値の平均		
												3. 計測は設 全ての点で標										
												_ 度は 1 点/n	n²(平面		- 0 111 0 4 1-							
												以上とする。										
												4. 厚さは、 の標高差との										
												5. 厚さを標 合は、直下層 高較差平均値	層の目標	高さ+	直下層の標							
												高製を平均値	_ ,,,,,,,	子でり	・いかょる同							

									規格	各値												
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の? (X	()	の平均 *面管理の 測定値	の場合は の平均	測	定	基	準		測	定	筃	所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	以下											
1 共	2 —	6	9	5	排水性舗装工		厚さ	- 9	-12	- 3	- 4	幅は、延長 8 厚さは、1,0							: は、 1	管理図等を	1-2-6-9)
通編	般施	般舗			(基層工)		幅	-25	-25		_	を採取して進書の測点によ				いた上	での管	理が可	能な!	L事をいい	١,	
///////////////////////////////////////	工	装工										で測定するこ 「3次元計測 要領(案)」	とがでり技術を	きる。 用いた こよる)	出来形管理 則点の管理	3,000 t 小規 より規	以上の 模工事 模は小	の場合か とは、 さいも	ぶ該当 中規模 のの、	する。 莫以上のエ 管理結果	事	
1	2	6	9	5	排水性舗装工		厚さ					方法を用いる 1.3 次元デ	ータによ	る出来	来形管理にお	い、同	一工種	の施工	- //- 12	莫の工事を ∃連続する		
共通編	般施工	一般舗装工			(基層工) (面管理の場合	·)	あるいは 標高較差	-20	-25	- 3		いて、国土3 を用いた出 づき出来形質 他本基準に対 度を満たすま	来形管理 管理を実 見定する	里要領 施する 計測精	(案)」に基 場合、その 情度・計測密	(面管: 厚さ	理でな は、個	い場合 々の測	定値だ	バ 10 個に 満足しなに		
												を実施する場 2. 個々の計	場合に適 ・測値の	用する 規格値	。 [には計測精	ばなら 値の平 ればな	ないと 均値(らない	ともに (X ₁₀) に 、ただ	、10 fl こついっ こし、厚	固以上の涯 て満足した 厚さのデー	削定 よけ −タ	
												度として±・			0	数が 10値は適			合は心	則定値の平	4均	
												3. 計測は設 全ての点で様	票高差を	算出す	つる。計測密			い場合				
												度は 1 点/r 以上とする。		投影面	「積当たり)					 反により月	卡版	
												4. 厚さは、	直下層の	の標高	i差と当該層	4 . 42 .				ある場合に そる。	ţ,	
												の標高差との)差で算	出する	0							
												5. 厚さを標合は、直下順高較差平均値 さとの差とす	層の目標 直+設計	高さ+	- 直下層の標							

									規	各 値												
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の (X		10 個の の平均 *面管理の 測定値	J(X ₁₀) D場合は	測	定	基	準		測	定	筃	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下											
1 共	2 —	6 —	9	6 排水	:性舗装工		厚さ	- 7	- 9	- 2	- 3	幅は、延長 厚さは、1,0							「は、行	萱理図等を描	1-2-6-9	
通編	般 施	般 舗		(表	層工)		幅	-25	-25	_		を採取してき								E事をいい、 D総使用量が	:	
nym	工	装工					平坦性	_	_	3mプロフ (σ)2.4 直読式 き) (σ)1.7	mm以下 (足付 5mm以	で測定する。	ことがで 則技術を の規定!	きる。 用いた こよる	上出来形管理 測点の管理	3,000 小規 より規 施工管 い、同	t 以上の 模工事 模は小 理に反	つ場合だ とはいで いで 施工	が該当 中規 のの、 る規			
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	(表	性舗装工 層工) 管理の場合	})	厚さは標高較差平坦性	-17	-20 -	(σ)2.4 直読式 き) (σ)1.7	(ルノーケー mm 以下 (足 付 5mm 以	1. 3 で 他度を 2. 度 3. 全度り 4. の 5. 合高さ 次国た来準たす 々て 測点 1. 上 さ差 さ直平差 が 1. はど を下均と で 1. はと を下均と で 2. で 1. で 1. と はと を 1. で 2. で 2. で 3. 全度り 4. の 5. 合高さ 2. で 4. で 5. 合高さ 2. で 4. で 5. 合高さ 3. 全 で 5. 合高さ 4. で 6. で 5. 合高さ 5. 合高さ 6. で 5. 合高さ 6. で 5. 合高さ 7. で 7.	交来管規計場 削4 と漂光す の 票層値が理定測合 測価が幅声がる 下芝 転の十省のでまる法適 の含 員を(層算 差標設) 里施計に用 規ま の算平 の出 と高 3 領す測よす 格れ 内出面 標す しさ	欠(る情りら、直で、刺す皮 元案)名・直で、刺す皮 り、一直で、刺する。 り、一直で、刺り、 い、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 は、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、こので、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、	「おうなうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「からな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「おうな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」に、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっなっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっなっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっな」と、「なっなっなっなっな。」と、「なっなっなっなっな。」と、「なっなっなっなっなっなっなっなっなっなっなっなっなっなっなっなっなっなっなっ	理はのな均ら0月 理採舗傷法で、割い値な個し で取装をにな個合と(い未な なに等与よ	, い々でと X1.o 満い いつでえる い場の規も) たの。 場いコるこ て合測定ににだ場 合てア恐と は	「定値な に値、10 f にでした にでした にでした にでした にでした にでした にでした にでした	び 10 個に 11 型に 11 単元 11 単元		

								規 柞	各	値		
編	章	節	条	枝番	エ	種 測定項目	個々の (X		<i>O</i> . *面	個の測 の平均(i管理の 側定値の	(X ₁₀) 場合は	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 以上	小規模 以下			ト規模 以下	
1 共 通	2 一 般	6 一 般	10	1	透水性舗装工(路盤工)	基準高▽		50		_		基準高は片側延長 40m毎に 1 ヶ所の割 工事規模の考え方 1-2-6-10 で測定。 中規模以上の工事は、管理図等を描 厚さは、片側延長 200m毎に 1 ヶ所掘 いた上での管理が可能な工事をいい、
編	施工	組織			(岭盛土)	厚さ	t < 15cm t ≧	-30		-10		9 起こして測定。 基層および表層用混合物の総使用量が幅は、片側延長 80m毎に1ヶ所測定。 3,000 t 以上の場合が該当する。
		エ				.t=	15cm	-45		-15		ただし、幅は設計図書の測点によらず 小規模工事とは、中規模以上の工事よ 延長 80m 以下の間隔で測定することが り規模は小さいものの、管理結果を施
						幅	-1	100				できる。 工管理に反映できる規模の工事をい
												※歩道舗装に適用する。 い、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 やが該当する。 では、 の規定による測点の管理 方法を用いることができる。 では、
1 共	2	6	10	1	透水性舗装工		t < 15cm	+90 -70		+50 -10)	1.3 次元データによる出来形管理におい 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 て、国土交通省の「3 次元計測技術を用いた 個以上の割合で相定値を満足したけれ
通編	般施工	般舗			(路盤工)	基準高▽	t ≧ 15cm	±90		+50 -15	,	出来形管理要領 (案)」に基づき出来形管理 を実施する場合、その他本基準に規定する 計測精度・計測密度を満たす計測方法によ
	エ	装工			(面管理の場合)	厚さ	t < 15cm	+90 -70		+50 -10		り出来形管理を実施する場合に適用する。 り出来形管理を実施する場合に適用する。 タ数が 10 個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。
						あるいは 標高較差	t ≧ 15cm	±90		+50 -15)	て±10 mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての
									1			点で標高差を算出する。計測密度は 1 点/m2 m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。
												4. 厚さは、直下層の標高差と当該層の標高 差との差で算出する。
												5. 厚さを標高較差として評価する場合は、 直下層の目標高も十直下層の標高較差平均 値+設計厚さから求まる高さとの差とす
												る。この場合、基準高の評価は省略する。 ※歩道舗装に適用する。
												次少 追離教に週刀りる。

							規	各値	
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合は 測定値の平均	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 小規模 以下	中規模 小規模 以下	
1 共	2	6 —	10	2	透水性舗装工	厚さ	- 9	- 3	幅は、片側延長 80m毎に 1 ヶ所の割で 測定。
通編	般施	般 舗			(表層工)	幅	-25	_	厚さは、片側延長 200m毎に 1 ヶ所コ いた上での管理が可能な工事をいい、 アーを採取して測定。 基層および表層用混合物の総使用量が
	I	装工							ただし、幅は設計図書の測点によらず 3,000 t 以上の場合が該当する。 延長 80m 以下の間隔で測定することが できる。
1 共通編	2一般施工	6一般舗装工	10	2	透水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚める被差	-20		方法を用いることができる。 1. 3 次元データによる出来形管理において、国土交通省の「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定するより出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として生 4 mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高差を算出する。計測密度は 1 点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高差と当該層の標高差と当該層の標高差との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。 ※歩道舗装に適用する。 ※歩道舗装に適用する。

							規	格 値		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10 個の測定 の平均(X ₁₀ *面管理の場合 測定値の平均	測定基準測定簡所	摘要
							中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規以上 以		
1 共	2	6	11		グースアスファルト 舗装工	厚さ	-15 -20	-	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアー 中規模以上の工事は、管理図等を描	1-2-6-11
通編	般施工	般舗装工			(加熱アスファルト 安定処理工)	幅	-50 -50		を採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる場合が該当する。	
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	111	1	グースアスファルト 舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さいは標高較差	-36 -45	_ 5 _	1. 3 次元データによる出来形管理において、国土交通省の「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基個以上の割合で規定値を満足しなけれづき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密密を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高差を算出する。計測密度は 1 点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高差と当該層の標高差との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	

					単位:mm
編章節	条	枝番 工 種	規格値 10個の 側定項目 (X) * 10 個の の平数 * 10 個の の平数 * 10 個の の平数 * 10 個の * 10 個の ・ 10 単型 ・ 10 個の ・ 10 単型 ・ 10 単元 ・ 10 単元 10 単元 10 単元 10 単元 10 単元 10 単元	f(X ₁₀) D場合は 測 定 基 準 測 定 箇 所	摘要
1 2 6 一 般 編	11	2 グースアスファルト 舗装工 (基層工)	厚 さ - 9 -12 - 3 幅 -25 -25 -		2-6-11
1 共通編 2 6 一般施工 2 上 2 上 3 上 3 上 3 上 3 上 3 上 3 上 3 上 3 上	11	2 グースアスファルト 舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚 さ あるいは -20 -25 - 3 標高較差	1. 3 次元データによる出来形管理において、国土交通省の「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として生 4 mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高差を算出する。計測密度は 1 点/㎡ (平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高差と当該層の標高差との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高をとの差とする。	

								規権	各値		
編	章	節	条	枝番	工 種	i 測定項目	個々の (∑	測定値 ()	10 個の の平均 *面管理の 測定値	り(X ₁₀) の場合は	測定基準測定箇所摘要
							中規模以上	小規模 以下	中規模以上	以下	
1 共	2	6 —	11	-	グースアスファルト 舗装工	厚き	- 7	- 9	- 2	- 3	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000m2 に 1 個の割でコアー
通編	般施	般舗			(表層工)	幅	-25	-25	_	_	を採取して測定。ただし、幅は設計図 いた上での管理が可能な工事をいい、 書の測点によらず延長 80m 以下の間隔 基層および表層用混合物の総使用量が
ична	工	装工			(衣盾上)	平坦性	_	_	3m プロフ. (σ)2.4 直 読 式 き) (σ)1.7	mm 以下 (足付	で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。
											వ _ం
1 共通編	2 一 般 施	6 一 般 舗	11		グースアスファルト 舗装工 (表層工)	厚 さ あるいは 標高較差	-17	-20	- 2		1. 3 次元データによる出来形管理において、国土交通省の「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、そのはないとともに、10 個以上の測定でき出来形管理を実施する場合、そのはないとともに、10 個以上の測定でき出来形管理を実施する場合、その
	エ	装工			(面管理の場合)	平坦性	_	_	(σ)2.4	mm 以下 (足付	他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。
											2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として± 4 mmが含まれている。 コアー採取について
											3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高差を算出する。計測密度は 1 点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。 維持工事においては、平坦性の項目を
											4. 厚さは、直下層の標高差と当該層 の標高差との差で算出する。
											5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。

									規	各値		
編	章	節	条	枝番	I.	種	測定項目	個々の ()		10 個の の平均 *面管理の 測定値	g(X ₁₀) の場合は	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下	
1 共 通	2 一 般	6 一 般	12	1	コンクリート領		基準高▽	±40	±50	_	_	基準高は延長 40m毎に 1 ヶ所の割と 工事規模の考え方 1-2-6-12 し、道路中心線および端部で測定。厚 中規模以上の工事とは、1 層あたり さは各車線 200m毎に 1 ヶ所を掘り起 の施工面積が 2,000 ㎡以上とする。
編	施工	舗装工			(/		厚さ	_	45	_		こして測定。幅は、延長 80m毎に 1 ヶ 小規模以下の工事とは、施工面積が 所の割に測定。ただし、幅は設計図書 2,000 ㎡未満。 の測点によらず延長 80m 以下の間隔で 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9
		<u></u>					幅	_	50	_	_	測定することができる。 個以上の割合で規定値を満足しなけれ 「3次元計測技術を用いた出来形管理 ばならないとともに、10 個以上の測定
												要領(案)」に基づき出来形管理を実 施する場合は、同要領に規定する計測 精度・計測密度を満たす計測方法によ り出来形管理を実施することができ 値は適用しない。
												る。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、
												他の方法によることが出来る。

																										: 111111
										規	各値															
編	章	節	条	枝番	エ		種	測定項目	個々の (∑		10 個の の平均 *面管理の 測定値	匀(X ₁₀) の場合は		測	定	基	準	É I		測	定	筃	所		摘	要
									中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下														
1 共 通	2 一 般	6 一 般	12	2	コンクリ	一ト舗装 		基準高▽	±90	±90	+40 -15	±50 −15	いて、国	国土交	通省の	13 3	次元	管理にお 計測技術 き)」に基	中規	模以上	:の工事		、1 層で トンマ <i>ス</i>	あたり	1-2-6-1	2
編	施工	舗装工				里の場合)		厚 さ あるいは 標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15	づき出来 他本基準	ド形管 単に規	理を実 定する	施する計測	る場 精度) 合、その ・計測密 来形管理	小規 2,000 n	模以下	の工事		、施工i			
		上						1441.4 124					を実施す	「る場	合に適	用する	る。									
													2. 個々の として±	1				計測精度								
													ての点で	で標高 /m²	値を算	出す	る。	とし、全 計測密度 たり) 以								
													4. 厚さに 標高値と					当該層の								
													は、直7 較差平均	下層の 匀値+ こする	目標厚 設計厚 。この	[さ+j [さか]	直下	する場合 層の標高 まる高さ 準高の評								

Г										t- t-t-			
									規格	各 値			
j	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定値 X)	10 個の の平均 *面管理の 測定値	J(X ₁₀) D場合は	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
	1 共	2 —	6 —	12	3	コンクリート舗装工	厚さ	-25	-30	-	0	幅は、延長 80m毎に 1 ヶ所の割とし、 工事規模の考え方 1-2-6-12 厚さは、各車線 200m毎に 1 ヶ所を掘 中規模以上の工事とは、1 層あたり (4.17) 「原は割り図の作工工程が 2,200~3以上した。	
	通編	般施工	般舗装			(粒度調整路盤工)	幅	_	50			り起こして測定。ただし、幅は設計図 の施工面積が 2,000 ㎡以上とする。 書の測点によらず延長 80m 以下の間隔 小規模以下の工事とは、施工面積が で測定することができる。 2,000 ㎡未満。	
			I									厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規定値を満足しなけれ	
												ばならないとともに、10 個以上の測定 値の平均値 (X ₁₀) について満足しなけ	
												ればならない。ただし、厚さのデータ 数が 10 個未満の場合は測定値の平均	
												値は適用しない。	
												コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等	
												に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	

																									电加	
										規	各値															
編	章	節	条	枝番	エ		種	測定項目	個々の (∑		の平3	D測定値 匀(X ₁₀) の場合は の平均		測	定	基	準			測	定	筃	所		摘	要
									中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下														
1 共通編	2 一般施工	6一般舗装工	12	4	(粒度調	リート舗装 関整路盤 里の場合)	工)	厚までは差には差	-55	-66		- 8	いをづ他度を 2.と 3.ては上 4.標 5.は、い出基満施 々て 測点点す さ値 さ直	国た来準たす の± はでえる はと を下均土出形にする 計10 設標㎡。 、の 標層値交来管規計場 測㎜ 計高。 直差 高の+	通光理定測合 値が 幅値(平下で 較目設)の野実る法適 規ま の算书 の出 と厚厚	「要施計に用 格れ 内出影 標す しさ3 領す測よす 値で 側す面 高る て+間	欠(る锖り5。 こハ 全る積 直 評直元案)房・来 計。 と計た 当 す層	理測」、計形 測 に測り 該 るのるに技にそ測管 精 、密) 層 場標高を構造の密理 度 全度以 の 合高さ	中規札 の施工配 小規札	莫以上 面積が 莫以下	の工事 2,000 の工事	m²以⅃	1 層を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を	たり。	-2-6-12	

									規格	各値											
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の ()		10 個の の平均 *面管理の 測定値	匀(X ₁₀) の場合は	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
1 共 通	2 一 般	6 一 般	12	5	コンクリート (セメント (厚さ	-25	-30	_	_	幅は、延長8 厚さは、1,00 ーを採取もし	00 m²1Z	1 ケ戸	斤の割でコア		上の工事		1 層あたり ことする。	1-2-6-12	
編	施工	舗装工			青)安定処理		幅	_	50	_	_	ただし、幅は 延長 80m 以 [¬] できる。				2,000 ㎡未満	0		施工面積が が 10 個に 9		
		1										(23)				個以上の割る ばならないと	うで規格 こともに	各値を注 L、10	満足しなけれ 個以上の測定		
																値の平均値 ればならない 数が 10 個ラ	\。たた k満の場	ごし、 月	厚さのデータ		
																値は適用したコアー採取に	こついて				
																橋面舗装等 等に損傷を見 他の方法によ	テえる思	いれの			

_																						甲四	
										規	各値												
	編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目		測定値 X)	の平5 *面管理	○測定値 匀(X₁₀) の場合は [の平均	測	定	基	準		測	定	筃	所	摘	要
									中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下											
	1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	6	(セメン 青) 安	ー ト舗装工 / ト (石灰・ 定処理工) :理の場合)	厚あ標高較差	-55	-66		- 8	いをづ他度を 2.と 3.ては上 4.標 5.は 国た来準たす の± はで/る はと を下 国た来準たす の± はで/る はと を下 の ま はで/る はと を下	交来管規計場 測皿 計高(直差 高の+通形理定測合 値が 幅値平 下で 較目設督管室でお近 めき 員を面 層算 差標計	の理実る去箇 見ま の算投 の出 と享る 3 領す測よす 値で 側す面 高る て 正	(案)」、(案)」、(案)」、(表)」、(表)」、(表))、(表))、(表))、(表))、(表))、(表))、(表))、(表))	f 中規相 の施工規 の小規 の小規 の の の の の の の の の の の の の の の	莫以上 面積が 莫以下	の工事 2,000	m²以上	. 1 層あたり ととする。 . 施工面積が		2

									規格	各 値			
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の (∑		10 個の の平均 *面管理の 測定値	J(X ₁₀) D場合は	測 定 基 準	
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
1 共 通		6 一 般	12	7		ート舗装工ファルト中間	厚さ	- 9	-12	_	0	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 工事規模の考え方 1-2-6-12 厚さは、1,000 ㎡に1ヶ所の割でコア 中規模以上の工事とは、1 層あたり 一を採取して測定。ただし、幅は設計 の施工面積が2,000 ㎡以上とする。	
編	,	舗装			層)	/ / ルド中間	幅	_	25	_		図書の測点によらず延長 80m 以下の間 小規模以下の工事とは、施工面積が 隔で測定することができる。 2,000 ㎡未満。	
		エ										厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなけれ	
												ばならないとともに、10 個以上の測定 値の平均値(X ₁₀)について満足しなけ ればならない。ただし、厚さのデータ	
												数が 10 個未満の場合は測定値の平均 値は適用しない。	
												コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等	
												に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	

																							-	単位:	
										規	各値														
編	章	節	条	枝番	エ	種	直	則定項目	個々の (X		10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 測定値の平均		測	定	基	準		į	測	定	筃	所		摘	要
									中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下														
1 共通編	2 一般施工	6一般舗装工	12	8	(アス 層)	J — ト舗装 T ファルト	友	あるいは	- 20	-27	- 3	いをづ他度を 2.と 3.では上 4.標 5.は較 の1.と 厚高 厚、差 の1.と 厚高 厚、差	い出基満布 々て 則点点す さ直 さ直 ま直れ来準たす の土 はで/る はと を下国た来準にする 計細 設標が の 標層 直差 高の	ごを見るごを見るごを見るごを見るにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてをにてを<) 里をおまれ 内出影 標す しさい 関す 値い 側す面 高る です	- には計測料 いる。 全面と計削 を る。計たり で を を を を を を を を を を を を を を を を を を	で	中規模 施工面 小規模	以上 i積が 以下	の工事 2,000	m²以⅃	. 1 層あた ととする。 たと 施工面積		6-12	

_					1 1																			
										規	格値													
希	扁	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ()		平均 *面管理	測定値の (X ₁₀) の場合は の平均		測	定	基	準		測	定	笛	所	摘	要
									中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下												
-	1 ‡	2	6	12	9	コンクリート		厚さ	_	10	_	0 [後各車	線 200	0m毎l	に水糸		レ 中	規模以」	上の工具		、1 層あたり	1-2-6-12	2
i á		般施工	般舗装			(コンクリー 工)	- 卜舗装版	幅	_	25	-	_	所以上	測定、	幅は、	延長	方向に 3 80m 毎に は各車線領	1 小	規模以7	Fのエ≣		ヒとする。 、施工面積が		
			炭 工					平坦性	-		硬化後 イルメーター 機械舗 (σ)2.4	リートの 3m プロファ ・により 投の場合 ŀmm 以下 投の場合	にる場各にり高200mに 縁なは線糸断測を 200mに	かお、の又方 定に、80ml ら、厚中は向し両幅! 80ml	1m リ管付べる の ツ理近い 加 の の の の の の の の の の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 。	線プにでこ所三縁図上フ関各よ以打を書し、オし車り上設測の	全延長とは 長工設前に 線 200m を 1 測線の基準 後にする。	すのこ毎に準線 の間ば値れ数値 維持	さ上ら平なり 10 にまい 10 に 10	□ 々の規 は でとし、 でとも、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	格値を注 こ、10 / こついこ だし、「 場合は注 は、平	が 10 個に 9 満足しなけれ 個以上の測定 で満足しなけ 早さのデータ 則定値の平均 坦性の項目を		
								目地段差		Ξ	±2		隣接す及び端			対して	道路中心約	泉						

現 格 領																						<u>v</u> . IIIII	
## 第 節 条 核毒 工									規	格値													
1	編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目		平均*面管理	J(X ₁₀) !の場合は		定	基	準		測	定	筃	所	扌	商 要	
# 日本									中規模 小規模 以上 以下														
大学	共	_	_	12	10			あるいは		_	3.5	おいて、国	土交通	省の「	3 次元計測	中規	模以上	の工事			b 1-2-6-	-12	
组 B. C. C. W. M. C. C. M. C.		施	舗装			工)				(σ)2. 直読式	7ァイルメーター 4mm 以下 た(足付 s) 5mm 以下	に合度りす 2.度 3.全密り 4.の 5.合標る さ、地る 個と 計で度) 厚標 厚は高高さの測形 のて は点1上 は値 を直差と出他密管 計4 設で点さ、を 標下平の	来本度理 測皿 計標/ナ 直の 高層均差形準満実 の含 員値(層質 差目 計す)	・ほた施 規ま のを平 の詳 と票設る 理規すす 格れ 内算面 標出 し厚計。を定計る 値で 側出投 高す てさ厚こ	ます測場 にい 全す影 値。 評+さす割法に 計る 面る面 と 価直かす割法に適 測 し計当 該 る層のまの と 優のまのます のまり しかり かった 層 場のま	小規 2,000 n 維持 を省略	嫫以下 『未満。 工事に	の工事	¥とは、 [は、 ³	施工面積 平坦性の項			
								目地段差	=	± 2				対して	、道路中心								

										規格	各値		
編	i :	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の (∑	測定値 K)	10 個の の平均 *面管理の 測定値	J(X ₁₀) の場合は	測 定 基 準
									中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	
1 共 通	į .	2 一 般	6 一 般	12	11		ト舗装工 クリート版	基準高▽	±40	±50	_	_	基準高は、延長 40m 毎に1ヵ所の割と し、道路中心線及び端部で測定。
絹		施工	舗装工			工) 下層路盤工		厚さ	_	45	_	15	り起こして測定。幅は、延長 80m 毎に 小規模以下の工事とは、施工面積が 1 ヵ所の割に測定。ただし、幅は設計 2,000 ㎡未満。 図書の測点によらず延長 80m 以下の間 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9
								幅	_	50	_		隔で測定することができる。
													値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。
													コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。
													維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。

																							Z : IIIIII
									規格	各値													
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ()		10 個の の平均 *面管理の 測定値	j(X ₁₀) の場合は	測	定	基	準			測	定	筃	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下												
1 共 通	2 一 般	6 一 般	12	12	コンクリート (転圧コンク		基準高▽	±90	±90	+40 -15		1.3 次元デ いて、国土 を用いた出	交通省の	D [3]	次元計測	則技術	中規	模以上	:の工事		、1 層あた トンする	1-2-6-	12
編	施工	舗装工			工) 下層路盤工	7 1 700	厚 あるいは 標高較差	±90	±90	+40 -15	-15	づき出来形 他本基準に 度を満たす	管理を第 規定する	実施する計測	る場合、 精度・計	その 計測密	小規	模以下	の工事		、施工面積	漬 カゞ	
		-1-			(面管理の場	合)						を実施する:			- 1 17 1 17 1	夕目 垤							
												2. 個々の計 として±10r				訓精度							
												3. 計測は設 ての点で標 は 1 点/m 上とする。	高値を算	算出す	る。計測	則密度							
												4. 厚さは、 標高値との				亥層の							
												5. 厚さを標 は、 を下 直 を 変差 平 り と の 省 い 省 と の 省 と で は と の も と り も と り と り も と も と も と も と も と も と	の目標原 +設計原 る。この	厚さ+i 厚さか	直下層の ら求まる	の標高 る高さ							
				1								l											

神規模 小規模 小規模 小規模 以下 以上 以下 以上 以下 以下 以下 以下																				
1 2 6 12 共 一 一 通 般 般 漏 施 舗 工 装 工 1 3 コンクリート舗装工	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	測定値	10 個の の平均 *面管理の	J(X ₁₀) D場合は	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
共																				
維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。	通	一般	般舗	12		(転圧コンクリート版工)	-		_	8	厚さは、各車組 り起こして測り 書の測点により	腺 200m 定。ただ うず延長	毎に ごし、 80m	1 ヵ所を掘幅は設計図以下の間隔	中規模以上の 中規工模な以上の 小のの ㎡末、1 2,000 ㎡末、1 個はなのとといるのはなのではなのではないではでいるができる。 値ははが適けている。 維持工事に	上 1 下 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 2 で 2 で	パリ_ 事とは 単定値を こ、10 ここでした に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	上とする。 大		

									規	格 値															
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の (2	測定値 K)		匀(X ₁₀) の場合は		測	定	基	準			測	定	笛	所		摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下														
	2 一般施工	6 一般舗装工	12		(転圧 = 工) 粒度調整		厚 あ標高較差	-55	-66	_	8	いをづ他度を 2.と 3.ては上 4.標 5.は、い出基満施 々て 測点点す さ値 さ直	国た来準たす の土 はでえる はと を下均 土出形にする 計10 設標㎡。 、の 標層値 ・ 直差 高の+	受求等見計合 値が 幅値で 下で 較目設計をすりた の含 員を面 層算 差標計 の出 と厚厚	「3領・大川 格れ 内出影 標す しさい はい はい 高る てき	次にる精りる にい 全る積 値 評直元案場を・ヲ きる 値の 画さる 価下値	合、その ・計測密 来形管理 計測精度	中規 の施工 小規 2,000 r	模以上 面積が 模以下	この工事 5 2, 000 ドの工事	m²以_	、1 層あが 上とする。 、施工面和	きり	2-6-12	

												平 □."""
									規格	各値		
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の ()		10 個の の平均 *面管理の 測定値	J(X ₁₀) D場合は	
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	
1 共 通	2 一 般	6 一 般	12	15		ート舗装工 ンクリート版	厚さ	-25	-30	_	8	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000 ㎡に1 個の割でコアー 中規模以上の工事とは、1 層あたり を採取もしくは、掘り起こして測定。 の施工面積が2,000 ㎡以上とする。
編	施工	舗装工			工) セメント 青) 安定処	、 (石灰・瀝 ^{加理工}	幅	_	50	_		ただし、幅は設計図書の測点によらず 小規模以下の工事とは、施工面積が 延長 80m 以下の間隔で測定することが 2,000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9
					H) ALX	GÆL						個以上の割合で規定値を満足しなけれ 「3次元計測技術を用いた出来形管理 ばならないとともに、10 個以上の測定
												要領(案)」の規定による測点の管理 値の平均値(X ₁₀)について満足しなけ 方法を用いることができる。
												値は適用しない。
												コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、
												他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を
												##付工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。

																						: mm
									規	各値												
級	記 章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の ()		の平均 *面管理	測定値 匀(X ₁₀) の場合は [の平均	測	定	基	準		測	定	筃	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
1	1 一般	一 般 舖	12	16	コンクリート音 (転圧コンク 工) セメント (青) 安定処理 (面管理の場合	リート版 石灰・瀝 L		-55	-66		. 8	 1.いをづ他度を 2.と 3.ては上 4.標 5.は較と次、い出基満施 々て 測点点す さ値 さ直平差元国た来準たす の± はで/る はと を下均とする 計10 設標㎡。 、の 標層値する はと を下均と 	近天 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東	「3毎計に用 格れ 内出影 標す しご 3 領す測よす 値て 側す面 高る で+ で) で) です でん ぎ でん かい かん	欠(る情) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大	中規 の施工 小規 2,000 r	模以上 面積が 模以下	:の工事 2,000 の工事	㎡以上	1 層あたり とする。 施工面積が		3

	_							_				•				1				_	. 111111
									規格	各値											
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の ()		10 個の の平均 *面管理の 測定値	J(X ₁₀) の場合は	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
1 共 通	2 一 般	6 一 般	12	17		ート舗装工 ンクリート版	厚さ	- 9	-12	_		厚さは、1,00	0 m²に	1個0	り割でコアー	工事規模の考え 中規模以上の の施工面積が 2	の工事			1-2-6-12	2
編	施工	舗装工			工) アスファ/	ルト中間層	幅	_	25	_	_	書の測点によ で測定するこ			以下の間隔	2,000 ㎡未満。			. 施工面積が が 10 個に 9		
																個以上の割合 ばならないと	で規定	値を 、10	満足しなけれ 個以上の測定		
																値の平均値(X ればならない。 数が 10 個未済	。 ただ 満の場	し、	厚さのデータ		
																値は適用しない コアー採取につ	0				
																橋面舗装等等に損傷を与った。 等に損傷を与った。	える恐	れの	ある場合は、	:	
																維持工事におい省略することが	ハては	:、平:	0		

_																									
									規	各値															
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の ()	測定値 K)	10 個の海 の平均 *面管理の 測定値の	(X ₁₀) 場合は		測	定	基	準			測	定	筃	所		摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 /	小規模 以下														
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	18	(転圧 = 工) アスファ	ート舗装工 コンクリート ルト中間層 ¹ の場合)	厚あ高較差さは差	- 20	-27		3	いて、 を用い づき出	国た来準たす の土 はでごる はと を下均土出形にする 計価 設標㎡。 、の 標層値交来管規計場 測 計高 直差 高の+	通形理定測合 値が 幅値(平下で、較目設)の理実る法適 規ま の算书 の出 と厚厚	・T 要施計に用 格れ 内出影 標す しさ で # しさ	次にる精りる にふ 全る積 値 評直計)」、語子 計 と計さ 当 す層の 上 一番で	測」、計形 測 し測り 該 るの技にそ測管 精 、密) 層 場標術基の密理 度 全度以 の 合高	の施工	模以上 面積が 模以下	の工事 2,000 の工事) ㎡以_	、1 層 と	あたり	-2-6-12	

									規格	各 値											
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目		測定値 X)	10 個の の平均 *面管理の 測定値	J(X ₁₀) D場合は	測	定	基	進	測	定	笛	所	摘	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下										
1 共 通	2 一 般	6 一 般	12	19		ート舗装工	厚き	_	15	<u> </u>		後各車線 2	00m毎l	こ水糸ス	てはレベルに	· 工事規模の表 · 中規模以_ 、の施工面積が	上の工事			1-2-6-12	}
編	施工	舗装工			工)		幅	_	35	-		上測定、幅 割で測定、	は、延長 平坦性/	長 80m角 は各車線	事に1ヶ所の	小規模以一 2,000 m²未満	下の工事 i。	事とは			
		±					平坦性	-	_	転圧コン トの硬化 3 m プロ メーター (σ)2.4	後、 ! フィル -により mm 以下	し、幅は設 80m 以下の る。 「3次元計	計図書の 間隔で海 測技術を の規定	の測点に 則定する と用いた による?	こよらず延長 ることができ 出来形管理 則点の管理	: 個以上の割る ばならないと 値の平均値 ればならない	合で規定 こともに (X ₁₀) に い。たた 未満の場	E値を 1、10 こつい ごし、	満足しなけれ 個以上の測定 て満足しなけ 厚さのデータ	-	
							目地段差		±	2		隣接する各 及び端部で		対して、	道路中心紡	コアー採取に	筝でコア	ー採!	取により床版 ある場合は、	į	
																他の方法によ維持工事には省略すること	おいてに	は、平:	, 0		

																					. 111111
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	規 相 個々の測定値 (X) 中規模 以上 以下	の平均 *面管理 測定値)測定値 匀(X ₁₀) の場合は の平均 小規模 以下	測	定	基	進		測	定	筃	所	摘	要
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	20	コンクリー (転圧コン 工) (面管理の ⁴	クリート版	厚ある転標高較差では差	-32	3mプロ (σ)2.4 直読式 き)	4.5 7(N/X-9- Hmm 以下下 C (足付 75mm 以	1.いをづ他度を 2.と 3.ては上 4.標 5.は較と次、い出基満施 々て 測点点す さ値 さ直平差元国た来準たす の± はで/る はと を下均とする 計mm 設標㎡。、の 標層値する である はとを下均とする 計mm 設標㎡。 に 差 標 の 十名	延展理点測合 値が 幅値(下で、較目設定を発力に の含 員を面 層算 差標計の理実る法適 規 がの算投 の出 と厚厚	「要施計に用 格い 内出影 標す しさ3 領す測よす 値い 倒す面 高る て+1 の の で	た (中規工 の施工 小規 2,000 r 維持 工 省 略 す	模以上 面積以が 模以下 ポ未満。 事にお	の工事 2,000 の工事 。	m [*] 以上 まとは、 t、平均	1 層あたり さとする。 施工面積が	1-2-6-12	
							目地段差	±	2		隣接する各目 及び端部で測		して、	道路中心線							

				T T	1													. !!!!!!
							規 柞	各値										
編	章	節	条	枝番 工 種	測定項目	個々の (X		10 個の液 の平均 *面管理の 測定値の	(X ₁₀) 場合は	測 定 基	準	Ĭ	N 3	定	筃	所	摘	要
						中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下									
1 共 通	2 一 般	6 一 般	13	1 薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	_		基準高は、延長 40m毎に 1 し、道路中心線及び端部で は、各車線 200m毎に 1 ヵ	で測定。厚さ	中規模	とは、	1層		の施工面積	1-2-6-13	
編	施工	舗装工		(1/841111-1-)	厚き		45	-1	5	こして測定。幅は、延長 80 所の割に測定。ただし、幅 の測点によらず延長 80m 以	0m毎に1ヶ 届は設計図書	小規模 2,000 ㎡	以下の k満。	工事	とは、	施工面積が が 10 個に 9		
		上			幅	-	50	_		測定することができる。 「3次元計測技術を用いた	出来形管理	個以上の ばならな	割合で いとと	*規格 もに、	値を流 、10 f	満足しなけれ 固以上の測定		
										要領(案)」の規定によるÆ 方法を用いることができる		ればなら	ない。 個未満	ただ ਗの場	し、厚	て満足しなけ 厚さのデータ 則定値の平均		
1	2	6	13	2 薄層カラー舗装工						幅は、延長 80m毎に 1 ヶ戸	近の割とし							
4 通編	般施工	一般舗装工	13	(上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚き	-25	-30	— :	8	幅は、延及 80 m 毎に 1 ヶヶ 厚さは、各車線 200 m 毎に り起こして測定。ただし、 書の測点によらず延長 80 m で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた 要領(案)」の規定による後 方法を用いることができる	1 ヶ所を掘幅は設計図 幅は設計図 以下の間隔 出来形管理 則点の管理							
					幅		50	_	-									
												1						

												里12:111111	
								規 柞	各 値				
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の (∑		10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合は 測定値の平均	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
							中規模以上	小規模 以下	中規模 小規模 以下				
1 共 通	2 一 般	6 一 般	13	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	- 8		規模の考え方 規模とは、1層あたりの施工面積 000 ㎡以上とする。	1-2-6-13	
編	施工	舗装			セメント(石灰)安定処理工	幅	_	50	_	「3次元計測技術を用いた出来形管理 小規要領(案)」の規定による測点の管理 2,000	規模以下の工事とは、施工面積が O ㎡未満。		
		工								個以_ ばなり 値の ³ ればz 数が	さは、個々の測定値が 10 個に 9 上の割合で規格値を満足しなけれ らないとともに、10 個以上の測定 平均値 (X ₁₀) について満足しなけ ならない。ただし、厚さのデータ 10 個未満の場合は測定値の平均 適用しない。		
1 共	2	6	13	4	薄層カラー舗装工	厚さ	-15	-20	– 5	厚さは、1,000m2 に 1 個の割でコアー 橋面舗	- 採取について 舗装等でコアー採取により床版等	1-2-6-13	
通編	施工	般舗装工			(加熱アスファルト安 定処理工)	幅	_	50	_		傷を与える恐れのある場合は、他 法によることが出来る。		
					## C 1 - Abble or								
1 共通	2 一 般	6 一 般	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚さ	- 9	-12	- 3	幅は、延長 80m毎に 1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000m2 に 1 個の割でコアー を採取して測定。		1-2-6-13	
編	施工	舗装			, ,	幅	_	25	_	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理			
		工								方法を用いることができる。			

_																甲型	. 111111
								規	各値								
編	i 章	節	第	技番	工種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合は 測定値の平均	測	定	基 準	測	定 箇	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以下								
1 共 通	1		1	4 1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	_	し、道路中心総	泉及び端	に1ヶ所の割と 部で測定。厚さ 1ヶ所を掘り起	中規模とは	て、1層あた	上りの施工面積	1-2-6-14	Į
編		舗			(1/6/4 111 /	厚き	_	45	15			長 40m毎に 1 ヶ	小規模以下 2,000 ㎡未満。	の工事とに	は、施工面積が 直が 10 個に 9		
						幅	_	50	_				個以上の割合 ばならないと	で規格値を ともに、10	:満足しなけれ) 個以上の測定		
													ればならなV 数が 10 個末	v。ただし、 :満の場合に	ヽて満足しなけ 厚さのデータ は測定値の平均		
													値は適用しな	:V \ .			
1 共		_	1,	4 2	ブロック舗装工	厚き	-25	-30			≹ 200m4	ヶ所の割とし、 毎に 1 ヶ所を掘				1-2-6-14	Į.
編	, , , ,	舗装			(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	_	50	_	り起こして測定	0						
		工															

												単位:mm
								規格	各 値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の ()		10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合は 測定値の平均	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以下			
1 共 通	2 一 般	6 一 般	14	3	ブロック舗装工 (上層路盤工)	厚き	-25	-30		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアー を採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000 m以上とする。	1-2-6-14
編	施工	舗装			セメント(石灰)安定 処理工	幅	_	50	_		小規模以下の工事とは、施工面積が 2,000 ㎡未満。	
		Τ.									厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、 10 個以上の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
1 共	2	6	14	4	ブロック舗装工	厚さ	-15	-20	_	厚さは、1,000 ㎡に 1 個の割でコアー	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等	1-2-6-14
通編	般施工	般舗装工			(加熱アスファルト安 定処理工)	幅	_	50	_	を採取して測定。	に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
1 共	2	6	14	5	ブロック舗装工	厚き	- 9	-12		幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000 ㎡に1 個の割でコアー		1-2-6-14
通編	般施工	般舗装			(基層工)	幅	_	25	_	を採取して測定。		
		工										

単位:mm

								TH T	<i>t</i> , <i>l</i> +-										平位	
								規格	予 1 但											
ŕ	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X)	測	定	基	準	浿	定	箇	所		摘	要
=	1	2 —	6 —	15	1	路面切削工	厚 さ t	- 7	- 2	厚さは 40m行高の差で算出	出する。								1-2-6-15	
	通編	般施工	般舗装				幅 w	-25	_	測定点は車道 中心とする。 延長 40m未						€ İ				
			Ĭ							箇所とする。 断とする。 別においている。 別に出来法は自 がは、 のででである。 は、 のででである。 は、 のででである。 は、 のでである。 は、 のでである。 は、 のでである。 は、 のでである。 は、 のでで、 のでで、 のでで、 のでで、 のでで、 のでで、 のでで、 の	間隔、 自動横断 側技術を の規定に ることが	測点数 測定法 用いた こよきる。	を変えるこ によること 出来形管理 別点の管理 。	t T		計 計 補装 w	+	*		
ì	1 共通編	2 一般施	6 一 般 舗	15		路面切削工 (面管理の場合) 標高較差または厚さ tのみ	厚 さ t (標高較差)	-17 (17) (面管理とし て緩和)		1. 施工履歴 理要領(案) き出来形管理 る。	(路面	切削工	編)に基づ						1-2-6-15	
		I	装工				幅 w	-25	_	2. 計測計算 (注)	面との厚 る。計 る 動 ま た は ま 本 に も と に る も た れ に も と も た れ る ら り は た る ら る し る り る と り る し る し る し る し る し る し る し る し る し る	さtま 則密 り) い を が が を た に 測 に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ れ れ に れ に れ れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に ま に れ に ま に ま	たは標高較 は1点/㎡ 上とする。 は、現舗装 算出する。 I定するもの	t	 現	Q. ————————————————————————————————————	<u>+</u>	*		

単位:mm

									規	各値											
編	章	節	条	枝番	エ	種	測	定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X)	測	定	基	準	浿	」 定	Ē	筃	所	摘	要
1 共	2	6	16		舗装打替え工		四夕	幅 w	_	-50		測技術を	と用いた	出来形管理						1-2-6-16	
通編	般施工	般舗装					路盤工	延長L			要領 (案)」 方法を用い				* -	_					
		工						厚さt	該当	i工種					w		_	_	$\supset \uparrow$		
							舗	幅 w	_	25					↓ <u>↓</u>				w 		
							部 設 工 -	延長L		100							L				
								厚さt	該当	i工種											

単位:mm

							規	各値										
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X)	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
1 共	2 -	6	17	1	オーバーレイエ	厚さ t	_	9	厚さは 40m4 イ後の基準高	の差で	算出す	る。					1-2-6-17	7
通編	般施工	般舗装				幅 w	_	25	測定点は車道 中心とする。 幅は、延長 8									
		工				延長L	<u> </u>	100	延長 80m未 箇所とする。						€ :			
						平坦性		3mプロフィルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付	「3次儿司供	技術を の規定	·用いた こよるネ	:出来形管理 則点の管理	t 7	現舗	. - - 	3 BI - 3		

単位:mm

		1 7							平位.11111
編	章	節	条 枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共	2	7 地	2	路床安定処理工	基 準 高 ▽	±50	延長 40m毎に 1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。		1-2-7-2
通編	般施	盤改			施工厚さ t	-50	厚さは中心線及び端部で測定。		
が冊	施 工	良			幅 w	-100	「3 次元計測技術を用いた出来形管理 要領 (案)」による管理の場合は、全	<u> </u>	
		工			延 長 L	-200	体改良範囲図を用いて施工厚さt、天端幅w、天端延長Lを確認(実測は不		
							要)。	∇ ∇ ∇	
								t	
								w	
1 共	2	7 地	3	置換工	基 準 高 ▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m		1-2-7-3
通編	般施	盤改			置換厚さ t	-50	(50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	C	
孙田	工	良			幅 w	-100	厚さは中心線及び端部で測定。	G_ 	
		工			延 長 L	-200			
								₩ →	
								<u> </u>	
								/	
								w w	
									[
]

																	単1⊻:ⅢⅢ
編	章	節	条	枝番		測定	項	目	規	格値	測		基	準	測	定 箇 所	摘要
1 共 通	2 一 般	7 地 盤	4	1	表層安定処理工 (サンドマット海上)	基準	高	∇		仕様書に 明示	施工延長 10㎡ 5点以上測定		1 浿	削点当たり			1-2-7-4
編	施	改			() () () () ()	法	長	Q.	-	-500					- /	2 3 G	
	エ	良 工				天 端	幅	w	-	-300	w. (L) はが 所、80m以下				2	\6	
						天端延	長	L	-	-500	き 3 ヶ所。 (L) はセン	ターラン	イン及	が実東注言		w.(L)	
											で行う。	9-77	1 ~ /×	(小衣表広用	<u></u>	e	
1	2	7	4	2	表層安定処理工	基準	高	∇	特記仕	様書に明え	施工延長 10m		1 測	点当たり			1-2-7-4
共通	般	地盤			(ICT施工の場合)	法	長	.Q	_	-500	5点以上測定	0				2 3 4	
編	施工	改 良				天 端	幅	w	-	-300	「3 次元計測 - 要領 (案)」					(5)	
		工				天端延	長	L	-	-500	を用いて天端	幅w、ラ				413	
											一(実測は不要)。			2	w.(L)	
1 共	2	7 地	5		パイルネット工	基準	高	∇		±50	施工延長 40r は50m) につ			25mの場合			1-2-7-5
通編	般施	盤改				厚	さ	t		-50	- 限さば中心線 - 測定。			属り起こして		G İ	
72100	工	良工				幅		w	-	-100	成た。 杭についてに る。	は、当該	杭の	項目に準ず		w w	
						延	長	L	-	-200	<i>'</i> ∂∘					∨ ∨ ∨ .	
																t	

単位:mm

					1					平位.
編	章	節	条	枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共	2	7 地	6		サンドマット工	施工厚さ t	-50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は50m) につき1ヶ所。		1-2-7-6
通編	般施	盤改				幅 w	-100	厚さは中心線及び両端で掘り起こして - 測定。	G	
nppm	工	良工				延 長 L	-200	DAJAC o	t t	
		<u> </u>								
									$\downarrow \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad$	
1 共	2	7 地	7		バーチカルドレーン工	位置・間隔 w	± 100	100 本に 1 箇所。 100 本以下は 2 箇所測定。1 ヶ所に 4		1-2-7-7
通編	般施	盤改			(サンドドレーン工) (ペーパードレーン	,		- 本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対		
77113	工	良工			、 工) (袋詰式サンドドレー			象外とする。	W → Litil®	
					ン工)	· 杭 径 D	設計値以上	ペーパードレーンエにおいては、「3		
			8					次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法	"	
					締固め改良工 (サンドコンパクショ			を用いることができる。	$\leftarrow \longrightarrow$	
					ンパイル工)	打込長さ h	設計値以上	全本数	~ V	
								全本数 計器管理にかえることができる。		
						サンドドレーン、袋詰		サンドコンパクションパイル工においては、「3次元計測技術を用いた出来	※余長は、適用除外	
						式サンドドレーン、サンドコンパクションパ	_	形管理要領 (案)」の規定による測点 の管理方法を用いることができる。		
						イルの砂投入量				
								-		

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	9	1	固結工 (紛体噴射撹拌工) (高圧噴射撹拌工) (スラリー撹拌工) (生石灰パイル工)	基 準 高 ▽ 位置・間隔 w 杭 径 D 深 度 L	一50 D/4以内 設計値以上 設計値以上	100 本に 1 ヶ所。 100 本以下は 2 ヶ所測定。 1 ヶ所に 4 本測定。 全本数 L=0 ₁ -0 ₂ 0 ₁ は改良体先端深度 0 ₂ は改良端天端深度	C. L.	1-2-7-9
1 共通編	2 一般 施工	7 地盤改良工	9	2	固結工 (スラリー撹拌工) 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)第8編固結工 (スラリー撹拌工)・バーチカルドレーン工編」による管理の場合	基 準 高 ▽ 位 置 杭 径 D	0以上 D/8以内 設計値以上	杭芯位置管理表により基準高を確認 全本数 施工履歴データから作成した杭芯位置 管理表により設計杭芯位置と施工した 杭芯位置との距離を確認 (掘起しによる実測確認は不要) 工事毎に1回 施工前の撹拌翼の寸法実測により確認 (掘起しによる実測確認は不要)	W W W W W W W W W W W W W W W W W W W	1-2-7-9
						改良長L	設計値以上	全本数 施工履歴データから作成した杭打設結 果表により確認 (残尺計測による確認は不要)		

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共	2	7 地	9	3	固結工	基準高▽	設計値以上	1,000m3~4,000m3 につき 1 ヶ所、又は 施工延長 40m(測点間隔 25mの場合は	ÇL	1-2-7-9
通編	般施	盤改			(中層混合処理)	施工厚さ t	設計値以上	50m)につき 1 ヶ所。 1,000m3 以下、または施工延長 40 m	i	
小州	工	良				幅 w	設計値以上	(50m)以下のものは 1 施工箇所につき	/	
		エ				延 長 L	設計値以上	2ヶ所。 施工厚さは施工時の改良深度確認を出	/∇ ▼ ∇ \	
								来形とする。 「3 次元計測技術を用いた出来形管理	t t	
								要領(案)表層安定処理等・固結工(中層混合処理)編」による管理の場	\leftarrow $\stackrel{\mathrm{w}}{\longrightarrow}$	
								合は、全体改良範囲図を用いて、施工 厚さt、幅w、延長Lを確認(実測は		
								不要)。		
1 共	2	10 仮	5	1	土留・仮締切工	基 準 高 ▽	±100	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25 mの場合は 50m) につき 1 ヶ所。延長		1-2-10-5
通編	般施	設工			(H鋼杭) (鋼矢板)	根 入 長	設計値以上	40m (又は 50m) 以下のものは、1 施工箇所につき 2 ヶ所。		
///III	工				(213) (100)			(任意仮設は除く)		
								(上点 次 次 水へ)		
									11 !!	
1	0	10	_		土留・仮締切工			△ ₩-		1 0 10 5
1 共	2	10	5	2		削孔深さℓ	設計深さ以上	全数	d Con	1-2-10-5
通編	般施	設工			(アンカー工)	配置誤差 d	100	(任意仮設は除く)	y y	
	工									
									$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
									$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	

単位:mm

編	章	節	条 枝番	: 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共通編	2一般施工	10 仮設工	5 3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 0	-100	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	L 1	1-2-10-5
					延長 L ₁ L ₂	-200	1 施工箇所毎		
1 共	2 —	10 仮	5 4	土留・仮締切工	基準高 ▽	-50	施工延長 50mにつき 1ヶ所。 延長 50m以下のものは 1 施工箇所につ		1-2-10-5
通編	般施	設工		(締切盛土)	天 端 幅 w	-100	き2ヶ所。	e × × e	
Alm	ļН				法 長 0	-100	(任意仮設は除く)	ISIIS	

											単12 : MM
編	章	節	条札	支番 工	種	測定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	5 土留・化(中詰Ω		基準	高▽	-50	施工延長 50mにつき 1 ヶ所。 延長 50m以下のものは、1 施工箇所に つき 2 ヶ所。 (任意仮設は除く)		1-2-10-5
1 共通編	2 一般施	10 仮 設 工	9	地中連絡(壁式)	売壁工		高 ▽	±50 -50	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25 mの場合は50m) につき1ヶ所。延長40m (又は50m) 以下のものについては1施工箇所につき2ヶ所。	\ <u>\</u>	1-2-10-9
が抽	一 工	上				変	位	300	1 加工箇所につさ 2 ヶ所。 変位は施工延長 20m (測点間隔 25m		
						壁体	長 L	-200	の場合は 25m) につき 1 ヶ所。延長 20m(又は 25m)以下のものは 1 施工 箇所につき 2 ヶ所。	▼	
1 共通編	2 一般施工	10 仮設工	10	地中連綜(柱列式		連壁の変	高 ▽ 長さ ℓ 位 d 長 L	±50 -50 D/4 以内 -200	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25 mの場合は 50m) につき 1 ヶ所。延長 40m (又は 50m) 以下のものについては 1 施工箇所につき 2 ヶ所。変位は施工延長 20m (測点間隔 25 m の場合は 25 m) につき 1 ヶ所。延長 20m (又は 25 m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	D: 杭径	1-2-10-10

																				単12.	
編	章	節	条 枝番		種	測	定	項目	規	格(I	測		基	準	測	定	筃	所	摘	要
1 共	2	12 工	1 1	鋳造費 (金属支承工)		上下	孔	の直径差		+2 -0		製品全数を	測定。							1-2-12-1	
通編	般施工	場製作				下部鋼構		ボスの突起 置のずれ	を基準	とした	孔位										
		工				造物との:	中心	≦1000mm	-	1 以下											
		通				部鋼構造物との接合用ボルト孔	心距離	ボスの突起 置のずれ	を基準	とした	孔位										
						ト孔		>1000mm	1.	.5以下	•										
						アンカ	孔ドリル	≦100mm		+3 -1											
						ー ボ	ル 加 工	>100mm		$^{+4}_{-2}$											
						孔(鋳放し) ルト・アンカーバー用	孔の	の中心距離 ※ 1		S B 040 -1995 CT13)3										
						センタ	ボン	スの直径		+0 -1											
						ーボス	ボン	スの高さ		+1 -0											
						ボス	ボン	スの直径		+0 -1											
						※ 5	ボン	スの高さ		+1 -1											

編	章	節	条	枝番	エ	種	測	」定項目	規格値	測定基準	測	定	笛	 所	摘要
1 共 通	2 一 般	12 工 場	1		鋳造費 (金属支承工)	1-22	上沓の)橋軸及び橋軸直]の長さ寸法	TTC D 0402	製品全数を測定。					1-2-12-1
編	施工	製作工共					全移動量 ₽※4	ℓ ≦300mm	±2	※1) ガス切断寸法を準用する。 ※2) 片面のみの削り加工の場合も含む					
		通					*4	@ >300mm	±0 /100	※3) ソールプレートの接触面の橋軸 及び橋軸直角方向の長さ寸法に対して は CT13 を適用するものとする。					
							組立	上、下面加工仕上 げ コ H ≦ 300mm	±3	※4)全移動量分の遊間が確保されているのかを確認する。					
							組立高さH	構 ク 造 リ ト H>300mm	(H/200+3) 小数点 以下切り捨て	※5)組立て後に測定 詳細は道路橋支承便覧参照					
								鋳放し長さ寸法 ※2)、※3)	JIS B 0403 -1995 CT14						
							普通寸法	鋳放し肉厚寸法 ※2) 削り加工寸法	JIS B 0403 -1995 CT15 JIS B 0405 -1991 粗級						
								ガス切断寸法	JIS B 0417 -1979 B 級						

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規 格 値	測 定 基 準	測定箇所	摘要
1 共通編	2 一般施工	12 工場製作工	1	2	鋳造費 (大型ゴム支承工)	幅w長さL直径D	w, L, D≤500mm 500 < w, L, D ≤1500mm	0~+5 0~+1%	製品全数を測定。 平面度:1個のゴム支承の厚さ(t) の最大相対誤差 詳細は道路橋支承便覧参照	補強材	1-2-12-1
		工				径 D	1500mm < w, L, D	0~+15		t L	
		通				亘	t ≦20mm	±0.5		W	
						厚 さ t	20mm< t ≦160mm	±2.5%		t	
							160mm< t	±4		D	
						相対誤差	w, L, D≦1000mm	1		D	
						差	1000mm < w, L, D	(w, L, D) /1000			
1 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	3	仮設材製作工	部材		±3··· ℓ ≦10 ±4··· ℓ >10	図面の寸法表示箇所で測定。		1-2-12-1

編	章	節	条 枝	番	工 種	測	定	項	目	規	格	値	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘要
1 共通編	2 一般 施工	12 工場製作工 共通	1	4	刃口金物製作工		П h (高 m)	さ	$\pm 4 \cdots$	h 5< h	≤ 0.5 ≤ 1.0 ≤ 2.0	図面の寸法素	長示箇 戸	斤で測り	定。					1-2-12-1
						外居	∃長 I	(n	n)	±((10+I	L/10)								h	

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工種	ì	測 定	項 目	規格値	測定基準 測定箇所 鋼桁等 トラス・アーチ等	
1 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	3		桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)	部材	腹板 板の平面度δ (mm)	幅 w(m) h(m) h(m) 類隔 b' (m) がの 板 びの鋼ット 直 (m) が δ (m)	b / 150	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5 部材につき 1 個抜き取っ た部材の中央付近を測定。 なお、JIS マーク表示を使用する場合 は、製造工場の発行する JIS に基づく 試験成績表に替えることができる。 主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)	
							材長 Q (m) 圧縮 ※規格	鋼桁 トラス、 アーチなど i材の曲がり δ (mm)		原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。 主要部材全数を測定。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
	0	10			1/ #sil //			鋼げた等 トラス・アーチ等		1 0 10 0
1 共通編	2 一般施工	12 工場製作	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮	全長 L (m) 支間長 Ln (m)	± (10+L/10) ± (10+Ln/10)	各桁毎に全数測定。	単極間の場合	1-2-12-3
		工共通			組立検査を行う場合)	主桁、主構の中心間距離 B(m)	±4····· B≤2 ±(3+B/2) ····· B>2	各支点及び各支間中央付近を測定。		
						主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot h \le 5$ $\pm (2.5 + h/2)$ $\cdot \cdot \cdot \cdot \cdot h > 5$	西端部及び中心部 を測定。	h I	
						を 注析、主構の通り る(mm)		最も外側の主桁又は主構について支点 及び支間中央の1点を測定。 L:測線上(m)	± if t	
						組 主桁、主構のそり δ (mm)	_	各主桁について 10 各主構の各格点を ~ 12 m 間隔を測定。 測定。 E. 上:主桁の (m)	δ L	
						主桁、主構の橋並 における出入差 δ (mm)	±10	どちらか一方の主桁 (主構) 端を 測定。	δ 	
						主桁、主構の鉛I 度 δ (mm)	3+h/1000	各主桁の両端部を 測定。 h:主桁の高さ (mm) 支点及び支間中央 付近を測定。 h:主構の高さ (mm)	$\delta \longrightarrow h$	
						現場継手部のする間 δ ₁ , δ ₂ (mm)	±5	主析、主構の全継手数の 1/2 を測定。 δ1、δ2 のうち大きいもの なお、設計値が 5mm 未満の場合は、す き間の許容範囲の下限値を 0mm とす る。 (例:設計値が 3mm の場合、すき間の 許容範囲は 0mm~8mm)	δ_1 δ_1 δ_2	
								iはm単位の数値である。 の規格値のhに代入する数値は mm 単位	の数値とする。	

単位:mm

編	章	節	条 枝番	工 種		測	至 項 目	規 格 値	測定基準測定箇所摘	要
1 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	3 2	桁製作工 (仮組立検査を実施し ない場合)		フラン腹板高	ンジ幅 w(m) 高 h(m)	$ \begin{array}{c} \pm 2 \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \\ & \text{w} \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \\ & 0.5 < \text{w} \leq 1.0 \\ \pm 4 \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \\ & 1.0 < \text{w} \leq 2.0 \\ \pm (3 + \text{w}/2) \cdot \cdot \cdot \\ & 2.0 < \text{w} \end{array} $	主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5 部材につき 1 個抜き取っ た部材の中央付近を測定。	3
							鋼桁等の部材 の腹板	h / 250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。	
					部	面度	箱桁等のフラ ンジ鋼床版の デッキプレー ト	b / 150	h:腹板高 (mm) b:腹板又はリブの間隔 (mm) w:フランジ幅 (mm)	
					材精度	フラ	ンジの直角度 δ (mm)	w/200	δ	
						部 材 長 (m)	鋼桁	$\begin{array}{cccc} \pm 3 \cdots & \varrho & \leqq 10 \\ \pm 4 \cdots & \varrho & > 10 \end{array}$	主要部材全数を測定。	
									単位の数値である。 の直角度δ」の規格値のh, b, wに代入する数値はmm単位の数値とする。	

単位:mm

									単12 ∶ □□□
編	章	節	条 枝番	工 種	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共	2	12 工	3 3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工(仮	部材の水平度	10	全数を測定		1-2-12-3
通編	般	場		組立時))	堤 長 L	±30	-	L	
が舶	施 工	製作			堤 長 0	±10	-		
		エ			堤 幅 W	±30	-	A H	
		共通			堤 幅 w	±10	-	//FI	
		X.11			高 さ H	±10	-	T I I I E	
					ベースプレートの高さ	±10	1.4	√) h²	
					本体の傾き	± H/500	rw h		
							THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE S	H ASSAULT	
							H	" leter	
							1 H Level	w w e	
							la W	L.W.	
							N A		
							H	h H	
							H	I I	
								In alle	
							W	Wales	
							Annual Cont		
								V. T. T.	
								H = = = = = = = = = = = = = = = = = = =	
							h		
							REFERE	6.6 6.6	
							<u> </u>		

単位:mm

	,					,			里1 年1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
編	章	節	条 枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
編 1 共通編	章 2一般施工	節 12工場製作工 共通		だ製作工 (鋼製堰堤製作工(仮 組立時))		規格値	H	測定箇所	
							H	I H	

単位:mm

					1				年世.11111
編	章	節	条 枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	4	検査路製作工	部 部材長ℓ (m) 材	±3··· ℓ ≤10 ±4··· ℓ >10	図面の寸法表示箇所で測定。		1-2-12-4
1 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	5	鋼製伸縮継手製作工	部 部材長w (m) 材 組合せる伸縮装置 との高さの差 組	$0 \sim +30$	製品全数を測定。 両端及び中央部付近を測定。	 (実測値) δ₂ 	1-2-12-5
1 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	6	落橋防止装置製作工		$\begin{array}{cccc} \pm 3 \cdots & \ell & \leq 10 \\ \pm 4 \cdots & \ell & > 10 \end{array}$	図面の寸法表示箇所で測定。		1-2-12-6
1 共通編	2 一般 施工	12 工場製作工 共通	7	橋梁用防護柵製作工		±3··· ℓ ≤10 ±4··· ℓ >10	図面の寸法表示箇所で測定。		1-2-12-7

単位:mm

糸	扁 重	章	節	条	枝番	工	種		測定	項目	規格値	測	定基	準	測 定 箇 所	摘要
ì	キ -	般	12 工 場	8		アンカーフし	/一ム製作工		上面水平	度 δ ₁ (mm)	b / 500	軸心上全数測量	<u>=</u> 0		_	1-2-12-8
希		工	製作工					仮組立時	鉛直	度 δ_2 (mm)	h /500					
			共通						高	さ h (mm)	±5				η Δη Δη δ ₂	
	1 5	2	12	9		プレビーム	用桁製作 工				±2···	各支点及び各支	可用中央付	近を測定		1-2-12-9
j j	七 —	一般 施工	工場製作工 共	3			инж П		フランジ 腹板高	f幅 w (m) h (m)	$w \le 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \le 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \le 2.0$ $\pm (3 + w/2) \cdots$ $2.0 < w$			KI E MIKLO	h L W I 型鋼げた	
			通					部材	フランミ	ジの直角度 δ(mm)	w/200	各支点及び各支	它間中央付	近を測定。	Δ δ	
									部材長0	(m)	$\begin{array}{ccc} \pm 3 \cdots & \ell & \leqq 10 \\ \pm 4 \cdots & \ell & > 10 \end{array}$	原則として仮約 て主要部材全数		い部材につい		
								仮組立時	主桁のそ	<u>-</u> ŋ	$-5 \sim +5 \cdots$ L ≤ 20 $-5 \sim +10 \cdots$ 20 < L ≤ 40	各主桁について	7 10∼12n	1間隔を測定。	δ L	

										年位 .
絲	i 1	章 〔	節	枝種	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1	i — 角 盾	一	12 1 1 工場製作工 共通		鋼製排水管製作工	部 部材長ℓ (m) 材	$\begin{array}{cccc} \pm 3 \cdots & \varrho & \leqq 10 \\ \pm 4 \cdots & \varrho & > 10 \end{array}$	図面の寸法表示箇所で測定。		1-2-12-10
11 步道 稱	i — 角 盾	一	12 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		工場塗装工	·	厚の平均値は、 目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最 小値は、目標塗膜			1-2-12-11

単位:mm

編	章	節	条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共 通 編	2 一般施	13 橋 梁 架		架設工 (鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設)	全 長 L (m) 支間長 Ln (m)	± (20+L/5) ± (20+Ln/5)	各桁毎に全数測定。	参数数の条件	1-2-13
	エ	設工		(ケーブルエレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン架設)	通 り δ (mm)	± (10+2L/5)	L: 主桁・主構の支間長(m)	± if τ t.	
				(ドグペノーグレーン条款)	そ り δ (mm)	± (25+L/2)	主桁、主構を全数測定。 L:主桁・主構の支間長(m)	δ L	
					※主桁、主構の 中心間距離 B(m)	$\begin{array}{c} \pm 4 \cdots \\ B \leq 2 \\ \pm (3 + B/2) \cdots \\ B > 2 \end{array}$	各支点及び各支間中央付近を測定。		
					※主桁の橋端に おける出入差 δ (mm)	±10	どちらか一方の主げた(主構)端を測 定。	δ 	
					※主桁、主構の 鉛直度 δ (mm)	3+h/1000	各主桁の両端部を測定。 h: 主桁・主構の高さ(mm)	δ h	
					※現場継手部 のすき間 δ ₁ ,δ ₂ (mm)	設計値 ±5	主桁、主構の全継手数の $1/2$ を測定。 δ 1, δ 2 のうち大きいもの なお、設計値が 5 mm未満の場合は、すき間の許容範囲の下限値を 0 mm とする。(例:設計値が 3 mm の場合、すき間の許容範囲は 0 mm \sim 8 mm)	δ_1 δ_1 δ_2	
							※は仮組立検査を実施しない工事に適 用。		
					※規格値のL, Bに代入す ただし、「主げた、主		対値である。 格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする	o	

編	章	節	条 枝番	工種	測定	項目	規	格	値	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
1 共 通	2 一 般	13 橋梁		架設工 (コンクリート橋) (クレーン架設)	全 長	• 支 間				各桁毎に全数)測定。							1-2-13	
編	施工	架 設 工		(架設桁架設) 架設工支保工	桁の中	心間距離		_		一連毎の両端 上下間を測定		支間中央	央について各						
				(固定) (移動)	そ	ŋ		_		主桁を全数測	』定。								
				架設桁架設 (片持架設) (押出し架設)															

					T				1					- 単位・Ⅲ
編	章	節	条	枝番		浿	定 項 目	規格値	測 定 基 準	測	定	筃	所	摘要
1 共 通	2 一般	14 法 面	2	1	植生工 (種子散布工)	切土法	ℓ <5m	-200	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (または 50m) 以下のものは1施工箇					1-2-14-2
編	施工	エ			(張芝工) (筋芝工)	長	ℓ ≧5m	法長の-4%	所につき2ヶ所。 ただし、計測手法については、従来管					
		共通			(市松芝工)(植生シート工)(植生マット工)	盛	ℓ <5m	-100	理のほかに「3 次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)」で規定する出 来形計測性能を有する機器を用いるこ					
					(植生筋工) (人工張芝工) (植生穴工)	土法長	0 ≧5m	法長の-2%	とができる。					
						延	長 L	-200	1 施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来管 理のほかに「3 次元計測技術を用いた					
									出来形管理要領 (案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。					

								·					<u> </u>
編	章	節	条 枝番	工 種	浿	定 項 目	規格値	測 定 基 準	測	定	筃	所	摘要
1 共	2	14 法	2 2	植生工		ℓ <5m	-200	施工延長 40mにつき 1 ヶ所、40m以下 のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。					1-2-14-2
通編	般施工	6面工 共通		(植生基材吹付工) (客土吹付工)	法長 0	ℓ ≧5m	法長の-4%	ただし、計測手法については、従来管理のほかに「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。					
						t <5cm	-10	施工面積 200 ㎡につき 1 ヶ所、面積					
						t ≧5cm	-20	200 ㎡以下のものは、1 施工箇所につき2ヶ所。 検査孔により測定。					
					厚 さ t		iに凹凸がある場合 、設計厚の 50%以 は設計厚以上。						
					延	長 L	-200	1 施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来管					
								理のほかに「3 次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)法面工編」で規 定する出来形計測性能を有する機器を 用いることができる。					

条 枝番		浿	」 定 項 目	+11 +24 は	測 定 基 準	測定簡所	144
3				規格値		側 足 固 別	摘要
	吹付工 (コンクリート) (モルタル)		ℓ <3m	-50	施工延長 40mにつき 1 ヶ所、40m以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。 測定断面に凸凹があり、曲線法長の測定が困難が場合は直線採長とする		1-2-14-3
	(27777)	法長見	ℓ ≧3m	-100	ただし、計測手法については、従来管	TI-	
			t <5cm	-10	200 ㎡につき 1 ヶ所以上、200 ㎡以下 は2ヶ所をせん孔により測定。	*5).	
			t ≧5cm	-20		16.	
		厚 さ t	の最小吹付厚は、	設計厚の 50%以		**	
						£/0	
		延	長 L	-200	ただし、計測手法については、従来管理のほかに「3 次元計測技術を用いた	J. J.	
					来形計測性能を有する機器を用いることができる。	(=1)	
		(モルタル)	(モルタル) 法長 Q 厚さ t	 (モルタル) 法長見 t < 5cm t ≥ 5cm ただし、吹付面にの最小吹付厚は、上とし、平均厚は 	 法長し t < 5cm -10 t ≥ 5cm -20 ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上 延長L -200 	(モルタル) 注	に

単位:mm

編	章	節	条 枝番	工 種	測	定項目	規格値	測 定 基 準	測	定	箇 所	摘要
1 共通編	2 一般施工	14 法 面 工	4 1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法	0 <10m	-100	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (または50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 計測手法については、従来管理のほ				1-2-14-4 曲線部は設計図 書による
		共通			長見	0 ≧10m	-200	かに「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることが出来る。				
					悼	ā w	-30	枠延延長 100mにつき 1 ヶ所、枠延延長 100m以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	a 	→ <u> </u>	w → w → w → w → w → w → w → w → w → w →	
					高	h à h	-30	計測手法については、従来管理のほかに「3 次元計測技術を用いた出来形			a h	
					枠	中心間隔 a	±100	管理要領 (案)」で規定する出来形計 測性能を有する機器を用いることが出 来る。		<u> </u>	<u> </u>	
					延	長 L	-200	1 施工箇所毎 「3 次元計測技術を用いた出来形管 理要領 (案)」で規定する出来形計測				
								性能を有する機器を用いることが出来る。				
				N. H.								
1 共通	2 一 般	14 法 面	4 2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長	ℓ <10m	-100	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (または50m) 以下のものは1施工箇				1-2-14-4
編	施工	エ			0	ℓ ≧10m	-200	所につき2ヶ所。				
		共通			延	長 L	-200	1 施工箇所毎				1-2-14-4

単位:mm

章	節	条 枝番	エ	種	測定項目	規格値		測	定	基	準	測	定	箇	所	摘要
2	14 法 ~	6	アンカーエ		削孔深さ 0	設計値以上	全数					d ,				1-2-14-4 ※鉄筋挿入工に
施工	工				配置誤差 d	100)	у 0		も適用する
	共通				せん孔方向 θ	±2.5度						x			'	
												$d = \sqrt{X}$	$x^2 + y^2$	2		
	2 一 般 施	2 14 一 法 般 面 工 工	2 14 6 一 法 般 面 施 工 工	2 14 6 アンカーエ 一 法 般 面 施 エ 工 共	2 14 6 アンカーエ 一 法 般 面 施 エ 工 共	2 14 6 アンカーエ 削孔深さ 0 般 面 施 工 工 配置誤差 d	2 14 6 アンカーエ 削孔深さ 0 設計値以上 般 面 施 工 工 配置誤差 d 100	2 14 6 アンカーエ 削孔深さ 0 設計値以上 般 面 施 工 工 共 亜電誤差 d 100	2 14 6 アンカーエ 削孔深さ 0 設計値以上 般 面 施 工 工 共 配置誤差 d 100	2 14 6 アンカーエ 削孔深さ 0 設計値以上 般 面 施 工 工 共 亜置誤差 d 100	2 14 6 アンカーエ 削孔深さ 0 設計値以上 般 面 施 工 工 共 亜置誤差 d 100	2 14 6 アンカーエ 削孔深さ 0 設計値以上 般 面 施 工 工 共 亜電誤差 d 100	2 14 6 アンカーエ 削孔深さ ℓ 設計値以上 般 施 工 工 共 通 世ん孔方向 θ ±2.5 度	2	2 14 6 アンカーエ - 法 般 面 放 工 工 共 A	2

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規格値	測定基準測定箇所	摘要
1 共 通	2 一 般	15 擁 壁	1		場所打擁壁工	基	準 高 ▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (または50m) 以下のものは1施工箇	1-2-15-1
編	施 工	工				厚	さt	-20	所につき2ヶ所。	
		通				裏	込厚さ	-50	要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測	
						幅	\mathbf{W}_1 , \mathbf{W}_2	-30	精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。	
						高さ	h < 3m	-50		
						h	h≧3m	-100	$\begin{array}{c c} \hline \downarrow t \\ \hline \\ \hline \\ \hline \\ \hline \\ \hline \\ \hline \\ \hline \\ \hline \\ \hline \\$	
						延	長 L	-200	1 施工箇所毎 「3 次元計測技術を用いた出来形要領 (案)」に基づき出来形管理を実施す	
									(条)」に基づき出来形管理を実施りる場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。	
1	0	1.5	2		プレキャスト擁壁工				W2 W2 W2 M2 M2 M2 M2 M2	1-2-15-2
1 共通編	2 一般施工	15 擁壁工 共	2		ノレヤヤスト	基	準 高 ▽	±50	は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (または 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 ヶ所。 「3 次元計測技術を用いた出来形要領 (案)」に基づき出来形管理を実施す	1-2-15-2
		通				延	長 L	-200	る場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により 出来形管理を実施することができる。 1 施工箇所毎 「3 次元計測技術を用いた出来形要領	
									(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共 通	2 一 般	15 擁 壁	3		補強土壁工 (補強土 (テールアル	基	準 高 ▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (または50m) 以下のものは1施工箇	Δ	1-2-15-3
編	施工	工			メ)壁工法) (多数アンカー式補強 土工法)	[=]	h < 3m	-50	所につき2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」に基づき出来形管理を実	- - - -	
		通			(ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	さ h	h≧3m	-100	施する場合は、同要領に規定する計測 精度・計測密度を満たす計測方法によ り出来形管理を実施することができ	h ======	
						鉛	直 度 △	±0.03 h かつ ±300 以内	り山木が自座を美心りることがくさる。	15	
							え 長 さ 強材の設計長)	設計値以上		+ +	
						延	長 L	-200	1 施工箇所毎 「3 次元計測技術を用いた出来形要領 (案)」に基づき出来形管理を実施す	· / /= /	
									る場合は、同要領に規定する計測精 度・計測密度を満たす計測方法により 出来形管理を実施することができる。		
1 共 通	2 一 般	15 擁 壁	4		井桁ブロック工	基	準 高 ▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (または50m) 以下のものは1施工箇	L ₁	1-2-15-4
編	施工	工				法長	高さh<3m	-50	所につき2ヶ所。		
		通				Q.	高さ h ≧3 m	-100		L ₂	
						厚。	<u> </u>	-50		<u>0 /2</u> t 3	
						延	長 L ₁ , L ₂	-200	1 施工箇所毎	t ₁ 0	
										ℓ ≧ 3 m	
										$\ell<3\mathrm{m}$	

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共 通	2 —	16 浚 渫	3	1	浚渫船運転工			200ps	$-800\sim+200$	延長方向は、設計図書により指定された測線毎。		1-2-16-3
編	般施工	エ			(ポンプ浚渫船)		電気船	500ps	$-1000\sim+200$	横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応 じ中間点も加える。ただし、各測定値		
		共通				基準		1000ps	$-1200\sim+200$	の平均値の設計基準高以下であるこ と。		
						高▽	ディ	250ps	$-800\sim+200$		\ *	
							ーゼ	420ps 600ps	$-1000\sim+200$			
							か船	1350ps	$-1200\sim+200$			
							ψĒ	=	-200			
							延	長	-200			
1 共 通	2 一 般	16 浚 渫	3	2	浚渫船運転工 (クラブ浚渫船)	基	準	高 ▽	+200以下	延長方向は、設計図書により指定され た測線毎。 横断方向は、5m毎。		1-2-16-3
編	施工	エ			(バックホウ浚渫船)		ψĒ	i i	-200	また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値		
		共通					延	長	-200	の平均値の設計基準高以下であるこ と。	\ <u>*</u>	

編	章	節	条	枝番	工. 🧦	種		規相	各 値	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘要
1 共通	2 一 般	16 浚 渫	3		浚渫船運転工 (クラブ浚渫船)	133		平均値	個々の計算値	1.3 次元 [*] において	データに 「3 次テ	こよる。 元計測:	出来形管理 技術を用い 」に基づき					1-2-16-3
編	施工	工			(バックホウ浚渫) (面管理の場合)	船)	標準較差	±0以下	+400 以下	出来形管の	理を面管 他本基準	き理で 準に規	実施する場定する計測					
		通			(田日生の勿口)						来形管理		施する場合					
													値には計測 含まれてい					
										む) の全i 面との標i	面とし、 高較差を 点/㎡	全て シ算出 (平面	(小段を含 の点で設計 する。計測 投影面積当					

単位:mm

					1																年122:111111
編	章	節	条	枝番		測	定	頁 目	規格	植	測			準		測	定	籄	所		摘要
1 共 通 編	2 一般施	18 床 版 工	2		床版工	基	準;	高 ▽	±2	20	付近)で、 の3点、幅	1 ヶ所当 は 1 径間	iたり同 引当たり	2 ヶ所(支点 両端と中央部 0 3 ヶ所、厚 a 10 ㎡に 1	S I	/	圧縮縁	i Č		有	-2-18-2
	エ					幅		w	0~+	⊢ 30	ヶ所測定。 (床版の厚 える。)	さは、型	!枠検査	査をもって代)O-		-0		効高さ	
						厚	i	≛ t	-10~	+20											
						鉄魚	第のカ	ぶり	設計値	以上		面の測定		端及び中央) は断面変化毎	Ē						
						鉄筋	の有	効高さ	±1	10											
						鉄	筋「	間 隔	±2	20	測定。 1 ヶ所の測 数、橋軸直	定は、橋 角方向の	静力向 鉄筋に	端及び中央) 句の鉄筋は全 は加工形状毎							
								鉄筋のマンマイナン	±1	10	に 2mの範	囲を測定。									

				T	1							1					1					1	単位:	111111
編	章	節	条 枝番		種	測	定	項	目	規	格	値	測	定		準		測	定	筃	所		摘	要
3 河 川	1 築 堤	7 法 覆	4	護岸付属物工		幅			w	-	-30		「3 次元計 要領 (案) 点の管理方	護岸工編	前」の	規定に、	よる測							
編	• 護 岸	護岸工				高		さ	h	-	-30													
													. With the											
3 河 川	1 築 堤	10 水 制	8	杭出し水制工		基	準	高	∇	:	±50		1 組毎											
編	• 護 岸	工				幅			W	=	±300													
	, ,					方			向	-	±7°													
						延		長	L	_	-200													
3 河 川	1 築 堤	13 光 ケ	3	配管工		埋	設	深	t	0~	~+50)	接続部(地											
編	• 護 岸	 ブ ル				延		長	L	_	-200		接続部(地 【管路セン			毎で全数	女。							
	,,	配管工																						
		工																						

								₽世.I	
編	章	節	条 枝番		測定項目	規格値	測定基準測定箇所	摘	要
3 河 川	1 築 堤	13 光 ケ	4	ハンドホール工	基 準 高 ▽	±30	1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合		
編	護岸	ブル			※厚さ t₁∼t₅	-20			
	71	配管			※幅 w ₁ , w ₂	-30			
		工			※高さ h ₁ , h ₂	-30			
3 河 川	3 樋 門	5 樋 門	6 1	函渠工 (本体工)	基準高 ▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前(載荷前) に測定する。		
編	· 樋 管	· 樋 管			厚さ t ₁ ~t ₈	-20	函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び 図面の寸法表示箇所で測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇		
	Ħ	本体			幅 W ₁ , W ₂	-30	所で測定。 プレキャスト製品使用の場合は、製品 寸法を規格証明書で確認するものと		
		エ			内空幅 w ₃	-30	し、『基準高』と『延長』を測定。		
					内空高 hı	±30			
					延 長 L	-200			
3 河川編	3 樋 門	5 樋門・	6 2	函渠工 (ヒューム管) (PC管)	基準高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m)以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。		
	樋 管	樋 管 本 体		(コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	延 長 L	-200	1 施工箇所毎		
		144 工							

海 : mm 摘 要

編	章	節	条 枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	SHil	定	筃	퍖	摘 勇	
			采 校金	工 種 魚道本体工			側 佐 奉 準 施工延長 40m (測点間隔 25mの場合		- 上	固	<i>I</i> 71	加多	*
3 河	5 堰	8 魚	3	無退本体上	基準高▽	±30	施工延長 40m(測点間隔 25mの場合 50m)につき 1 ヶ所、40m(又は 50r						
川編		道 工			厚さ t ₁ , t ₂	-20	以下のものは1施工箇所につき2ヶ月 (なお、製品使用の場合の製品寸法/	r̄.					
7/III					幅 w	-30	規格証明書等による)						
					高さ h ₁ , h ₂	-30							
					延 長 L	-200							
3河川編	5 堰	9管理橋下部工	2	管理橋橋台工	基準高 ▽	± 20 -20 -10 -10 -50 -50 -50 -50 ± 30 ± 50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両部、その他は図面の寸法表示箇所で定。						
					中心線の変 化	±50							

編	章	節	条 枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	海 要 海 要
3	6	4	6	本体工	基準高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。		
河川	排水	機場			厚 さ t	-20			
編	機場	本体			幅 w	-30			
		エ			高さ h ₁ , h ₂	±30			
					延 長 L	-50			
3 河	6 排	4 機	7	燃料貯油槽工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。		
川編	水機	場本			厚 さ t	-20			
柳	場場	体			幅 w	-30			
		工			高 さ h	±30			
					延 長 L	-50			
3 河	6 排	5 沈	7	コンクリート床版工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。		
川 編	水機	砂池			厚 さ t	-20			
孙田	場	工			幅 w	-30			
					高 さ h	±30			
					延 長 L	-50			

				1				1		単位:mm
編	草	節	条	枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 河			6		本体工	基 準 高 ▽	±30	図面に表示してある箇所で測定。		
川編	TT I	: 1			(床固め本体工)	天 端 幅 W ₁	-30		T.	
利用		エ				堤 幅 W ₂	-30		U_1 U_1 U_2 U_3	
) 					堤 長 L ₁ , L ₂	-100		$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	
	Ø,	>				水通し幅0 1, 0 2	±50			
									L_2 W^2	
3 河			8		水叩工	基 準 高 ▽	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。		
Л	TT I	: 11:				厚 さ t	-30	厚さは目地及びその中間点で測定。		
編		エ				幅 w	-100			
	房 匿					延 長 L	-100			
	×,									
3 河			6		側壁工	基 準 高 ▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所で測定。		
川編	ΙШ				_	天 端 幅 W ₁	-30	2. 上記以外の測定箇所の標準は、天 端幅・天端高で各測点及びジョイント		
利相		工			_	堤 幅 W ₂	-30	毎に測定。		
	月屋					長 さ L	-100	3. 長さは、天端中心線の水平延長、 又は、測点に直角な水平延長を測定。		
	Ø,									

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準測定箇所	摘 要
4 砂防編	1 砂防堰堤	3 工場製作工	4		鋼製堰堤仮設材製作工		$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所で測定。	
4 砂防編	1 砂防堰堤	8コンクリート堰堤工	4		コンクリート堰堤本体工	基準高▽ 天端部 W ₁ , W ₃ 堤幅 W ₂ 水通しの幅0 ₁ , 0 ₂ 堤長 L ₁ , L ₂	±30 -30 ±50 -100	図面の表示箇所で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定により管理を行う場合は、堤長の変化点で測定。	
4 砂防編	1 砂防堰堤	8コンクリート堰堤工	6		コンクリート側壁工	基準高▽ 幅 w ₁ , w ₂ 長 さ L	-100	1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定により管理を行う場合は、堤長の変化点で測定。	

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	涯	り 定	項目	∃	規	格	値	測	定	基	準	測 定 箇 所 摘 要
4 砂防編	1 砂防堰堤	8コンクリート堰堤工	8		水叩工		基準	高「	w t	-	±30 -100 -30 -100		基準高、幅 高、で測 厚 3 次元 ま (3 次元 素)」 (3 次元 と (3 次元 と (3 次元 と (3 次元 と (4 次元 と)」 (5 次元 と) (6 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元 と) (7 次元	、定及 測のこ次(長 そ 術気が言)」	は図面に の中間点 を用いる による。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	に表示してあ なで測定。 た出来形管理 測点の管理方 を用いた出来 により管理を	
4 砂防編	1 砂防堰堤	9鋼製堰堤工	5	1	鋼製堰堤本体工(不透過型)	水通し部 袖 部	福和福	さ0 ₁ , w ₁ ,	w ₃ Δ w ₂	± 0.	±50 =100 ±50 . 02H ±50 ±50 . 02H	1	 図面のま ダブルウ幅、袖高は 	オール	構造の場	場合は、堤高、	$\begin{array}{c c} 0 & 1 & W_1 & W_3 \\ \hline & 0 & 2 & W_1 & W_3 \\ \hline & & & & & & & \\ \hline & & & & & & \\ \hline & & & &$

単位: mm

	1							1		単位:mm
編	章	節	条	枝番		種	測定項目	規格値	測定基準測定箇所	摘要
4 砂 防	1 砂	9 鋼	5	2	鋼製堰堤本体工 (透過型)		堤長 L	±50	図面の寸法表示箇所で測定。	
編	防堰堤	製堰堤					堤長 ℓ	±10	<u>I</u>	
	埞	工					堤幅 W	±30	И	
							堤幅 w	±10		
									Twin it is	
							高さ H	±10	h h	
							高さ h	±10	H h h	
									w e e wiw e e	
									H	
									H	
									Wester	
									L L	
									H H	
									h h	
									elelelele ele	
1	1	1 1								

編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所	摘要
4	The X

単位: mm

-		ы.	-)m.,	10 D 20	Street and the State	New Jones and Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control	単位:mm
編	章	節		枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
4 砂	1 砂	9	6		鋼製側壁工	堤 高 ▽	±50	1. 図面に表示してある箇所で測定。		
防編	防堰	製堰				長 さ L	±100	2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、 幅、袖高は+の規格値は適用しない。	, Ł , w ₁	
///	堤	堤				幅 W ₁ , W ₂	± 50		↑ → ←	
		工				下流側倒れ Δ	$\pm 0.02 H$			
						高 h < 3 m	-50			
						h h ≥3m	-100		k→ W2 Δ	
4	2	5	8		魚道工	基準高▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は		
砂	流	床						50m) につき 1 ヶ所、延長 40m(又は		
防編	路	固め				幅 w	-30	50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。(なお、製品使用の場合、製品寸		
		工				高さ h ₁ , h ₂	-30	法については規格証明書等による。)	t1 w t2	
						厚さ t ₁ , t ₂	-20		h_2	
						延 長 L	-200		hı V	
									<u> </u>	
4	3	6	4		山腹明暗渠工			施工延長 40m(測点間隔 25mの場合は		
砂	斜	Щ	1		四成切哨米工	基準高▽	±30	50m) につき1ヶ所、延長 40m (又は		
防編	面対	腹水				厚さ t ₁ , t ₂	-20	50m)以下のものは1施工箇所につき2 ケ所。(なお製品使用の場合は、製品寸	t 1 W t 2	
7710	策	路				幅 w	-30	法については規格証明書等による)	h_1 h_2	
		工				幅 W ₁ , W ₂	-50		h ₁	
						高さ h ₁ , h ₂	-30		//~// h ₃	
						深 さ h ₃	-30			
						延 長 L	-200		$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	海 要 要
4 砂 防	斜	7 地 下	4		集排水ボーリングエ	削孔深さℓ 配置誤差 d	設計値以上 100	全数		
編	対	水			_				* \ 1	
	策	排除工				せん孔方向 θ	±2.5度		H $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
									3040	
									$a = \sqrt{x^2 + y^2}$	
4 砂		7 地	5		集水井工	基 準 高 ▽	±50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。		
防	面	下				偏心量d	150			
編	対策	水排				長 さ L	-100		4×	
		除工				巻立て幅w	-50		ر,] [±,	
						巻立て厚さ t	-30		H L	
									$\lim_{x \to \infty} \frac{1}{x^2 + y^2}$	
4 砂		9 抑	6		合成杭工	基準高▽	±50	全数測定。		
防編	面対	止杭				偏心量d	D/4以内かつ 100以内			
	策	エ								

							1					十三.11	
編	章	節	条 枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測	定	筃	所	摘	要
5 ダ	1 コ	4 ダ		コンクリートダム工	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。						
ム編	ンク	ムコ		(本体)	天 端 幅	±20	2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。						
л уни	IJ	ン			ジョイント間隔	±30	①天端高(越流部堤頂高を含む)は、						
	<u>-</u>	クリ			リフト高	±50	各ジョイントについて測定。②堤幅、リフト高は、各ジョイント						
	ダム	<u> </u>			堤幅	-30, +50	について 5 リフトごとに測定。 (注) 堤幅、リフト高の測定は、						
		工			堤長	-100	上下流面型枠と水平打継目の接 触部とする。(堤幅は、中心線又						
							は、基準線との関係づけも含む)						
							③ジョイント間隔(横継目)は、5 リ フトごと上流端、下流端を対象に						
							測定。 ④堤長は、天端中心線延長を測定。						
							(生)を及びは、 八畑十七/ 水延及で側足。						
							3. ①越流堤頂部、天端仕上げなどの平						
							坦性の測定方法は、監督職員の指 示による。						
							②監査廊の敷高、幅、高さ、平坦性						
							などの測定方法は監督職員の指示 による。						
5 ダ	1 コ	4 ダ		コンクリートダムエ	天端高▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。						
ム 編	ンク	ムコ		(水叩)	ジョイント間隔	±30	2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。						
лупа	IJ	ン			幅	±40	①天端高(敷高)、ジョイント間は各						
	<u>-</u>	クリ			長 さ	-100, +60	ジョイント、各測点の交点部を測定。						
	ダム	<u>-</u> ا					②長さは、各ジョイントごとに測定。 ③幅は、各測点ごとに測定。						
		工											
							3. 水叩の平坦性の測定は監督職員の指 示による。						

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測	定	筃	所	摘	
5 ダ	1 ¬	4 ダ			コンクリートダムエ	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。						
ラ ム 編	ーンク	グムコ			(副ダム)	ジョイント間隔	±30	2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準 とする。						
利用	IJ	ン				リフト高	±50	①天端高は、各ジョイントごとに測						
	<u>-</u>	クリ				堤幅	-30, +50	定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイント						
	ダム	<u>-</u> ۲				堤長	±40	について3リフトごとに測定。 (注)堤幅、リフト高の測定は、						
		エ						上下流面型枠と水平打継目の接 触部とする。(堤幅は、中心線又						
								は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3 リフトごと上						
								流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、各測点ごとに測定。						
								(生)をでは、 行側点ことに側た。						

編	章	節	条 枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測	定	筃	所	摘 身	
5	1	4		コンクリートダムエ	天端高▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所で測定。		•				•
ダム	コン	ダム		(導流壁)	ジョイント間隔		2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準						
編	クリ	コン			リフト高	±50	とする。 ①天端高、天端幅は、各測点、又は						
	<i>y</i>	ク			長 さ	±100	ジョイントごとに測定。						
	トダ	リー				±20	②リフト高、厚さは、各測点、又は ジョイントについて 3 リフトごと						
	4	トエ			- ター・ウー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		に測定。 (注)リフト高、厚さの測定は、						
							前面、背面型枠設置後からとす						
							る。なお、リフト高、厚さの測 定箇所は、前面背面型枠と水平						
							打継目の接触部とする。 ③長さは、天端中心線の水平延長又						
							は、測点に直角な水平延長を測定。						

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測	定箇	所	摘 要
5 ダム編	2 フィルダム	3 盛 立 工	5		コアの盛立	基準高▽	-0 -0, +500	各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種(タンピング ローラ)の場合				
5 ダム 編	2 フィルダム	3 盛立工	6		フィルターの盛立	基準高▽ 外側境界線 盛立幅	$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	各測点について 5 層毎に測定。				
5 ダム 編	2 フィルダム	3 盛立工	7		ロックの盛立	基準高▽	-100 -0, +2000	各測点について盛立5m毎に測定。				

編	章	節	冬	枝番	I.	種	測 5	· T百		#1	 格 値	湘山		並	淮	測	定	笛	正	単位:1	
л уни 5	2	비고	*	仅亩	フィルダム	1里						1. 図面の寸				19.1	Æ	凹	121	3101	女
ダ	フ				(洪水吐)		基準				20				1,70						
ム編	イル						ジョイ	ント	間隔	<u>+</u>	30	2. 1回/1加	色工箇所								
///110	ダ						厚	さ	t	<u>+</u>	20										
	ム						幅		w	<u>+</u>	40										
							リフ	١ ٦	高 さ	<u>+</u>	20										
							長	さ	L	±	100										
5 ダ	3 基	3 ボ			ボーリング工		深	度	L	設計	値以上	ボーリングコ 		コンク	リート面で						
ム編	礎グ	— У					配置	計誤	差	1	00	行うカーテン	/ グラウ	トに適り	用する。						
// /III	ラ	ン																			
	ウチ	グ エ																			
	ング																				
	9																				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道路編	1 道路改良	3 工場製作工	2		遮音壁支柱製作工	部 材 部材長ℓ (m)	$\begin{array}{ccc} \pm 3 \cdots & \ell & \leq 10 \\ \pm 4 \cdots & \ell & > 10 \end{array}$	図面の寸法表示箇所で測定。		
6 道路編	1 道路改良	9 カルバートエ	6		場所打函渠工	基準高 ▽ 厚さ t ₁ ~ t ₄ 幅 (内法) w 高 さ h 延 L < 20m 長 L ≧ 20m	±30 -20 -30 ±30 -50 -100	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇 所で測定。	t_1 w t_2 L t_3 h t_4 t_4 t_4	
6 道路編	1道路改良	11落石雪害防止工	4		落石防止網工	幅 w 延 長 L	-200 -200	1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理方 法を用いることができる。 ただし、「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)」の規定により管理を 行う場合は、延長の変化点で測定。		
6 道 路 編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	5		落石防護柵工	高 さ h 延 長 L	±30 -200	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は50m) につき 1ヶ所、施工延長 40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 1 施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方		
								法を用いることができる。 ただし、「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)」の規定により管理を 行う場合は、延長の変化点で測定。		

編	章	節	条 枝番	工種	測	定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	6	防雪柵工	高		さ h	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、施工延長 40m (又 は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。 「3 次元計測技術を用いた出来形管理 要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
					延		長 L	-200	1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理方 法を用いることができる。 ただし、「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)」の規定により管理を 行う場合は、延長の変化点で測定。		
					基礎	幅	W ₁ , W ₂	-30	基礎1基毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理方		
					促	高	å h	-30	法を用いることができる。		
6 道 路 編	1 道 路 改	11 落 石 雪	7	雪崩予防柵工	高		さ h	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、施工延長 40m (又 は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につ き 2 ヶ所。	L L	
	良	害防			延		長 L	-200	1 施工箇所毎		
		止工			基	幅	W ₁ , W ₂	-30	基礎 1 基毎		
					礎	高	さ h	-30	A Net	h MAXXX	
					長アルシ	打	込み Q	-10%	全数	W_1 W_2	
					* カ 	埋	込み l	-5%			
6 道	1 道	12 遮	4	遮音壁基礎工	幅		W	-30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、施工延長 40m (又	w A	
路編	路改	音壁			高		さ h	-30	は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につ き 2 ヶ所。	h	
	良	工			延		長 L	-200	1 施工箇所毎	<u> </u>	

単位: mm

編	章	節	条 枝番	工 種	浿	」 定 項 目	規格値	測	定	基	準	測 定 箇 所 摘 要
6 ¥	1	12	5	遮音壁本体工		間隔 W ₁ , W ₂	±15	施工延長52	スパンに	こつき 1	ケ所	L L
道路	道路	遮音			支	ず れ a	10					<u> </u>
編	改良	壁工			柱	ねじれ b-c	5					
						倒 れ d	h×0.5%					
					启	i å h	+30, -20					
					延	長 L	-200	1 施工箇所毎	:			b [↑] C

				1										I						
								規格	各 値											
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均(X ₁₀)	測	定	基	準	測	定	筃	所		摘	要
								中規模 小規模	中規模											
6	2	4			歩道路盤工		基準高▽	以上 以下 ±50	<u>以上</u> 一	基準高は片側	則延長 40	0m毎に	11ヶ所の割	工事規模の	考え方					
道路	舗装	舗装			取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工		盔华同 √			で測定。 厚さは、片側	川ズボ 巨 り	00 信	た1,形根	中規模と) の施	巨工面積		
編	衣	太工					厚 15cm	-30	-10	り起こして測	則定。			が 2000 III			甚層の	加熱ア		
							さ t ≧ 15cm	-45	-15	幅は、片側を	E長 80n	n毎に1	しヶ所測定。	スファルト 未満あるい		1 - 5 -7				
							幅	-100	_	※両端部2点	京で測定	ごする。		厚さは、個	マの測	定値が	10 個	に9個		
										「3次元計測	則技術を	用いた	出来形管理	以上の割る ばならない						
										要領 (案)」の	対定に	よる測		平均値(X	(10) に	ついて清	歯足し	なけれ		
										法を用いるこ	_ 2 % (でる。		ばならなV が 10 個未						
														は適用した	いい。					
														コアー採取						
														橋面舗装等に損傷を						
6	2	4			歩道舗装工			0		幅は、片側延	長 80m	毎に1	ヶ所の割で	他の方法に	よるこ	とが出き	来る。			
道	舗	舗			取合舗装工		厚さ	-9		測定。厚さに	は、片側	延長 2	200m毎に 1							
路編	装	装工			路肩舗装工 表層工		幅	-25	_	ヶ所コアーを	2採取し	て測定	-0							
										「3次元計》 要領(案)」			出来形管理							
										安頓 (条/] (法を用いるこ			点の官理力							

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘 要	Ħ.
6 道路編	2 舗装	5 排水構造物工	9		排水性舗装用路肩排水 工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 なお、従来管理のほかに「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 1ヶ所/1 施工箇所		
						延 長 L	-200	なお、従来管理のほかに「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
6 道	2 舗	7 踏	4		踏掛版工	基 準 高	±20	1ヶ所/1踏掛版		
路編	装	掛版			(コンクリート工)	各部の厚さ	±20	1ヶ所/1踏掛版		
77110		工				各部の長さ	±30	1ヶ所/1踏掛版		
					(ラバーシュー)	各部の長さ	±20	全数		
						厚 さ	_			
					(アンカーボルト)	中心のずれ	±20	全数		
						アンカー長	±20	全数		
6 道	2 舗	9 標	4	1	大型標識工	幅 W ₁ , W ₂	-30	基礎1基毎	<u>w₁</u>	
路編	装	識 T.			(標識基礎工)	高 さ h	-30	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理方	w ₂	
								法を用いることができる。	W ² h	
6 道	2 舗	9 標	4	2	大型標識工	設置高さ H	設計値以上	1ヶ所/1基		
路編	装	識工			(標識柱工)			「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	Н	

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘 要
6 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t 延 長 L	0∼+50 −200	接続部間毎に1ヶ所 接続部間毎で全数	(地上機器部) (地上機器部)
6 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	5	2	ケーブル配管工(ハンドホール)	基準高 ∇ ※厚さ $t_1 \sim t_5$ ※幅 w_1, w_2 ※高さ h_1, h_2	±30 -20 -30 -30	1ヶ所毎 ※印は、現場打ちのある場合	$ \begin{array}{c cccc} t_3 \\ w_1 \\ t_4 \\ \hline t_1 \\ \hline w_2 \\ \hline t_2 \\ \hline h_1 \\ \hline \end{array} $
6 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w 高 さ h	-30 -30	1ヶ所/1 施工箇所	

単位: mm

		, ,			T	-				T		1					単位: mm
編	章	節	条	枝番		種	測	定	項目	規格	値		定		準	測 定 箇 所	摘要
6 道路編	3橋梁下部	3 工場製作工	3		鋼製橋脚製作工		部		とベースプ トの鉛直度 δ (mm)	w/5	00	各脚柱、ベ	ースプ	レートを	測定。	ります。 pp柱 ベースプレート w	
							材	ベースプ	孔の位置	±2	2	全数を測定				0 00 8 d 8	
						-		レ - -	孔の径 d	0~		全数を測定 両端部及び		り立ており	定		
							仮組		中心間隔、 長L(m)	$\begin{array}{l} \pm 5 \cdots & L \\ \pm 10 \cdots & \\ 10 < L \\ \pm (10 + (L \\ 10) \cdots & \\ 20 \text{ m} \end{array}$	≦20m -20)/				JÆ:		
							立時		のキャンバ び柱の曲が δ (mm)	L/10		各主構の各				δ	
								柱の	D鉛直度 δ (mm)	10··· H≦ H··· H>		各柱及び片 H:高さ(部を測定		● H	
																10 in is 11 in is	

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工種	Ж	即 定 項 目	規格値	測定基準		単位:mm 摘 要
л ин 6	3	6 Ell	8		橋台躯体工				橋軸方向の断面寸法は中央及び両端	侧	10 女
道	橋	橋	O		川町 口 3位 件 工	1	基 準 高 ▽	±20	部、その他は寸法表示箇所。	h_2 h_2	
路編	梁 下	台工					厚 さ t	-20	箱抜き形状の詳細については「道路 橋支承便覧」による。	h_2 h_2 h_1	
孙田	部	上				Э	端 幅 w₁(橋軸方向)	-10	情又承便見」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計測	Ť	
							(備軸万円) 端 幅 w ₂	10	技術を用いた出来形管理要領 (案)」 で規定する出来形計測性能を有する	W3 W3	
						#	(橋軸方向)	-10	機器を用いることができる。(アンカ	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
							が 幅 w ₃ (橋軸方向)	-50	ーボルト孔の鉛直度を除く) ただし、「3次元計測技術を用 いた	hı hı t	
						青	あ さ h1	-50	出来形管理要領(案)」に基づき出来	t w ₃	
						形	可壁の高さ h₂	-30	形管理を実施する場合は、同要領に 規定する計測精度・計測密度を満た	順級問題 Q 支間長	
						7	三端 長 ℓ 1	-50	す計測方法により出来形管理を実施 することができる。		
						旉	長 ℓ 2	-50		G.	
						月	匈壁間距離 ℓ	±30		† <u>L1</u>	
							皮間長及び	±50		h1	
							中心線の変位	± 00	+ 7 40 - 7 . 1 . 1 . 2 . 10 . 1 . 10 . 10 . 10 . 1	* 1L2	
						支承部	리교호	110 00	支承部アンカーボルトの箱抜き規格 値の平面位置は沓座の中心ではな	中心線の変位 (a 1 : 橋軸直角方向) (a 2 : 橋軸方向)	
						部ア	計画高	$+10\sim -20$	く、アンカーボルトの箱抜きの中心 で測定。	a1 a2 +	
						ンカ			アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜き		
						ルーボ	平面位置	±20	を橋軸方向、橋軸直角方向で十字に 切った2隅で計測。		
						ル)	平面位置 平面図 :実際 :設計	
						トの					
						箱抜					
						き規	アンカーボルト 孔の鉛直度	1/50 以下			
						格	10、/ 近日日/文				
						値		_		アンカーボルト孔の鉛資産	
										明帝國 平帝國 ······ 投計	

単位: mm

編	章	節	条	枝番 工	種	測定項目		測定基準		描 要
6	早 3	7	9	1 橋脚躯体工	/里		が、1谷 1世	側 佐 華 革 橋軸方向の断面寸法は中央及び両端	似 亿 固 刀	1向 安
道	橋	R	9	1 作品外外公子上		基準高 ▽	± 20	簡軸方向の断面寸法は中央及び岡端 部、その他は寸法表示箇所。		
路編	梁下	C 橋		(張出式)		厚 さ t	-20	箱抜き形状の詳細については「道路 橋支承便覧」による。	- 	
Aplia	部	脚工		(反重力式)		天 端 幅 W ₁ (橋軸方向)	-20	なお、従来管理のほかに「3 次元計測 -技術を用いた出来形管理要領(案)」		
						敷 幅 w ₂ (橋軸方向)	-50	で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。(アンカ	₹	
						高 さ h	-50	ーボルト孔の鉛直度を除く)		
						天端長01	-50	- ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来		
						敷 長 0 2	-50	形管理を実施する場合は、同要領に 規定する計測精度・計測密度を満た	****	
						橋脚中心間距離 Q	± 30	す計測方法により出来形管理を実施 することができる。	rfi i'h	
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50	- 9 W - C N - C & W -	44	
						支承部計画高アン	+10~-20	支承部アンカーボルトの箱抜き規格 値の平面位置は沓座の中心ではなく、アンカーボルトの箱抜きの中心 で測定。	1.2	
						カ ボ 平面位置 ル ト	±20	- アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切った 2 隅で計測。	中心最初度性 (* 1 : 種類を方向) (* 2 : 種類方向)	
						の 箱 抜 き アンカーボルト 規 れの鉛直度 格 値	1/50 以下		平面位置・平面図・実際・設計・	
									アンカーボルトれの鉛直度 東西田 東西田 原計	

単位: mm

編	章	節	条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	海 要
編 6 道路編	章 3橋梁下部	節 7 R C 橋脚工	9 9	枝番 工 種 2 橋脚躯体工 (ラーメン式)	測 基 厚 天 敷 高 長 椰 W2	規格値 ±20 -20 -20 -50 -20 ±30 ±50 +10~-20 ±20	測 定 基 準 橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細について「3 次元計測 技術を用いによる。 なお、従来管理のほかに「3 次元計測 技術を用いに大変を関するとがで規定を用いるの 直度を除く) ただし、「3 次元計測技術を用いた出来形管理要値(案)」にだ「3 次元計測技術を用いた 出来形管理を験ができる。 形管理を実施する場合は、密度を 形管する計測による。 を実施する場合は、密度を 形管でする計測になった。 大変でする計測になった。 大変でする計測になった。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変であるである。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変であるであるである。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変である。 大変でなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	利定 箇所 平面位数 平面位数 平面位数 平面位数 平面位数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	摘要
6 道路編	3橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9	 橋脚フーチングエ (I型・T型) 	基準高▽ 幅 w (橋軸方向) 高 さ h 長 さ ℓ	±20 -50 -50 -50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。	$\begin{array}{c} \downarrow \\ \downarrow \\ \downarrow \\ \downarrow \\ \downarrow \\ \downarrow \\ \downarrow \\ \downarrow \\ \downarrow \\ \downarrow $	

編	章	節	条札	支番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6	3	8			橋脚フーチングエ	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端		
道 路	橋梁	鋼製			(門型)	幅 W ₁ , W ₂	-50	部、その他は寸法表示箇所。	h	
編	下部	橋脚				高 さ h	-50		h D	
		エ								
									\mapsto	
									$\mathbf{w}_2 \qquad \mathbf{w}_2$	
6 道	3 橋	8 鋼	10	1	橋脚架設工	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。	Q	
路編	梁下	製橋			(I 型・T型)	橋脚中心間距離 Q	±30	- IDC C (7 回 1 日本人) 1 回 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
利用	部	脚				支 間 長 及 び 中心線の変位	±50		4	
		エ							- 中心線の変性 (a 1 : 操動変角方向) (a 2 : 操動方向)	
									4	
									果果	
	0	0	1.0	0	£€ NHI DI ER. T			K++++ o M T - 1 1 1 1 1 1 1 T 2 1 T H		
6 道	3 橋	鋼	10	2	橋脚架設工	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。	u- <u>a</u>	
路編	梁下	製橋			(門型)	橋脚中心間距離 ℓ 支間長及び	±30		<u> </u>	
	部	脚工				文 间 長 及 い 中心線の変位	±50			
									中心機の変位 (a.1:爆動変角が向) (a.2:爆動が向)	
									4	
									東 東	
6	3	8	11		現場継手工	現場継手部のすき間	5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。		
道 路	橋梁	鋼製				δ_1 , δ_2 (mm)	※ ±5	※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		
編	下部	橋脚								
	טם	工								

編	章	節	条	枝番 工 種	測	」定	項目	規	柞	 各 値	測 定 基 準	要
6 道 路 編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	9	橋梁用高欄製作工	部材		才長ℓ (m)	+2	Q	≦ 10	図面の寸法表示箇所で測定。	
6 道 路 編	4 鋼橋上	5 鋼橋仮記	10	1 支承工 (鋼製支承)			け高さ : 1)		±	5	支承全数を測定。 B:支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、	
	部	設工			-		承の移動 : 注2)	設	計利以	多動量上	水平面の高低差を 1mm 以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。	
							中心間隔	コンクリー	橋	鋼橋	注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注 2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測	
					(#	喬軸區	重角方向)	±5			し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。	
					水平	,	橋軸方向		1/	100	注3) 可動支承の移動量検査は、架設完	
					度	橋	軸直角方向				了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。	
					Ī	方向 司一支	承の橋軸 のずれ 支承線上 対誤差		Ę	5		
							支承の 認 注3)			に伴う移 値の 1/2 上		

編	章	節	条 枝番	: I	種	測	定	項目	規	格	値	測	定	基	準	測	j ź	Ė	筃	所	摘	<u>IIIII</u> 要
6 道 路 編	4 鋼 橋 上	5 鋼橋仮	10 2	支承工 (ゴム支承)			据付に注	け高さ l)		±5		支承全数を 上部構造部 触面及びコ 接触面に肌	瀬定。 別材下面と ゴム支承と しすきが無	: ゴムラ : 台座 ⁼ {いこと								
	部	設工				-		氏の移動 注 2)		十移! 以上	動量	水平面の高	低差を 1	mm 以	人下の場合は、 下とする。な 付ける場合を							
									コンクリートオ	橋	鋼橋	注1) 先固知 する。	定の場合に	は、支	承上面で測定							
								心間隔 角方向)	±5			し、支承振	号付時のス 多動可能量	トフセ _: 遣が道』	a, Lb)を計測 ット量 δ を考 路橋支承便覧 在認する。							
						水平度		新軸方向		/30	00	注3) 可動3 了後に実施 詳細は、道	iする。		査は、架設完 途昭。							
						及	橋車	曲直角方向				11/14/10/ 12		(10,929	71110							
						F	方向@ 引一支	せの橋軸 Oずれ 承線上 け誤差		5												
								夏承の 注3)	動量計		に伴う移 直の 1/2 こ											

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路	4 鋼 橋	8 橋梁	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の 削孔長	設計値以上	全数測定		
編	部	付属物工				アンカーボルト定着長	-20 以内 かつ -1D以内	全数測定 D:アンカーボルト径 (mm)		
6	4	8	5		地覆工	地覆の幅 w ₁	-10∼+20	1 径間当たり両端と中央部の 3 ヶ所測		
道 路	鋼橋	橋梁				地覆の高さ h	$-10\sim +20$	定。	W1 W2	
編	当部	付属物				有効幅員 W ₂	0~+30		h	
		工								
6 道	4	8 橋	6		橋梁用防護柵工	天 端 幅 W ₁	$-5\sim+10$	 1 径間当たり両端と中央部の 3 ヶ所測 定。		
路	鋼橋	梁	7		橋梁用高欄工	地覆の幅 W ₂	$-10\sim +20$	た。	O h1	
編	上部	付属				高 さ h ₁	$-20 \sim +30$		h1	
		物 工				高 さ h ₂	$-10\sim +20$		W2 W3 W1	
						有効幅員w3	0~+30			
									h1	
6	4	8	8		検査路工			1 ブロックを抽出して測定。		
道	鋼	橋	O		7尺旦.妇工	幅	±3	17 プログラを加口して例だ。		
路編	橋上	梁 付				高 さ	±4			
	部	属物								
		エ								

編	章	節	条 枝番	工種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道路編	5コンクリート橋上部	6プレビーム桁橋工	2	プレビーム桁製作工(現場)	幅 w 高 さ h 桁 長 l スパン長 横方向最大タワミ	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 ①:スパン長	h w	
6 道路編	6 トンネル N A T M	4 支保工	3	吹付工		上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特	施工延長 40m毎に図に示す。 (1) ~ (7) 及び断面変化点の検測孔を測定。 注)良好な岩盤とは、「道路トンネル技術基準(構造編)・同解説」にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。	(2) (1) 全 (3) <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> で (4) <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u>	
6道路編	6 トンネル NATM	4 支保工	4	ロックボルトエ	位 置 間 隔 角 度 削 孔 深 さ 孔 径 突 出 量	ー ー ー プレート下面 から10cm以内	施工延長 40m毎に断面全本数検測。		

-	٠.	Eut ·	<i>h</i>			Ne	DH 12 22	New July Market National Property Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Co	1. 11年	
編	章	節	条	枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘	要
6 道	6 -	5 覆	3		覆工コンクリート工	基準高 (拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mに つき 1 ヶ所。		
路編	ンネ	エ				幅 w(全幅)	-50	(2) 厚さ (4) コンクリート打設前の巻立空間		
лута	ル					高さh(内法)	-50	を 1 打設長の終点を図に示す各点		
	N					厚さ t	設計値以上	で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。		
	A T					延 長 L	_	(p) コンクリート打設後、覆エコン クリートについて 1 打設長の端面		
	M							(施工継手の位置) において、図 t に示す各点の巻厚測定を行う。		
								(n) 検測孔による巻厚の測定は図の h (2) (3) 覆エコンクリート		
								(1)は 40mに1ヶ所、(2)~(3)は 100mに1ヶ所の割合で行う。 (4) (5) S.L.		
								なお、トンネル延長が 100m以下 (6) (7) (7) (7) のものについては、1 トンネル当た		
								り 2 ヶ所以上の検測孔による測定 を行う。		
								ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。		
								・良好な地山における岩又は吹付コン		
								クリートの部分的な突出で、設計覆 工厚の3分の1以下のもの。		
								なお、変形が収束しているものに 限る。		
								・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ		
								別途構造的に覆工の安全が確認され		
								ている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突		
								出。		
								・計測手法については、従来管理のほかに「3 次元計測技術を用いた出来形管		
								理要領(案)」で規定する出来形計測性		
								能を有する機器を用いることが出来る。		

単位: mm

6 道路編	ン	5 覆 工	5	床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は	
	M				厚 さ t	-30	_50m)につき 1 ヶ所、延長 40m(又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 - ヶ所。	
6 道	6 	6 イ	4	インバート本体工	幅 w(全幅)	-50	(1) 幅は、施工 40mにつき 1ヶ所。 (2) 厚さ	
路編	ン	ンバ			厚さ t	設計値以上	(イ) コンクリート打設前の巻立空間 を 1 打設長の中間と終点を図に示	
	ル	<u>-</u> ۲			延 長 L	-	す各点で測定。 (n) コンクリート打設後、インバー	1
	N A T M	I					トコンクリートについて 1 打設長 の端面(施工継手の位置)におい て、図に示す各点の巻厚測定を行 う。	, s.L.
6 道		8 坑	4	坑門本体工	基 準 高 ▽	±50	図面の主要寸法表示箇所で測定。	
路編		門工			幅 W ₁ , W ₂	-30		, W ₁
	ル				高 h < 3 m	-50		
	N A				h h ≥ 3 m	-100		h \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
	TM				延 長 L	-200		$\begin{array}{c} \\ \\ \\ \\ \\ \end{array}$

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
6 道 路 編	6トンネ	8 坑 門 工	5		明り巻工	基準高 (拱頂)	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長 40mにつき1ヶ所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①
孙钿	ルル	т.				幅 w(全幅)	-50	~⑩において、厚さの測定を行う。 <u>t↓</u>
	N					高さh(内法)	-50	h
	Α					厚 さ t	-20	$\left\{\begin{array}{c c} \left(\begin{array}{c c} w \end{array}\right) \end{array}\right\}$
	T M					延 長 L	_	
	IVI							(アーチ部) (個壁部) (フーチ部) (インバート部) (

								T		単位:mm
編	章	節	条	枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道	11 共	6 現	2		現場打躯体工	基 準 高 ▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表 」示箇所で測定。		
路編	同溝	場 打				厚 さ t	-20			
小柵	1#4-	構				内空幅w	-30		<u> </u>	
		築工				内 空 高 h	±30		t w t w t w t w t	
						ブロック長 L	-50			
6 道	11 共	6 現	4		カラー継手工	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所で測定。		
路	同	場				幅 w	-20		t 1	
編	溝	打構				長 さ L	-20		k—→	
		築工								
									W	
6 道	11 共	6 現	5	1	防水工	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂 版で測定。		
路編	同溝	場打			(防水)					
利相	件	構								
		築工							 	
6	11	6	5	2	防水工	厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。		
道 路	共同	現場			(防水保護工)	厚 さ t	設計組以上			
編	溝	打			(肉水体護工)					
		構築							t	
		I								

単位: mm

			1		T					<u></u>		単位:mm
編	章	節	条	枝番		測定	項	B	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道	11 共	6 現	5	3	防水工	高	さ	h	-20	図面の寸法表示箇所で測定。	t.	
路編	同溝	場打			(防水壁)	幅		W	±50		-¾ * - □	
ЛУ Н Н	144	構築				厚	さ	t	-20		h	
		工 工									<u>₩</u>	
6	11	7	2		プレキャスト躯体工					施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は		
道路	共同	プレ				基準	. 高	∇	±30	50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2		
編	溝	キャ				ш 1	1-4	·		ヶ所。ただし、基準高の適用は据付後 の段階検査時のみ適用する。	<u>L</u>	
		スト				7:1:	E	L	-200	延長:1施工箇所毎		
		構築				延	女	L	-200	-		
		I										
6 道	12 電	5 電	2		管路工	埋 診	设 深	t	0~+50	接続部 (地上機器部) 間毎に1ヶ所。		
路編	線共	線井			(管路部)	延	長	L	-200	接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】	G t	
利用	同	同									l¥	
	溝	溝工									00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00	
											k L	
											+tx (cd: t/1) +tx (cd: t/1)	
											接続部 接続部 (地上機器部)	

単位: mm

_									,		単位:mm
j	編	章	節	条	枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
; ;	6 道路編	12電線共同溝	5電線共同溝工	3		プレキャストボックス工(特殊部)	基準高▽	±30	接続部(地上機器部)間毎に1ヶ所。		
;	6 道路編	12 電線共同溝	6付帯設備工	2		ハンドホールエ	基準高▽ ※厚さt ₁ ~t ₅ ※幅 w ₁ , w ₂ ※高さh ₁ , h ₂	±30 -20 -30 -30	1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合	t ₃ w ₁ t ₄ t ₁ w ₂ t ₂ h ₁ L ₃ t ₄ t ₁ w ₂ t ₃ t ₄ t ₁ t ₄ t ₁ t ₄ t ₁ t ₄ t ₁ t ₄ t ₅ t ₅	

																		単位:	шш
							規	格値											
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の 測定値 (X)	測定値の平均 (X)	測	定	基	準		測	定	笛	所	摘	要
6 道 路	道路	舗装	5	1	切削オーバーレイエ	厚さ t (切削)	- 7	-2	基準高の差 ーレイ後の	「切削れ 基準高」	後の基準 の差で				1	£			
編	維持					厚さ t (オーバーレイ)	-9		中心とする。 幅は、延長	, 80m毎l	こ1 ヶ原		t 🕇		g	 	19 1-		
						幅 w	-25		箇所とする。 断面状況で	、間隔、		2 ヶ所/施工 ぬを変えるこ		事にお			 1性の項目を		
						延長 L		-100	とが出来る。				省略する				EIX*/*XII C		
						平坦性		3m プ ロフィルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm 以 下	要領(案)	の規定は	こよる	さ出来形管理 則点の管理方							

																						4-1	☑: mm
										規	格値												
Ĭ	編	章	節	条	枝番	エ	種	涯	則定項目	個々の 測定値 (X)	測定値の平均 (X)	測	定	基	準		測	定	筃	所		摘	要
j	道 路	14 道路維持	4 舗装工	5	2	(面管理	たは標高較差	(根	厚さ t 票高較差) (切削)	-17 (17) (面管理 として緩 和)	-2 (2)	理要領(案 施する場合 2. 計測は の点で設計)に基っ に適用す 切削面の 面との原	づき出来 ける。 の全面 ō 厚さ t ā	ハた出来形管 来形管理を実 とし、すべて または標高較			(£ 				
									厚さ t ーバーレイ)	-9	点/m2(平 する。 3. 厚さ t :	面投影は または標	面積当7	計測密度は1たり)以上と	^t →	7/8/	7T 64	<u> </u>	JAN -)			
									幅 W		-25	出する。 4. 厚さ (:	オーバー	-レイ)	高との差で算 は 40m毎に ベーレイ後の		声にす		装 w	日件の	百口士、		
								页	E長 L	-	-100	坐中间 07 左	一个开口	49 200	道端及びその	福行工 省略す	事にお ること	が出来	ょ、平. そる。	四1生(/)	共日 を		
									平坦性	_	3m プロフィルメーター (σ)2.4mm 以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm 以 下	5. 幅は、 し、延長 80 施工箇所と	延長 80:)m未満 する。	の場合	1ヶ所の割と は、2 ヶ所/ 数を変えるこ								
-	6 道	14 道	4 舗	7		路上再生	工		厚さ t		-30		三線 200:	m毎に	左右両端及び				Ę.				
	路編	路維持	装工					路盤工	幅 w 延長 L		-50 -100	中央の3点	を掘り走	起こして	〔測定。	t 7		87°~,	<u> </u>	TRI -	_		

単位: mm

													単位:mm
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定	1百 口	規格値	測 定	基準	測 定 箇 所	摘要
が抽	早	即	采	(文金)	<u></u>	悝	側化	垻 ㅂ	規格 但	鋼桁等	トラス・アーチ等	側 足 固 灯	摘 安
6 道路編	16 道路修	3 工場製	4		桁補強材製作工				$\pm 2 \cdots w \le 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \le 1.0$ $\pm 4 \cdots$	主桁・主構	各支点及び各支間 中央付近を測定。	h h h	
HIGH	繕	作工					フランジ幅 腹板高 腹板間隔	w (m) h (m) b' (m)	1. $0 < w \le 2.0$ $\pm (3 + w/2) \cdots$ 2. $0 < w$	床組など	構造別に、5 部材に つき 1 個抜き取っ た部材の中央付近 を測定。		
							フランジ	の直角度 δ(mm)	w/200	主桁	各支点及び各支間 中央付近を測定。	δ	
							圧縮材の	O曲がり δ (mm)	ℓ ∕1000	_	主要部材全数を測定。 & : 部材長 (mm)	δ Q	

第1章 管路編

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測 定 箇 所	摘要
下水道	1 管路	3 管きょ 工 (開削)	3 管路土工	管路掘削	深さ h 幅 B	± 30 - 50	マンホール間ごとに1箇所測定する。	$\begin{array}{c c} GL_{\sum} & & & \\ & & & \\ & & & \\ \hline & & & \\ & & & \\ \end{array}$	
下水道	1 管路	3 管きょ 工 (開削)	3 管路土工	管路埋戻	基準高	± 30	マンホール間ごとに1箇所測定する。		
下水道	1 管路	3 管きょ 工(開削)	4 管布設工	管布設 (自然流下管)	基準高 中心線の変位(水平) 勾配 延長 総延長 L	± 30 ± 50 ± 20% - /500 かつ - 200	基準高、中心線の変位(水平)は、マンホール間の中央部及び両端部を測定する。 延長 はマンホール間を測定する。		

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	1 管 路	3 管 きょ	管布	矩形渠 (プレキャスト)	基準高 中心線の変位(水	± 30	基準高、中心線の変位(水平)は、 施工延長20mにつき1箇所の割合で測 定する。		
道 		I C	設工		平)	± 50 ± 20%	-		
		開削)			 延長	- /500 かつ - 200	延長 はマンホール間を測定する。		
					総延長 L	- 200			
下	1 管	3 管	4 管 布	圧送管	基準高	± 30	施工延長40mにつき1箇所の割合で測 定する。		
水道	路	管 きょ エ	 		中心線の変位(水 平)	± 50			
		(開)			総延長	- 200			
下水道	1 管 路	3 管 きょ		砂基礎	基準高	± 30	各マンホール間の中央部及び両端部 等を測定する。		
道	哈	를 	管基礎工		幅 B	- 50		↑	
		開開削			厚さ h	- 30		h \	
								$ \stackrel{\sim}{\longleftarrow}_{B} $	
下	1 管	3 管		砕石基礎	基準高	± 30	各マンホール間の中央部及び両端部 等を測定する。		
下 水 道	路	管きょエ	管基礎工		幅 b	- 50			
		開			厚さ h	- 30			
		削)						b h	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
下	1 管 路	3 管	5 管	 コンクリート基礎 	基準高	± 30	各マンホール間の中央部及び両端部 等を測定する。		
下 水道	路	管きょエ	管基礎工		幅 b	- 30			
		開			厚さ h	- 30			
		削						h W	
) b	
下	1 管 路	3 管 きょ		まくら土台基礎	基準高	± 30	各マンホール間の中央部及び両端部 等を測定する。		
下 水道	路	さ エ	管基礎工						
		-(開削)							
下	1 管	3 管	5 管	はしご胴木基礎	基準高	± 30	各マンホール間の中央部及び両端部 等を測定する。		
水道	路	管きょエ	管基礎工		幅 b	- 30			
		開			厚さ h	- 30			
		削						b h	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
下	1 管	3 管		現場打水路	基準高	± 30	基準高、中心線の変位(水平)、 幅、高さ、厚さは、1打設長ごとに両		
下 水道	路	管きょ エ	水路築造丁		中心線の変位(水 平)	± 50	端部等を測定する。 1打設長が20m以上の場合は、20mにつき1箇所の割合で測定する。		
		開	Ĩ		幅 b	- 30		b t	
		削)			高さ h	± 30			
					厚さ t	- 20			
					勾配	± 20%			
					延長	- /500 かつ -200	延長 はマンホール間を測定する。 		
					総延長 L	- 200			
下	1 管	3 管きょ		鋼矢板土留	基準高	± 50	施工延長20mにつき1箇所測定する。 20m未満は、1施工箇所につき2箇所測 定する。	变位	
水道	路	동 고 도	管路土留		根入長 L	設計値以上	た 9 る。	$\Leftrightarrow \nabla$	任意仮設の 場合は除く
		(開	Ï		変位	100			Tag I G I S
		削)						<u> </u>	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
下	1 管 路	4,5 管	3 推	 推進工 	基準高	(mm) ± 50	 基準高、中心線の変位(水平)は、 推進管1本ごとに1箇所測定する。		
下 水道	路	管きょエ	推進工		中心線の変位(水 平)	± 50			
		小			勾配	± 20%			
		口径推進、			延長	- /500 かつ -200	延長 はマンホール間を測定する。		
		進、			総延長 L	- 200			
		推 進)							
下	1 管 路	4,5 管		空伏工	基準高	± 50	1施工箇所ごとに測定する。		
下 水道	路	管きょエ	立坑内管布設工		幅 b	- 30		← b	
		十(小	布設		高さ h	- 30			
		口径推進、	エ		中心のずれ	± 50		h (_)	
		進			延長	- 50		<u></u>	
		推 進)			勾配	± 20%			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測 定 箇 所	摘要
下	1 管 路	6 管	l —	掘進工	基準高	± 50	基準高、中心線の変位(水平)は、 セグメント5リングにつき1箇所測定		
· 水 道	路	管きょエ	次覆工		中心線の変位(水平)	± 100	する。		
		1 (シ	_		延長	- /500 かつ -200	延長 はマンホール間を測定する。		
		ールド			総延長 L	- 200			
		·)							
	1	6	4	 二次覆工	甘准古	. 50	 基準高、中心線の変位(水平)は、		
下 水 道	管路	管きょ	二次		基準高	± 50	施工延長40mにつき1箇所測定する。		
道	岭	ا ا ا	覆工		中心線の変位(水平)	± 50			
		1 (シ	_		二次覆工厚 t	- 20	二次覆工厚は、1打設につき端面で上下左右4点を測定する。		
		I ルド			仕上がり内径 D	± 20	仕上がり内径は、施工延長40mにつ き1箇所測定する。		
)			勾配	± 20%		▼ t	
					延長	- /500 かつ -200	延長 はマンホール間を測定する。		
					総延長 L	- 200			

編	章	節	条	工 種	測定項目	規 格 値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	1 管 路	7 管きょ 更:	3管きょ内	反転・形成工法	仕上がり内径 D	間以降の測定値で差がないこと	1スパンの上下流管口で測定する。 人が入って測定できる場合は、仕上 がり内径について1スパンの中間部 付近でも測定する。 それぞれ更生管円周上の6箇所で測 定する。	330° 既設管 更生管	最新版の 「管き」と 生工法にお ける設計・ 施工管理ガ
		更生工	面被覆工		更生管厚	6箇所の平均管 厚が呼び厚さ以 上で、かつ上限 は+20%以内と し、測定値の最 小値は設計更生 管厚以上とす る。	ル・30。 硬化直後と24時間以降で同じ測定 位置で計測し記録する。	270° D1 90° 210° 150°	イドライン (案)」に 準拠して実 施する。
下水道	1 管路	7管きょ更生工	3管きょ内面被覆工	製管工法	仕上がり内径 (高さ・幅)	平均内径が設計 更生管径を下回 らない	1スパンの上下流管口で測定する。 人が入って測定できる場合は、仕 上がり内径について1スパンの中間 部付近でも測定する。 それぞれ更生管の内側中央高さと幅 の2箇所で測定する。	270° 表面部材 既殺管 充てん材 90°	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測 定 箇 所	摘要
下	1 管 路	7 マ	標	標準マンホール工	基準高	± 30	1施工箇所ごとに測定する。		
水道	路	ンホー	準マン		幅 b (内法)	- 30			
		ルエ	ホ -		壁厚 t	- 20			
			ルエ		人孔天端高	± 30		_tt_	
								111111111111111111111111111111111111111	
下	1 管 路	7 マ		マンホール基礎工	基準高	± 30	1施工箇所ごとに測定する。		
水道	路	ンホー	標準マン		床堀深 H	± 30			
		ルエ	ホ 		基礎工幅 B1	- 50		H	
			ルエ		基礎工高 h1	-30			
					コンクリート工幅 B2	-30			
					コンクリート工高 h2	-10		h1 w w	
								$\begin{array}{c c} & B2 \\ \hline & B1 \end{array} \rightarrow$	

編	章	節	条	工種	測 定 項 目	規格値 (mm)	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘要	į
下水道	1 管路	7 マンホールエ	4 組立マンホール工	組立マンホール工	基準高 人孔天端高	± 30 ± 30	1施工箇所ごとに測定する。	GL	
下水道	1 管路	7 マンホールエ	5 小型マンホールエ	小型マンホール工	基準高 人孔天端高	± 30 ± 30	1施工箇所ごとに測定する。	GL (i.i.i.i.i.i.i.i.i.i.i.i.i.i.i.i.i.i.i.	
下水道	1 管路	8 特殊マンホー ルエ	4 躯体工	現場打ち特殊人孔	基準高 幅 B 高さ h 壁厚 t 人孔天端高	± 30 - 30 ± 30 - 20 ± 30	1施工箇所ごとに測定する。		

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測 定 箇 所	摘要
下	1 管 路	8 特		伏せ越し室 ・雨水 吐室	基準高	± 30	1施工箇所ごとに測定する。	\Rightarrow $t \leftarrow b \rightarrow t \leftarrow$	
下 水道	路	特 殊 マ ン	伏せ越し室		幅 b(内法)	± 30			
		ホ 			高さ h	± 30		^t	
		ルエ	雨水叶		厚さ t	- 20		_	
			吐室工					$\begin{array}{c c} & & & \\ & & & \\ h & & & \\ \hline & & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ \end{array}$	
下水道	1 管 路	8 特	伏	伏せ越し管	基準高	± 30	1施工箇所ごとに測定する。		
道))	特 殊 マ ン	伏せ越し		中心線の変位	± 30			
		ホールエ	し管工						

	l		ı			規格値			
編	章	節	条	工種	測定項目	スス 作品 iiii (mm)	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
下	1 管 路	8 特 殊	越	越流堰(雨水吐室)	基準高	± 10	基準高は、中央部および両端部を測 定する。		
下 水道	路	殊 マ ン	越流堰 (幅b(厚さ)	± 20	幅、高さ、延長は、1施工箇所ごとに 測定する。		
		ホ 	雨水		高さh(深さ)	± 30			
		ルエ	吐室)		延長L(長さ)	- 20		<u></u>	
								b ⋈	
								The state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the s	
								h	
								/ \	
下	1 管 路	8 特 殊		中継ポンプ施設	基準高	± 30	1施工箇所ごとに測定する。		
下 水 道	路	殊 マ ン			幅、長さ B	- 30			
		ホー			深さ h	- 30			
		ルエ			壁厚 t	- 20		h	
								$\longrightarrow \begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	
								t ^b t	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測 定 箇 所	摘要
下水道	1 管路	9 取付管およびます工	4 ます設置工	公共ます	ます深 h	± 30	1施工箇所ごとに測定する。	h	
下水道	1 管路	9 取付管およびます工	5 取付管布設工	取付管	延長(L)	- 200	1施工箇所ごとに測定する。	CJ.	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測 定 箇 所	摘要
下	1 管 路	12 立		立坑工	基準高	± 30	1施工箇所ごとに測定する。		
下 水 道	路	立 坑 工			寸法 B	± 100			
					深さ h	± 30		h	
								$ \longleftrightarrow B $	
下	1 管 路	12 立		立坑土工	基準高	± 30	1施工箇所ごとに測定する。		
水道	路	立 坑 工			砕石基礎幅b1	- 50			
					砕石基礎厚t1	- 30			
					底版コンクリート基準高	± 30		$egin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	
					底版コンクリート幅b2	- 30		$\begin{array}{c c} & & & & \\ \hline & & & \\ \hline & & & \\ \hline & & & \\ \hline & & & \\ \hline & & & \\ \hline & & & \\ \hline & & & \\ \hline \end{array}$	
					底版コンクリート厚t2	- 10		$\left \stackrel{bL}{\longleftrightarrow} \right $	

第2章 処理場・ポンプ場編

編	章	節	条	工種	測 定 項 目	規格値 (mm)	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
下	2 処	3 敷	4 法	盛土・切土	基準高	± 50	施工延長おおむね40mごとにつき1箇 所、40m未満は1施工箇所につき2箇		
水道	理 場 ・	敷地造成土工	法面整形		幅 W	- 100	所測定する。		
	ポン	光 土 エ	"		法長L<5m	盛土: - 100		L V	
	プ 場				法長L<5m	切土: - 200			
					法長L 5m	盛土: - 2%			
					法長L 5m	切土: - 4%			
下	2 処 理	6 本	担据制	土工(掘削)	基準高	± 50	施工延長おおむね40m(小規模なものは20m)ごとに基準測線を設定し、基準高を10mごと、変化点ごとに測定		
水道	世 場 ・	本体作業土工	削 工		幅B	- 100	学同で10111こと、	$ \overleftrightarrow{B} $ $ \overleftrightarrow{B} $	
	ポンプ場	主 工						B	
下	2 処	7 本	2 ±	土留・仮締切工 (H鋼杭、鋼矢板)	基準高	± 50	施工延長20mにつき1箇所測定する。 20m未満は、1施工箇所につき2箇所測 定する。	変位	
水道	理 場 ・	本体仮設	留・仮		根入長 L	設計値以上	AE 9 5%		任意仮設の 場合は除く
	ポンプ	Î	締切		変位	100		L	2 El sesta. 1
	プ 場		I						

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
下	2 処	7 本	3 地	コンクリート壁	基準高	± 50	基準高は施工延長40m(測点間隔25m の場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものについては1	<u> </u>	
水道	理 場 •	本体仮設	中連続		地中壁の長さ L1	- 50	施工箇所につき2箇所測定する。		
	ポン。	Î	壁工		垂直変位	300	垂直変位は施工延長20m(測点間隔 25mの場合は25m) につき1箇所、延長 20m(又は25m) 以下のものは1施工箇		
	プ場				壁体長 L 	- 200	所につき2箇所測定する。		
下	2 処	7 本	4 地	ソイル壁	基準高	± 50	基準高は施工延長40m(測点間隔25m の場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものについては1		
水道	理場	本体仮設	地中連続		地中壁の長さ L1	- 50	施工箇所につき2箇所測定する。		
	ポン。	Ï	続壁工		垂直変位	口4以内	垂直変位は施工延長20m(測点間隔 25mの場合は25m)につき1箇所、延長 20m(又は25m)以下のものは1施工箇	← 	
	ぱ				壁体長 L 	- 200	所につき2箇所測定する。		
下	2 処	8 本		構造物基礎	幅 W	設計値以上	施工延長20mにつき1箇所以上測定する。施工延長20m以下は、1施工箇所につき2箇所測定する。		
水道	理 場 •	本体築造丁	直接基礎		厚さ t	設計値以上	ノウム画が 別たり る。	→ (
	ポンプ	Ī	工		延長	各構造物の 規格値による		→ V DD W	
	場場								

編	章	節	条	工種	測 定 項 目	規格値 (mm)	測定基準	測 定 箇 所	摘要
下	2 処	8 本		既製杭	基準高	± 50	全数について杭中心で測定する。	→ - <	
下 水道	処 理 場・	本体築造工	既製杭工		根入長L	設計値以上		<u> </u>	
	ポン	Ī			偏心量	D'4以内かつ 100mm		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
	プ 場							施工	
下	2 処	8 本		場所打ち杭	基準高	± 50	全数について杭中心で測定する。	→ 	
下 水道	処 理 場・	本体築造工	場所打ち杭工		根入長L	設計値以上		→ D← 	
	ポン	Ī	杭工		偏心量	び4以内かつ 100mm		1	
	プ 場				杭径 D	設計値以上			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測 定 箇 所	摘要
下	2 処	8 本	7.8 オニ	ケーソン基礎	基準高	± 100	打設ロットごとに測定する。	$\nabla \stackrel{p}{\longleftrightarrow} \stackrel{r}{\longleftrightarrow} $	
下 水道	処 理 場 •	本体築造工	ープンケー		長さし	- 50			
	ポン		ケーソク		幅 b	- 50		$\left \begin{array}{c} \\ \\ \end{array} \right \left \begin{array}{c} \rightarrow \\ \downarrow \\ \end{array} \right \left \begin{array}{c} \rightarrow \\ \downarrow \\ \end{array} \right $	
	プ 場		ンケー		高さ h	- 100		h	
			・ン基礎工 一般工		壁厚 t	- 20			
			礎 工		偏心量	300以内			
下	2 処	8 本	9	池・槽の主要構造物	基準高	± 30	1池(又は1槽)について、図面の主 要なる寸法表示箇所を測定する。		
下 水 道	処 理 場 ・	本体築造工	躯体工		幅 b	± 30		_⊽ t	
	ポン				高さ h	± 30		t h	
	プ 場				壁厚 t	- 20		$h \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{\sqrt{1 + \frac{1}{2}}} \frac{1}{$	
					主仔(ただし 床版厚 - 10		b b	
					長さ	± 50			
下	2 処	8 本	9	池・槽の付属構造物	基準高	± 20	1施工箇所ごとに図面の主要なる寸法 表示箇所を測定する。		
下 水道	処 理 場 ・	本体築造工	躯体工		幅 b	± 20		<u></u> b	
	ポン	Ī			高さ h	± 20		— h	
	プ 場				壁厚 t	± 10		$\begin{array}{c c} & & & \\ \hline & t & \\ & & \\ & & \\ & & \\ \end{array}$	
					長さ	± 50			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測 定 箇 所	摘要
下水道	2 処理場・ポンプ場	8 本体築造工	9躯体工	開口部	幅 b 高さ h	± 20 ± 20	永久開口部ごとに測定する。	$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	
下水道	2 処理場・ポンプ場	8 本体築造工	9躯体工	ゲート用開口部	基準高幅 b 高さ h	- 20 + 0 + 0 + 20 ± 20	開口部ごとに測定する。 - - - - - -	b h	
下水道	2 処理場・ポンプ場	8 本体築造工	9 躯体工	可動せき用開口部	基準高 幅 b 高さ h	- 20 - 0 + 20 ± 20	開口部ごとに測定する。	$ \begin{array}{c} $	
下水道	2 処理場・ポンプ場	8 本体築造工	11 越流樋工	流出トラフ	基準高 幅 b 高さ h 厚さ t	±20 ±20 -20 ±20 ±50	基準高は、1施工箇所ごとに交差点等を測定する。 幅、高さは、各池の1施工箇所について 3箇所測定する。 長さは、各池外周部の1施工箇所について測定する。		

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測 定 箇 所	摘要
下	2 処	8 本		越流堰	基準高	± 20	基準高は、中央部及び両端部を測定 する。		
水道	処 理 場	本体築造工	越流堰板工		幅 b	± 20	幅・高さは、1施工箇所ごとに測定す る。	$\stackrel{\triangledown}{\longleftrightarrow}$	
	ポンプ		Ï		高さ h	- 20		<u>b</u>	
	プ 場				長さ	± 20			
下	2 処	8 本		燃料貯留槽工	基準高	± 30	設計図の寸法表示箇所を測定する。	L	
水道	処 理 場	本体築造工			厚さ t	- 20			
	ポン	Î			幅 w	- 30			
	, プ 場				高さ h	± 30			
					延長 L	- 50		<u> </u>	
下一	2 処 理	9場	10管	流入渠・流出渠	基準高	± 30	設計図の寸法表示箇所を測定する。	t	
水道	埋 場 ・	場内管路工	管布設工		幅 b	- 30		♦	
	ポンプ	Î			高さ h	- 30			
	ブ 場				厚さ t	- 20			
					延長	L<20m - 50 L 20m - 100			

プルーフローリング試験

<u> </u>	<u> </u>				請負金	会社名			
<u>I.</u>	種 名				<u>測</u>	官 者		Ĕ	<u>11 </u>
項	B			事	項			備	考
天	候			測定司	面の含水状	况			
試験	区間	No.		~	~No.				
載布	ず 車	型式			接地	圧			
載荷	状況	予備載荷回]数	1	可 本載荷		km/h		
				試	験 結	果			
視察	-	No. ⊖	No. ⊖	No. ⊕	No. ⊖	No. ⊖	No. ⊖	No. ⊖	
展開図	- - -	No. ⊖	No. ⊕	No. 	No. Θ	No. ⊖	No. ⊕	No. ·⊖	
視察記事									
異状箇所の処置									